学校法人片柳学園

大学でも専門学校でも
片柳学園なら
多彩な進路が選べる！

東京工科大学

〈蒲田キャンパス〉〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22 0120-444-925
〈八王子キャンパス〉〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1 0120-444-903
http://www.teu.ac.jp/

蒲田キャンパス

デザイン学部
医療保健学部
看護学科／理学療法学科／作業療法学科
臨床工学科／臨床検査学科

大学院 デザイン研究科(2019年4月設置認可申請中)

八王子キャンパス

工学部 機械工学科／電気電子工学科／応用化学科
コンピュータサイエンス学部
メディア学部
応用生物学部

大学院 工学研究科(2019年4月新設)／バイオ・情報メディア研究科

東京工科大学で学ぶ
〈学士〉取得

日本工学院から東京工科大学へ編入
〈専門士〉+〈学士〉取得

日本工学院で学ぶ
〈専門士〉〈高度専門士〉取得

クリエイターズカレッジ
放送芸術科＊
声優・演劇科
演劇スタッフ科●
マンガ・アニメーション科四年制◆※
マンガ・アニメーション科＊

デザインカレッジ
ゲームクリエイター科四年制◆※
ゲームクリエイター科＊
CG映像科(3年制)
グラフィックデザイン科(3年制)＊
Webクリエイター科(3年制)
インテリアデザイン科(3年制)
プロダクトデザイン科(3年制)

ミュージックカレッジ
ミュージックアーティスト科
プレイヤー/ヴォーカリスト/
サウンドクリエイターコース
コンサート・イベント科＊
音響芸術科＊
ダンスパフォーマンス科●

ITカレッジ
ITスペシャリスト科(4年制)◆※＊
情報処理科＊
パソコン・ネットワーク科＊
情報ビジネス科＊

テクノロジーカレッジ
ロボット科●＊
電子・電気科＊
一級自動車整備科(4年制)●◆※＊
自動車整備科●＊
環境・バイオ科●＊
応用生物学科●＊
建築学科(4年制)◆※＊
建築設計科＊
土木・造園科●＊
機械設計科＊

医療・保育カレッジ
医療事務科●＊
診療情報管理士専攻科(1年制)●
鍼灸科(3年制)●＊
柔道整復科(3年制)●＊
こども学科●＊
保育士/幼稚園教諭・保育士コース

スポーツカレッジ
スポーツトレーナー科三年制●＊
スポーツトレーナー科●＊
スポーツ健康学科三年制●＊
スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース
スポーツ健康学科●＊
スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース

＊職業実践専門課程認定学科 ◆編入制度あり ※高度専門士付与学科
●日本工学院専門学校のみ設置 ●日本工学院八王子専門学校のみ設置

日本工学院

日本工学院専門学校 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 0120-123-351
日本工学院八王子専門学校 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 0120-444-700
http://www.neec.ac.jp/
姉妹校：日本工学院北海道専門学校

学校法人 片柳学園
日本工学院専門学校 校友会誌

かまた

発行・平成30年8月31日
No.54

片柳学園創立70周年・校友会50周年
記念特集号

表紙のことば

表紙口絵：
創立者・学園長・
校友会名誉顧問

片柳　鴻

「ざくろ」　1984年（昭和59年）

蒲田キャンパスの一角に「ざくろ」の木がありました。決して大きくなかったのですが、毎年見事な実を付けて、我々の目を楽しませてくれました。その後、庭園の改造により、別の場所に移植したところ、残念ながら枯れてしまいました。この絵は移植直前に描いた作品です。常々「ざくろ」を描こうと思っており、一番見ごろの「ざくろ」をもぎ取って題材にしました。

当時としては、意外なほど良く描けましたので、現在は役員応接室に飾っており、昨年の創立70周年にはリトグラフにして、記念品と致しました。「ざくろ」は画面の効果を上げるモチーフです。その後も何回か挑戦しましたが、この絵のようには描けず、絵というものの厳しさを改めて痛感しております。

新生片柳学園の船出を祝う会

花信相次ぐ4月1日、港区白金台にある八芳園で「新生片柳学園の船出を祝う会」が執り行われました。

まずは片柳学園長から「これまでの片柳学園の歴史とこれからについて」、そして千葉新理事長から「片柳学園の新たな出発についての決意」を込めたご挨拶がありました。

そして今年の4月就任されました、前野新校長から、これまでのご経験とこれからの抱負についての熱のこもったご挨拶がありました。

学園代表者、また理事や評議員の方々をはじめ多くの関係者の皆様を交え楽しい会話と共に和やかに会は進み、新生片柳学園はめでたく大海原へ出航いたしました。

高名な庭園には、桜の最も美しいと言われる散り際の景色と天気にも恵まれ、この会をより一層華やかに演出していました。

★ CONTENTS（目次）はP.78になります

片柳学園創立70周年記念祝賀会 盛大に開かれる!

平成29年10月13日、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」に静かな音楽が流れ、会場内には続々と本学園にご縁のあるお客様が来場されました。今回の式典では、約720名のお客様全員を着席スタイルにてお迎えいたしました。

大型スクリーンに映し出されたオープニングムービーでは、教育方針として70年間貫いてきた「理想的な教育は理想的な環境にあり」の文字が浮かび上がり学園の歴史を綴り始めました。いよいよ片柳学園創立70周年記念祝賀会の開催です。司会者の元フジテレビアナウンサー八木亜希子さんから、片柳理事長（現学園長）が紹介され、登壇と同時に大きく右手を挙げられ元気なお姿をご来賓の方々に披露されました。

「こうして70周年を迎えられたことは、ご列席いただいた関係各位のみなさまのご支援ご協力のたまものと、また私とともに協力いただいた教職員のお蔭であります。御礼を申し上げるとともに感謝申し上げます。」とご挨拶いただき、去る10月8日の誕生日に御年97歳を迎えられたことをお話しになりますと、会場全体から大きな拍手が湧きました。その後本校卒業生の活躍を紹介、学園の永き歴史に触れ、一つ一つのお話がすべてのお客様の心に響きわたったようでした。

学園の発展に尽くされた各界の著名人より、以下のご来賓祝辞を賜りました。

▼ご来賓祝辞

○学校法人根津育英会 武蔵学園 学園長
有馬朗人 様
「徹底的に若者の力を伸ばすことが大事」

○文部科学省 高等教育局 私学部 部長 村田善則 様
「学園に対する期待は今後もますます大きくなる」

○大田区長 松原忠義 様
「大田区に多大な協力をいただいて」

○石森孝志八王子市長、小笠原春一登別市長、
清原慶子三鷹市長元メディア学部長ご紹介。

○日本私立大学協会 会長 学校法人文化学園 理事長
大沼 淳 様
「今日まで支えていただいたことに感謝」

乾杯は東京工科大学 軽部征夫学長からご発声いただきました。

▼学長による乾杯

祝宴に入りました。

会場内は70周年を迎えた片柳学園の話で盛り上がり、理事長（現学園長）、副理事長（現理事長）、軽部学長は各テーブルをご挨拶しながら回りました。

宴の途中でご来賓のご祝辞をいただきました。

▼ご来賓祝辞

○国立研究開発法人科学技術振興機構 特別顧問
吉川弘之 様
「片柳先生の思想を継いだ教育がやりたい」

○前衆議院議員 平 将明 様「人財育成」

その後、卒業生代表として日本工学院校友会会長 桂田忠明様から理事長（現学園長）に記念品の贈呈がありました。

▼記念品贈呈

日本工学院専門学校校友会 会長 桂田忠明 様から「学校への謝辞」と「時計塔」目録を手渡しされました。

▼ゲストによる花束贈呈

スペシャルゲスト原日出子様からご挨拶ならびに理事長へ花束贈呈。

「学生時代のこと」「母校の発展」についてご挨拶いただきました。

▼バイオリン演奏

祝宴中イベントとして、NHK大河ドラマ『真田丸』のオープニング音楽でソリストを務めた三浦文彰氏によるバイオリンの演奏がありました。

最後に、千葉 茂副理事長（現理事長）による中締めとして「本学園の教育と未来像」についてお話しいただき、今後の学園の発展を祈念し、閉会の挨拶をされました。

Message

「校友会の新たな50年のために」

校友会会長
桂田 忠明
放送技術部・昭和36年卒業
セントラル電子制御株式会社・代表取締役

本校卒業生の皆様は、お元気でご活躍のことと心からお喜び申しあげます。

わが校友会は、昨年10月、母校の創立70周年と共に校友会創立50周年を祝うことが出来ました。こうした二重の祝いを記念して、蒲田キャンパスの庭園にモニュメント時計を寄贈させていただきました。卒業生の皆様が蒲田にお越しの折には、立派で美しい蒲田キャンパス3号館の校舎と共に、校友会が母校に寄贈したモニュメント時計をご確認いただきたいと存じます。また、3号館の正面には、今から20年前、母校の創立50周年の際に校友会が贈呈した国旗・校旗掲揚ポールもございます。併せてご確認いただければ幸いです。

このように今年で51年目を迎える校友会ですが、すでに15万人を超える卒業生を正会員としており、在校生である準会員の方も現在約6,000名を超える程の大きな組織になっております。また、わが校友会は、正会員の皆様が本校卒業後どこにお勤めし、どこにお住まいであっても同じようなサービスが得られるようにと、全国40支部のほか、韓国、台湾にも支部を設け、それぞれ活発な活動を行っております。各支部の行事に参加された正会員の皆様が、先輩・後輩、卒業学科、職業等の枠を超えた自由で有益な情報交換のみならず、地元の美酒・名産を参加者一同でたしなむ懇談の場、更には、同窓同士の心のよりどころとなる場でもあることが実感いただけるよう、日々努力を重ねているところであります。

私は、51年目となる校友会が、これを契機に今後を見据えた改革を実行することも急務であると感じております。母校である日本工学院は、古くはテレビ技術者、コンピュータ技術者養成を中心とした教科から、今や社会の要請に応えるべく、テクノロジー、IT、クリエイター、デザイン、ミュージック、医療・保育と、広範囲な分野の専門家を養成するカレッジに大きく変貌しております。当然の事ながら、わが校友会は、こうした多種多様な分野の卒業生の方々にも十分満足していただける組織に変えていかなければなりません。それには、こうした各カレッジの卒業生にも積極的に加わっていただき、個々のお考えを十分に伺い、今後の校友会活動・運営に反映させていくべきであると考えます。

もう一つは、支部役員としての女性の登用です。全42支部の内、女性が支部長としてご活躍頂いている支部は2つしかありません。女性活躍社会を標榜する今日、校友会の支部長、副支部長にも多くの女性にご登場いただき、女性の観点からの改革と活性化をなし得たいと願うものです。

全ての会員の皆さまの校友会行事への積極的なご参加と、校友会に対するこれまで以上のご協力を切にお願い申し上げます。

蒲田キャンパス庭園のモニュメント時計

国旗・校旗掲揚ポール

理事長
千葉 茂

校友会誌「かまたNo.54」にむけて

校友会会員の皆様こんにちは。皆様におかれましては、各々の分野でご活躍のことと思います。皆様の母校である日本工学院専門学校は、この春も約3,000名もの入学生をお迎えして、新たなスタートを切りました。

年々少子化が進み、学生確保に苦労する学校が多い中で、本校におきましては、毎年多くの新入生を迎えられますことは、教職員の学生に対する熱心で親切な指導に加え、卒業生の皆様が社会でご活躍されているからこそであり、心より御礼申し上げる次第です。

さて、春のキャンパスは入学したてのフレッシュな学生が学内を楽しそうに行き来する一方で、卒業期の学生たちは就職活動用のダークスーツを着て、真剣な面持ちです。既にスタートしている企業説明会などで企業と向き合う姿も見受けられます。

近年は少子高齢化やより人手を必要とするサービス業の進展により、人手不足の状況が続いており、企業からの求人も年々増加している傾向で、多くの企業が本校に足を運んで頂いております。特に時代を反映して、IT業界からの求人が目立っております。

本校は、昨年創立70周年を迎えましたが、これからの10年はAIやIoTの進展により、大きく社会が変化する時代と考え、これまでの専門力と人間力に加え、想像力も身に付けた新しい人材を生み出す教育に挑戦して参ります。

これからは、協働、協創の時代と言われております。様々な分野を専門とする多くの卒業生のネットワークが皆様の力になりますので、積極的に校友会活動にご参加頂きたいと思っております。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

校 長
前野 一夫

校友会誌「かまたNo.54号」ごあいさつ

校友会会員の皆様こんにちは。本年4月より本校の校長を拝命しました前野と申します。今春で71年目を迎えた伝統ある片柳学園に着任し、蒲田駅から仰ぐ素晴らしい高層キャンパスへ身の引き締まる思いで通っております。

社会の少子高齢化が年々進み、全国各地で学生確保に苦労する大学や専門学校が目立つようになるなかで、日本工学院専門学校が毎年変わらず多くの新入生を迎えられることは、卒業生の皆様が社会で大いに活躍し、本校を支えていただいてきたおかげであると、心より感謝申し上げます。

本校の教育に関しましては、昔と変わらず教職員が一丸となって、これまでの専門性の高い技術習得に加えて、さらに創造性を育み自由な発想力を養うユニークな授業を進めています。また地域と連携し、地域テーマの解決に皆で協働するような、社会性を育む授業も取り入れており、自身のヤル気を引出し、自ら学ぶ意欲の高い学生の育成に取り組んでおります。これからも後輩を採用したいというお申し出には、積極的にお応えしたいと思いますので、是非お声をかけていただければ幸いです。

蒲田の高層キャンパスから年々変化する東京湾・羽田空港や都心部の高層ビル群を眺めるとき、本校蒲田キャンパスの歴史・伝統と、産業界を始めとする日本社会・文化芸術への本校の役割と大きな寄与をあらためて思うとともに、各界での皆様のさらに一層のご活躍を祈り、校友会活動への熱い篤いご支援ご参加をお願いする次第です。

伝統ある蒲田のキャンパスで共に学んだ校友会の皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念して、ごあいさつといたします。

校友会だより **第29回**

通常総会 報告

日　時　平成30年6月9日（土）15:00～16:30
於　日本工学院専門学校
31005教室（3号館10階）
出　席　42支部（支部長・副支部長）・顧問
挨　拶　桂田 忠明　会長

第29回校友会通常総会は、現在声優として活躍している俳優・声優科（現、声優・演劇科）卒業生の吉岡さくらさんの総合司会で始まりました。

植木敏郎副会長（新潟県支部支部長）の開会の辞に続き、桂田忠明会長、千葉理事長、前野校長にご挨拶をいただきました。そして議長に野里和弘副会長（青森県支部支部長）、副議長に奥川宏副会長（静岡県支部支部長）を選出し、6つの議案が審議され、承認されました。次回、第30回通常総会の開催を2019年6月8日（土）に決め、清田茂信副会長（熊本県支部支部長）の閉会の辞により終了いたしました。

総会終了後は3号館12階の学生ラウンジにて懇親会が行われました。今年も教員による学科の様子などの紹介もあり、賑やかな会となりました。

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 理事長挨拶
4. 校長挨拶
5. 議長、副議長および議事録署名人の選出
6. 議案審議
   - 第1号議案　役員選任について
   - 第2号議案　平成29年度事業報告
   - 第3号議案　平成29年度収支決算報告および監査報告告
   - 第4号議案　平成30年度事業計画（案）
   - 第5号議案　平成30年度収支予算（案）
   - 第6号議案　その他
7. 議長、副議長の解任
8. 閉会

◉平成29年度収支決算報告（第3号議案）
（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	76,042,670	会誌「かまた」等制作費	12,467,307
校友会会費	31,536,000	総会諸費用	2,532,150
会誌「かまた」広告	280,000	地区支部長会議諸経費	1,940,107
受取利息	0	支部事業費	6,239,023
雑収入	130,324	準会員支援費	120,398
		ウェブサイト経費	1,671,840
		事務管理費	94,320
		人件費	972,433
		校友会50周年記念事業費	9,143,209
		予備費	0
		当期支出計	35,180,787
		次年度繰越	72,808,207
収入の部計	107,988,994	支出の部計	107,988,994

◉平成30年度予算書（第5号議案）

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	72,808,207	会誌「かまた」等制作費	13,700,000
校友会会費	34,896,000	総会諸費用	2,900,000
会誌「かまた」広告	300,000	地区支部長会議諸経費	2,550,000
受取利息	0	支部事業費	6,910,000
雑収入	30,000	準会員支援費	300,000
		ウェブサイト経費	2,000,000
		事務管理費	1,000,000
		人件費	3,441,140
		校友会50周年記念事業費	0
		予備費	500,000
		支出の部計	33,301,140
		次年度繰越	74,733,067
収入の部計	108,034,207	支出の部計	108,034,207

校友会通常総会の詳細

【常総会出席状況】
代議員 …… 38支部
欠　席 …… 4支部
役　員 …… 5名
顧　問 …… 5名
議長への委任 … 5名（代議員3名、顧問2名）
事務局 …… 1名
以上により、過半数の出席を確認、日本工学院専門学校校友会会則第30条に基づき、本総会は有効に成立することが認められた。

▼ 司会：吉岡 さくら
1. 開会
開会宣言：野里 和弘 副会長（青森県支部支部長）
2. 会長挨拶：桂田 忠明 会長
3. 理事長挨拶：千葉 茂 理事長
4. 校長挨拶：前野 一夫 校長
5. 議長、副議長および議事録署名人（2名）の選出
【議　長】野里 和弘 副会長（青森県支部支部長）
【副議長】奥川 宏 副会長（静岡県支部支部長）
【議事録署名人】早川 一夫 山口県支部支部長
高野 雅勝 高知県支部支部長
【書　記】事務局
6. 議案審議
【第1号議案】役員選任について[事務局・大西 智之]
① 平川 進 首都圏支部副支部長が常任幹事・会計幹事に選任された。
② 吉村 哲正 鳥取県支部支部長が近畿・中国・四国地区の地区幹事に選任された。
【第2号議案】平成29年度事業報告[事務局・大西 智之]
① 校友会誌および校友会のしおりの発行
② 通常総会・支部会員の集いの開催
③ その他
【第3号議案】平成29年度収支決算報告および監査報告
① 収支決算報告書[工藤 俊一郎 常任幹事]
② 監査報告[平井 正博 会計監査・三重県支部支部長]
【第4号議案】
平成30年度事業計画（案）[事務局・大西 智之]
① 校友会誌および校友会のしおりの発行
② 通常総会・会員の集いの開催
【第5号議案】
平成30年度収支予算（案）[工藤 俊一郎 常任幹事]
【第6号議案】その他
第30回通常総会の開催を2019年6月8日（土）に予定する
7. 議長・副議長の解任
8. 閉会　閉会宣言：奥川 宏 副会長（静岡県支部）

【平成29年度校友会長賞受賞者】（第2号議案）

カレッジ	学科	氏名	受賞理由
ミュージック	コンサート・イベント科	井上 楓花	成績優秀
テクノロジー	建築学科	竹本 大智	成績優秀
デザイン	Webクリエイターズ	姚 キンイ	成績優秀
医療・保育	臨床工学専攻科一年制	高木 智也	成績優秀
クリエイターズ	演劇スタッフ科	池田 さくら	卒業公演作品評価（舞台監督）
IT		チーム連楽帳	卒業制作優秀作品（4人チーム）

校友会通常総会等の様子

平成30年6月9日（土）に日本工学院専門学校において、全国42支部から校友会会員約15万人を代表する支部長が母校に来校され、第29回通常総会が開催されました。

記念写真撮影
14:40～14:50

3号館1階のエントランスホールで千葉理事長、前野校長を囲み記念写真を撮りました。

通常総会　15:00～16:30

今年の通常総会は、議長に野里副会長、副議長に奥川副会長が選出され、6つの議案について審議が行われました。

懇親会　17:30～19:00

12階の学生ラウンジにおいて、千葉理事長はじめ教職員の方々を交え懇親会が行われました。

「校友会ラウンジ」利用規定

1 利用資格

① 日本工学院専門学校校友会会員および準会員。
ただし、準会員のみでの使用は出来ません。準会員が利用を希望する場合は、教職員が責任者となり、一切の管理責任を負っていただきます。
② 校友会会員が代表者または責任者である団体・グループ。
③ 学校法人片柳学園の教職員。
④ 日本工学院専門学校校友会会長が認めた者および団体・グループ。

2 利用目的

会議、待ち合わせ、親睦会など様々な目的で使用できますが、目的によっては、校友会事務局の判断でお断りする場合があります。
ただし、利益を得ることを目的とした事業ならびに政治活動・宗教活動を伴う集会には利用できません。

3 校友会ラウンジ概要

○面積：約 116㎡　　○定員：40 名
利用可能な設備：プロジェクター（パソコン・DVD接続可）、スクリーン、ホワイトボード、DVD、冷蔵庫、電気ポット、急須、湯飲茶碗。
設備の利用については、無料です。

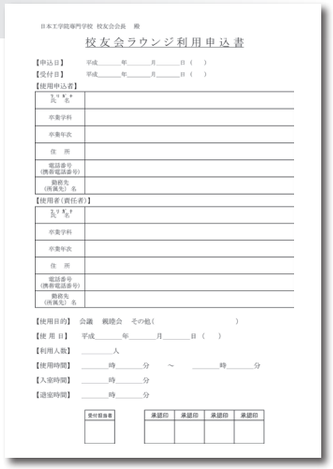
4 利用時間

平日　10:00～17:00
学校が休みの時には、利用できません。
利用する場合は2週間前までに校友会事務局に届け、校友会事務局の承認を得なければなりません。また、校友会行事のある場合はこれを優先といたします。
上記時間以外の利用に関しては、校友会事務局にご相談願います。

5 申し込み方法

所定の申込用紙に必要事項を記入の上、校友会事務局にE-mail、FAX、郵便等でご提出願います。先着順で申し込みを受け付けます。ただし、校友会行事等を優先とさせていただくため、使用をお断りする場合がありますので、予めご了承願います。

●申込用紙は校友会事務局
☎03-3732-8183
にご請求いただくか
ホームページをご覧ください。
http://www.kouyukai.net/



日本工学院専門学校 校友会会長　殿

校友会ラウンジ利用申込書

【申込日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【受付日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【使用申込者】
氏名（ふりがな）
卒業学科
卒業年次
住所
電話番号（携帯電話番号）
勤務先（所属先）名
【使用者（責任者）】
氏名（ふりがな）
卒業学科
卒業年次
住所
電話番号（携帯電話番号）
勤務先（所属先）名
【使用目的】　会議　親睦会　その他（　　）
【使 用 日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【利用人数】　＿＿＿人
【使用時間】　＿＿時＿＿分　～　＿＿時＿＿分
【入室時間】　＿＿時＿＿分
【退室時間】　＿＿時＿＿分
受付担当者
承認印　承認印　承認印　承認印

「校友会について」より校友会ラウンジ利用規定
及び使用申込（PDF）をダウンロードしてください。

校友会だより

平成29年度 支部会員の集い

平成29年度支部会員の集い（総会・懇親会）は、全国で200人を超える卒業生が集い、さまざまな趣向で開催されました。自己紹介、近況報告、役員の改選、懇親会での情報交換など、各支部とも有意義で実りある会合内容が報告されています。旧友との久々の再会となる懇親会では懐かしい思い出話にも花が咲き、和やかで充実した歓談のひとときがもたれました。今後も世代をこえた地元校友とのネットワークづくりに、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

北海道支部

■設　立：昭和63年6月24日　　■登録会員：1035名
■支部長：平井 康美　■E-mail hokkaido@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 北海道支部会員の集い

開催日：平成29年9月9日（土）　出席者：13名
会　場：札幌市　日本料理「花遊膳」

● 支部総会　17:00～18:05
開会挨拶　17:00～17:05　平井支部長
◇出席者への謝辞、開会宣言
◇北海道校　加藤学校長の紹介
北海道の校友会事務局ご担当の方はおいでになれませんでしたが、北海道校の加藤学校長においでいただきました。
◇学校からの参加者の紹介

● 講演会　17:05～17:35
情報処理科 大矢政男 科長「第三世代コンピューティング時代へ」
日本工学院専門学校ITカレッジ情報処理科科長の大矢政男先生を講師に迎え、「第三世代コンピューティング時代へ」というテーマでIT社会におけるコンピュータ技術の遷移についてのお話を中心に講演いただきました。大矢先生の自己紹介後にレジュメをもとに講演がスタート。まずはコンピュータの第1世代、第2世代、そして「コンピュータ自らが考える」第3世代に突入したという変遷を説明。そして具体的にどんなことができるのか、どんな時代になるのかという話になりました。たとえば、“世界の携帯電話の契約数”“ツイートの数”“商取引の数”などがこの数年で爆発的に増えてゆくなど身近の例から、更にビッグデータを利用した社会生活の変化などの説明をしてくださいました。質疑応答については時間の都合上、このあとの懇親会の中でということになりました。

● 議事　17:35～18:05
議事進行:平井支部長
1. 活動報告
▼平成28年3月5日（土）　北海道・東北地区支部長会
於）花巻温泉郷 大沢温泉 山水閣
▼平成28年6月11日（土）　第27回校友会通常総会
於）日本工学院専門学校
▼平成28年9月18日（日）　北海道支部懇親会 開催 12名参加
於）サッポロビール園ガーデングリル
▼平成29年3月18日（土）　北海道・東北地区支部長会
於）青森国際ホテル
▼平成29年6月10日（土）　第28回校友会通常総会
於）日本工学院専門学校
▼平成29年9月9日　第15回北海道支部会員の集い
於）日本料理「花遊膳」（今回の集いです）
2. 役員改選　今回は改選をしない（全員一致で決定）
3. 会則変更　なし
4. 会員の集いについて（2018年）
総会については2年に一回札幌→旭川→函館の持ち回りで開催しており、今回の札幌での開催で一巡した。次回は旭川で開催予定（2019年）。2016年に行ったような「懇親会（会員の集い）」は、来年も計画をしている。決まったらまた連絡をする。時期的には、年末は外してほしいとの意見が多数あり、9月～10月上旬に行うことに決定した。
5. 学校からの報告
◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
片柳アリーナの完成と活用について
◇創立70周年記念奨学金制度について
◇現在の学科の様子についての説明
ITカレッジは大矢科長より

● 懇親会　18:20～20:10

青森県支部

■設　立：昭和63年9月14日　　■登録会員：724名
■支部長：野里 和弘　■E-mail aomori@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 青森県支部会員の集い

開催日：平成29年9月23日(土)　出席者：10名
会　場：青森市「青森国際ホテル」

● 支部総会　18:00～18:30

1. 学校からの報告
   ○70周年記念事業(片柳アリーナ、奨学金)の紹介
   ○現在の学科の様子について
   ○かまた祭、講演会の告知
   ○学園へ寄贈する時計塔について
   ○住所変更のお願い
2. 役員改選
   ◇幹事　淵沢さんが他界されたため解任、八戸さんが新任の幹事となった。
3. 野里支部長からの報告
   ◇出席者への謝辞
   ◇青森県支部の活動報告
   ○通常総会、地区支部長会への参加
   ○校友会誌「かまた」に同封している支部だよりの作成
4. 会則改定　今回はなし

● 懇親会　18:35～20:30

美味しいお料理をいただきながら、それぞれ在学当時を思い出しながら様々な話が飛び出てきました。学生時代を多摩川寮で過ごした木村さんは、当時川崎に工場があった日本コロムビア株式会社でアルバイトをしていた話や、蒲田でドラマや映画の撮影が行われる時には寮にエキストラ募集の掲示がされていたことなどをお話ししてくださいました。また、学校や蒲田駅周辺の様変わりが激しく、一度学校見学ツアーを行いたいという話もありました。
最後に野里支部長がマジックを披露し、そのタネを全員で考えたところでお開きとなりました。

■ ミニ取材 ■

★ あおもり北のまほろば歴史館

青森市を中心とした郷土の歴史や民族を総合的に紹介する施設です。漁業に使う船体やランプ、昔使われていた道具や衣類だけでなく、三内丸山遺跡で発掘された土器や青森県の移り変わりが分かるような地図も展示されています。また、この日はイベント「あおもりこども民俗フェス! ～見て、知って、作って楽しむ青森の民族文化～」が開催されており、各種体験コーナーやこども民俗芸能発表会が行われていました。

宮城県支部

■設　立：昭和63年5月20日　　■登録会員：546名
■支部長：清水 幸男　■E-mail miyagi@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 宮城県支部会員の集い

開催日：平成29年11月18日(土)　出席者：15名
会　場：仙台市「ホテル仙台ガーデンパレス 青葉」

● 支部総会　18:32～19:00　議事　進行：清水支部長

1. 開会挨拶　清水支部長
   ◇出席者への謝辞、自己紹介
2. 学校からの報告(事務局・大西)
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
   片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について　10月13日(金)
   創立70周年・校友会50周年を記念して、校友会から学校へセントラルプラザ(中庭)に時計塔を贈呈した
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
3. 役員改選について
   全員再選
   ◇支部長　　再任：清水
   ◇副支部長　再任：橘内、東、米本、前田、村上、千葉
   ◇幹　事　　再任：工藤、鈴木、菊本
4. 会則改正
   ◇会則改正なし

● 懇親会　19:15～21:00

副支部長・橘内さんのご発声で乾杯!
冒頭に支部長から、「会員の集いも15回を迎え、これまでも『どうしたら若い人、世代が増えるだろうか』という課題について考えていたが、是非皆さんからもアイデアを募りたい。また、同窓生をご存知でしたらぜひお声掛けしてほしい」といった話がありました。その後は、学生時代の思い出話を交えた自己紹介をしながら、他の皆さんからの声がかかるという形で盛り上がってゆきました。初参加の田山さんは、幹事の工藤さんと同じ町内会のお知り合いで今回お誘いがあり、「校友会費を払った覚えがない」と学校に連絡をしたら「入学時に既に払った」と教えて貰って驚いた、とのことでした。また、同じく初参加の安部さんは、ずっと参加をしたいと思っていたが仕事が忙しく、やっと参加出来た! とのこと。更に同じ会社には工学院出身が数名いらっしゃるそうで、次回が楽しみです。

会場の終了時間が過ぎても盛り上がりは収まらず、本当に楽しい時間となりました。最後に支部長より「次回はもっと遅くなっても良いところを探します」との言葉と共に、来年は勤労感謝の日を候補に懇親会を開催しようとの提案で、会は終了いたしました。

■ ミニ取材 ■

★ 国宝　大崎八幡宮

慶長12年(1607年)、伊達政宗によって創建された神社。社殿の造営は、当時豊臣家に仕えていた当代随一の巨匠の手によるもので桃山建築の傑作と言われており、安土桃山時代の我が国唯一の遺構として昭和27年に国宝建造物に指定されました。入母屋造りの本殿と拝殿、その間を石の間で一体化させた権現造りの典型となっており、正面には千鳥破風、向拝には軒唐破風を付け、屋根はこけら葺き、外観には鮮やかな極彩色の組み物や彫刻などが施され、伊達家の威信を絢爛たる雰囲気で今に伝えています。また、長床は国の重要文化財に、石鳥居は県の有形文化財に、毎年1月14日に行われる「松焚祭(どんと祭:〔はだかまいり〕で有名)」は仙台市の無形文化財に指定されており、多くの人に親しまれている神社です。

秋田県支部

■設　立：昭和63年9月12日　　■登録会員：784名
■支部長：高橋 由紀夫　■E-mail akita@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 秋田県支部会員の集い

開催日：平成29年10月7日(土)　出席者：9名
会　場：秋田市「協働大町ビル」

● 講演会　16:00～17:15

「SNSの活用について／ホームページの作り方2」講師：高橋顧問
高橋さんが自身の経験をもとに、Facebookの始め方や管理方法、利便性を説明していただきました。インターネット上の交流の場ではそれまでニックネームが多用されていましたが、Facebookでは実名で登録するのが原則という点から、交流しやすいというメリットや個人情報の管理等のデメリットもお話しされました。また、管理されている地域のお祭りのページをご紹介いただき、Facebookを実際に活用されている様子を見せていただきました。

● 支部の集い　17:25～18:05　司会：江畑副支部長

1.開会挨拶　江畑副支部長
2.支部長挨拶　高橋支部長
3.学校代表挨拶　校友会事務局大門
4.議長選出　豊原さんが議長に選ばれる
5.議事
①支部活動報告　高橋支部長
≪秋田県支部のあゆみ≫
○平成27年10月10日　第14回支部会員の集い
○平成29年10月7日　第15回支部会員の集い
○平成29年10月13日　片柳学園創立70周年記念祝賀会
≪全国総会及び支部長会のあゆみ≫
○平成28年3月5日　北海道･東北地区支部長会(岩手県)支部長出席
○平成28年6月11日　第27回校友会通常総会(蒲田校)支部長出席
○平成28年10月9日　片柳アリーナ完成記念公演(蒲田校)支部長出席
○平成29年3月18日　北海道･東北地区支部長会(青森県)支部長出席
○平成29年6月10日　第28回校友会通常総会(蒲田校)支部長出席
≪会計報告≫
②校友会報告
≪事務局　大門から≫
○創立70周年事業(片柳アリーナ、奨学金)について
○校友会50周年記念事業(時計塔、かまた祭講演会)について
○学科紹介
○住所変更のお願い
≪松尾顧問から≫
○過去の学校案内を使い、学科や建物(校舎、寮)の紹介
③役員改選
○支部長、副支部長、顧問とも変更なし
○副支部長は1名欠員のまま続投
④その他
≪北海道･東北地区支部長会の報告≫
○全国的に、若い参加者の確保が課題になっている。
校友会誌「かまた」の写真等を見て、年代が違うので話が合わないと思われているのではないか。
○集いの開催場所を変えてみても、今まで参加していた人が来られなくなるなど、交通･宿泊の問題で結局人が集まらない。
集いは2年に1回の開催なので人が集まりやすい地区で行い、その間の年は懇親会として様々な地区で実験的に行うのはどうか、という意見が挙がった。
6.閉会　江畑副支部長

● 懇親会　18:15～20:30

懇親会のスタートは、校友会顧問であり秋田県出身の松尾さんに乾杯の音頭を取っていただきました。総会の時に報告した片柳アリーナや蒲田校の校舎の変遷から、当時皆さんが通っていた校舎の話で盛り上がりました。今は取り壊されてしまった1号館や2号館に通っていた方が多く、蒲田校の発展を喜びつつ郷愁を感じていました。また、北海道校出身の江畑さんが北海道校の校友会誌を持参しており、皆さんで回覧したり北海道校の活動を報告していただきました。最後は次回の再会を祈念して一本締めで終了となりました。

山形県支部

■設　立：昭和63年7月25日　　■登録会員：631名
■支部長：樋口 祐七　■E-mail yamagata@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 山形県支部会員の集い

開催日：平成29年11月19日(日)　出席者：10名
会　場：山形市「山形国際ホテル」

● 支部総会　18:00～21:00

1. 開会挨拶　樋口支部長
○出席者への謝辞
○折しも初雪が降ったこの日、足元が悪い中のご参加、ありがとうございました。(山形市では11月19日に初雪が降った)
○「校友会通常総会」「片柳アリーナ披露公演会」「70周年記念式典」等へ参加して最近の学校の様子を見ているが、変化についてものすごいものがある。今後は是非どなたか総会に参加し、学校を見てきてもらいたいと考えている。
2. 学校からの報告(事務局･大西)
◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
片柳アリーナの完成と活用について
◇創立70周年記念式典について　10月13日(金)
創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へセントラルプラザ(中庭)に時計塔を贈呈した
◇創立70周年記念奨学金制度について
◇現在の学科の様子についての説明
◇Facebookについて
3. 役員改選
◇支部長　　再任：樋口
◇副支部長　再任：柴崎、鈴木(正)、鈴木(幸)、大沼、庄司
◇幹　事　　新任：石川、菅野、烏
※山形県支部会則：第4章第9条3項「出席者を幹事とする」による
4. 会則改定
○変更なし
5. 意見交換会
○宮城県支部長　清水氏よりご挨拶
宮城県支部では会員の集いと懇親会を交互に行い、毎年集まるっている。
○昼間に集いを行ってはどうか、遅い時間帯では帰宅がつらい。
○たとえば高校の同期会は16時からだった。まだ電車などがあるうちなら飲んでから帰れるのではないだろうか。
○ホテルは堅苦しい雰囲気があるのではないか。
等の話があがり、次回以降に反映させてゆくこととなった。

● 懇親会

会議の途中ですが、役員改選など一区切りついたところで、鈴木幸雄･前支部長の乾杯から懇親会が始まりました。まず、宮城県からお越しの清水支部長からご挨拶があり、意見交換会となりました。
また鈴木前支部長より、学校の「片柳アリーナ」の様子や工法についての話題となり、特に平松元副校長のご案内で見学をされた話、数年前に片柳理事長からアリーナなどの青写真を見せていただいたお話は、皆さんの興味を一身に集めていました。
その後、参加された皆さんの近況報告となり、「電気店を営んでいて、消雪･無散水消雪の配電盤も作っている」「退職後に畑を借りて野菜を育てており、今では毎日畑へ行かないと気になってしまう」といった、お仕事のことやご退職されてからの充実した過ごし方などの話に盛り上がりました。最後は、鈴木正豊副支部長の一本締めで解散となりました

■ ミニ取材 ■

★ 山寺

正しくは宝珠山立石寺といい、平安時代の860年に唐に渡り修行してきた慈覚 大師(円仁)によって開かれた天台宗のお寺。山のふもとの登山口から頂上にある奥の院まで千段以上の階段があります。途中にはいくつもの寺院や書院が建ち並んでおり、多くの僧がこれらに滞在してこの地で修行に励んでいたそうです。全景の写真を見ると、それらの堂宇が山にしがみつくように見え、まさに「山寺」という名にふさわしい佇まいです。

茨城県支部

■設　立：平成元年11月22日　　■登録会員：2901名
■支部長：廣瀬 憲治　■E-mail ibaraki@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 茨城県支部会員の集い

開催日：平成29年11月5日(日)　出席者：21名
会　場：水戸市「フェリヴェール サンシャイン」

● 支部総会　14:15～15:05　議事進行：廣瀬支部長

1. 支部長挨拶
　◇出席者への謝辞　◇本日のスケジュールについて
2. 学校からの報告
　◇70周年記念事業(片柳アリーナの完成、奨学金制度)の紹介
　◇校友会50周年記念事業(時計塔寄贈、かまた祭講演会)について
　◇現在の学科について　◇住所変更のお願い
3. 役員改選、会則改正　今回はなし
4. 自己紹介
　廣瀬／佐藤／大和田／塩畑／山本／伊藤／飛田／寺門／染谷／海老沢／鈴木(良)／根本／吉川／村地／山崎／島田／鈴木(宏)／金澤の順に自己紹介と、近況や職場について一言
5. 意見･要望
　◇開催地について
　　○県西の方でやろうとしたこともあるが、立ち消えた。
　　○集いの年ではなくても、懇親会で水戸以外での開催要望があれば言ってほしい。
　◇Facebookについて
　　○6年前にFacebookについて企画したが、人が集まらなかった。
　　○現在、副支部長の松田さんが管理されている茨城県支部のページがある。
　　○これからはFacebookも活用していきたい。

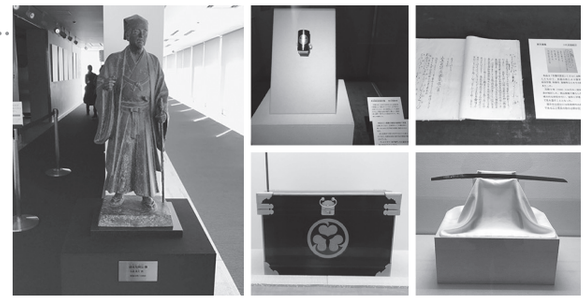
● 懇親会　15:15～17:20

支部総会終了後隣室に移り全員着席したところで、最年長の山本さんが乾杯のご挨拶をされました。どの支部でも話題に挙がりますが、学生時代は寮生活をしていた方が多く、住んでいた時期は違えど同じ寮の仲間に出会えたことを喜んでおられました。また、寮以外で暮らしていた方々も自宅周辺の思い出話を次々と聞かせてくださいました。ほかには、レコードのプレスや羽田空港での郵便仕分けのアルバイトをした話や、ブラックノートオーケストラ(音楽部OBバンド)に所属していたこと、その話から、同じように趣味で楽器をやっている人同士で意気投合したりと、学生時代の思い出だけでなく近況も交えて話が盛り上がりました。最後は、支部長の廣瀬さんのご挨拶により、お開きとなりました。

■ ミニ取材 ■

★ 徳川ミュージアム

徳川御三家の一つ、水戸徳川家に所縁のある品を展示している博物館です。「黄門様」で有名な徳川光圀公にまつわるものが多く、光圀公の印籠や編纂した書物、果てはドラマ「水戸黄門」の台本までも展示されていました。また、関東大震災で被災した水戸徳川家伝来の名刀の写しを制作する「刀剣プロジェクト」のうち、2017年6月に完成した「太刀　児手柏(このてがしわ)」と、被災した姿そのままの「刀　燭台切光忠(しょくだいきりみつただ)」の展示を見てきました。



首都圏支部

■設　立：昭和63年6月3日　　■登録会員：48148名
■支部長：桂田 忠明　■E-mail koyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 首都圏支部会員の集い

開催日：平成29年10月28日(土)
会　場：蒲田校　31005教室

● 支部総会　14:00～14:15　議事進行：事務局

1. 支部事業報告
　◇平成27年10月31日(土)
　　第14回首都圏支部総会およびかまた祭参加事業
　　○音楽部OBコンサート
　　○講演会(講師:森田正光氏)
　　○親睦会
　　○校友会ラウンジ開放
　◇平成28年10月29日(土)　首都圏支部かまた祭参加事業
　　○音楽部OBコンサート
　　○講演会(講師:児玉光雄氏)
　　○懇親会
　　○校友会ラウンジ開放
2. 収支報告および監査報告
3. 役員改正　以下の通り改選した
　◇支部長　桂田(再任)
　◇副支部長　工藤(再任)、平川(新任)
　◇会計　脇(再任)
　◇会計監査　住谷(再任)
　◇幹事　稲垣(再任)、小野寺(再任)、菊地(再任)、鈴木(再任)、高尾(再任)、竹生田(再任)、寺本(再任)、林(再任)藤井(再任)、村田(再任)、村林(再任)、猪口(新任)、谷(新任)

● 講演会　15:00～16:30

校友会設立50周年記念特別講演会
「負けて強くなる」～わが将棋人生～
講師：加藤 一二三先生(棋士、仙台白百合女子大学客員教授)
司会：相沢 早苗さん(本校卒業生)
本校友会は今年で設立50周年を迎えました。それを記念し、棋士の加藤一二三先生をお招きして講演会を開催致しました。
加藤先生の講演会の全容は、本誌P.31に掲載しています。

● 懇親会　17:00～18:30

毎年恒例の首都圏支部懇親会は、会場を変えて1号館1階のFOODS FUU2で行われました。桂田支部長、千葉学校長の挨拶のあと、遠山副校長の乾杯で始まりました。この懇親会を楽しみに毎回参加してくださる方から、校友会誌などで興味を持って初めて参加してくださった方もいらっしゃいました。今回は富山県支部の皆さんも参加してくださり、昨年に引き続き行われたじゃんけん大会では富山県支部長の石黒さんと勝負し、勝者には富山県名物の「ます寿司」が贈呈され、まさに年代や地域も越えた懇親会となりました。また、未来の校友会員である在校生を代表して、かまた祭や体育祭などで学生の中心としてイベントを取り仕切っている学生委員会の皆さんに、エナジードリンクを贈呈致しました。
最後は工藤副支部長に中締めの挨拶をいただき、石黒支部長からいただいたチューリップの球根を皆様に配布してお開きとなりました。

新潟県支部

■設　立：平成元年10月6日　　■登録会員：2476名
■支部長：植木 敏郎　■E-mail niigata@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 新潟県支部会員の集い

開催日：平成29年11月5日(日)　出席者：11名
会　場：糸魚川市ふれあいセンター「ビーチホールまがたま」

● 支部総会　10:35～12:15　議事　進行：長谷川副支部長

1. 開会挨拶　植木支部長
   ◇出席者への謝辞
   （特に3連休の最終日、糸魚川での開催ということのお礼）
   ◇支部長になって20数年経ち、そろそろ世代交代を考えています
   ◇糸魚川で行うことになった経緯の説明
   これまで柏崎・十日町・上越・燕三条・村上・佐渡の順で行ってきた県下を順番に回り、今回は一番西側の糸魚川で行うと決めていた
2. 参加者の自己紹介と近況
   小川、片所、久保田、雑賀、平井(高橋)、佐藤、雪、長谷川の順に簡単に近況の報告
3. 植木支部長からの提案
   ○新潟県下より交流を広めるために新潟県下7か所同時に「懇親会」を行ってはどうか
   村上・三条・柏崎・十日町・上越・糸魚川・佐渡
   ※次回の総会は新潟市で行いたいと思っている
   植木支部長が就任し、最初は柏崎で行った(参加者4名)
   その後、会員の集い(総会)として県下7か所で開催
   今後は新潟・長岡で行ってゆこうと思う(2年に一回の総会)
   それ以外の年は、上記7か所で行ってゆきたいと思う
   3人以上集まったら開催という形でどうか
   現在可能箇所は、上越(担当・片所)／県央(長谷川)／新潟(小林)／柏崎(植木)
   来年、事務局と確認を取りながら各地区の担当者を決め実現したい
   ○Facebook新潟支部についての案内
4. 学校からの報告　大西自己紹介
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
   片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について
   創立70周年・校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
   ◇かまた祭について
   加藤一二三氏講演、開会式での時計塔の紹介
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
5. 役員改選について
   まず、支部長より「改選にあたって、各地区での懇親会の実施に向けて各地区の皆さんから幹事(役員)になってもらいたい」というお話しがありました
   ◇支部長　再任:植木敏郎
   ◇副支部長　再任:丸山義彦、小川精一、長谷川和智
   ◇幹　事　再任:池徹、片所克徳、小林謙一郎
   新任:平井(高橋)美江子
   退任:東條義紀
6. 会則変更　なし
   その後糸魚川市ふれあいセンター「ビーチホールまがたま」の屋上で記念撮影をし、懇親会会場へ移動

● 懇親会　割烹　魚がし　12:45～14:00

今回初参加の佐藤さんの乾杯のご発声により懇親会がスタートしました。同じく初参加の平井さんと佐藤さんは同学科のご卒業で今でもご一緒に旅行などを楽しんでおり、この集いの前日も糸魚川の近くの温泉でご宿泊されたとのことでした。校友会の集いとはどんなものなのかという興味があり参加して下さったとのことでした。支部長からは、津南町で放送芸術科の研修の計画がある事や、70周年記念式典での理事長のお話を披露されたり、また雪さんは昨年のかまた祭にお越しいただき、その際に恩師の菅原先生(今も学校にいらっしゃいます)と再会し感動した話など、学校に関する話題で盛りあがりました。また、昨年末の糸魚川大規模火災のお話も話題に上がりました。奥様のご実家が被害に合われたという方もおり、その時の様子を伺うことで皆さんの防災意識を高めることになったかと思います。
あっという間に時間が過ぎ、地元の糸魚川にお住まいの久保田さんによる締めの挨拶と一本締めで終了となりました。

富山県支部

■設　立：平成5年5月22日　　■登録会員：520名
■支部長：石黒 明　■E-mail toyama@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第13回 富山県支部会員の集い

開催日：平成29年10月28日(土)　出席者：4名
会　場：日本工学院専門学校　蒲田校

● 支部の集い　13:40～14:00　議事進行：石黒支部長

1. 学校からの報告
   ◇創立70周年記念事業について
   ○片柳アリーナについて
   ○70周年記念奨学金について
   ◇校友会50周年記念事業の時計塔について
   ◇学科紹介
   ◇住所変更のお願い
2. 会則改定
   ◇今回は変更なし
3. 役員改正
   ◇副支部長
   副支部長の斉藤さんはご高齢のため解任
   金尾さんが新副支部長に就任された
4. 支部活動報告
   ◇前回の集い以降にあった支部長参加業務の報告

● 学内施設見学会

集い当日は学園祭「かまた祭」の開催日ということもあり、展示などを見て回りながら学内施設の見学を行いました。まずは、70周年記念事業として昨年完成した片柳アリーナへ。リハーサル中だったので写真は撮れませんでしたが、コンサート・イベント科の学生たちがお客様を迎える為に仕込みや調整をしており、学生の活躍を直接見ることが出来ました。また、金尾さんが放送制作芸術科の卒業生とのことだったので、3号館16階のレインボーホール(放送スタジオ)へ行き、現在の放送芸術科の設備などを見学しました。普段の平日では授業などで入ることが出来ない実習室も見学することができ、皆様大変喜ばれていました。その後、首都圏支部事業の講演会に参加しました。

● 懇親会　17:00～18:30

今回の懇親会は首都圏支部の懇親会に混ざるかたちで行われました。桂田校友会会長、千葉学校長の挨拶のあと、遠山副校長の乾杯で始まりました。歓談の後、ゲストとして富山県支部の皆さんが紹介され、その後は石黒支部長とのじゃんけん大会が行われました。今回の景品は富山県支部からご提供いただき、上位3名に富山名物「ます寿司」が贈呈されました。首都圏支部懇親会と合同で行ったことで、同郷だけでなく幅広い地域の卒業生たちと話すことができ、卒業生の関わりもより深まったと思います。最後に石黒支部長より参加者の皆様へ、日本一の出荷量を誇るチューリップの球根がプレゼントされました。

石川県支部

■設　立：平成5年5月21日　■登録会員：343名
■支部長：正田 隆浩　■E-mail ishikawa@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第13回 石川県支部会員の集い

開催日：平成29年10月21日(土)　出席者：8名
会　場：金沢市「大名茶家」

● 支部の集い　12:00～12:35　進行：正田副支部長

1. 開会挨拶　正田副支部長
　◇出席者への謝辞
2. 役員改選
　◇支部長
　　○現支部長の山岸さんが体調不良で続行不可のため、副支部長の正田さんが支部長に就任。
　◇副支部長
　　○新たな副支部長に岩井さん、澤田さんが就任。
3. 会則改定
　◇役員
　　○副支部長を4名から5名に変更する
4. その他
　◇平成29年度地区支部長会
　　○今年度の東海･北陸地区支部長会は平成30年3月24日(土)～25日(日)。
　　○開催県は石川県支部のため、副支部長を含め、開催場所の検討をする。
5. 学校からの報告
　○創立70周年事業(片柳アリーナ、奨学金)について
　○校友会50周年記念事業(時計塔、かまた祭講演会)について
　○学科紹介
　○住所変更のお願い

● 懇親会　12:40～15:00

新支部長の就任挨拶を兼ねて、正田さんが乾杯のご発声をされました。話題はまず皆さんのお住まいの話になり、正田さんがお住まいの小松市は昔から石切り場として有名であり、現在もなお採掘が続いていると教えていただきました。また岩井さんのお仕事の話から、現在様々な分野でドローンの需要が高まっているので、ぜひ学校でもドローンについて学べるようになってほしいとの要望もありました。お酒も入り話が進む中で、翌週(10/28)のかまた祭で校友会首都圏支部が行う講演会に加藤一二三さんをお呼びしている話になり、そこから皆さんが過去に参加した講演会や、開催した講演会の裏話などで盛り上がりました。最後は年度末の地区支部長会と2年後の支部の集いの成功を祈念してお開きとなりました。

■ ミニ取材 ■

★ 兼六園

岡山の後楽園、水戸の偕楽園と並ぶ日本三名園の一つで、江戸時代の代表的な大名庭園です。歴代の加賀藩主によって形作られたこの庭園は季節ごとに様々な表情を見せ、桜･梅･紅葉の名所でもあり、雪に備えた「雪吊」は冬の風物詩ともされています。また、卯辰山方面の坂の下には元祖金箔ソフトクリームのお店「箔一」があり、金箔一枚を贅沢に使った「金箔のかがやきソフトクリーム」をいただくことができます。

★ 金沢城

江戸時代には加賀藩主前田家の居城でした。場所に応じて様々な石垣の組み方を見ることができ、「石垣の博物館」とも呼ばれているそうです。見学に行った時間は夕暮れ時だったので、国の重要文化財である「石川門」の櫓が太陽に照らされ、金箔をあしらったかのように輝いていました。また、タイミング良く玉泉院丸庭園のライトアップ期間だったので、昼間とは違う表情の庭園を見ることができました。

長野県支部

■設　立：昭和63年11月19日　■登録会員：3166名
■支部長：峯村 理雄　■E-mail nagano@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 長野県支部会員の集い

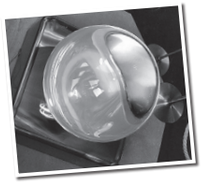
開催日：平成29年11月4日(土)　出席者：12名
会　場：長野市「SUWA ガラスの里」

● 懇親会　12:00～13:15

まずは峯村支部長より、集合した皆さんを前に本日のスケジュールのご説明。先に懇親会を行い、会場の「SUWAガラスの里」の見学、そして総会、最後に副会長で新潟県支部の植木支部長による講演会という順番で行うことになりました。
会場となった「SUWAガラスの里」はJR上諏訪駅から車で約10分、諏訪湖の南に位置する場所にあります。そのため、車でおいでになられる方ばかりという事を考え、今回の懇親会は酒席ではなく、食事と話を楽しもうというご説明がありました。
峯村支部長のご挨拶で懇親会がスタート。会場が広いため、いくつかのグループに分かれて、学生時代の思い出や現在の蒲田の様子などの話題が盛り上がりました。
今回は、近畿支部の佐々木副支部長が長野県支部の集いに初参加されました。というのも、お仕事の関係などから諏訪に訪れる機会が多く、八ヶ岳に拠点を作られたこと、近年中に大阪を引き払ってこちらに居を構えようと考えているとのことでの参加となりました。また、新潟県支部からも植木支部長が講演のためにおいでになられ、他支部との交流という事もあり、それぞれの運営の方法などに話が及んでいました。たとえば近畿支部は大阪･奈良･和歌山の3府県にまたがる構成、新潟は南北に長くそれぞれの地区のとりまとめが必要、といった長野県とは異なった事情もあり、皆さんはたいへん興味深く情報の交換をしていました。

● 「SUWAガラスの里･美術館」館内散策　13:15～14:10

食後、会場となった「SUWAガラスの里」の職員の方から館内のご説明があり、食事の部屋から館内へと移動。日本最大級のガラスショップ、ガラス製作体験工房、レストランで構成されるガラスアミューズメント施設「SUWAガラスの里」と、併設された美術館を40分くらいでゆっくりと見学しました。1992年に美術館として開館、その後2012年現在の名称となりました。集い当日は天気があまり良くありませんでしたが、多くの観光客やガラス工房体験客でにぎわっていました。美術館のガラスで作られた様々な作品に目を奪われましたが、特に心に残ったのが日本最大のクリスタルボール(ガラス玉)！　直径80cmもの大きさで、見る角度によって色が変わってゆく神秘的なこのオブジェは、なんと2億円もの価値があるそうです。このような研磨技術は天体望遠鏡など様々な分野に応用されているとのことです。



● 支部総会　14:15～15:10

館内の見学を終了し、懇親会会場の隣の部屋へ移動し、記念撮影。(ここで真野さんが所要のためご帰宅)　そして支部総会を開始しました。

1. 開会挨拶　峯村支部長
　◇出席者への謝辞　◇諏訪で行うことの経緯
　◇今後の議案の説明
2. 役員改選
　支部長　　峯村理雄　再任
　副支部長　土屋春夫･田中文明･藤岡清登　退任
　　山田将仁　再任
　　丸田英雄･北村宣正･石田健一　新任
　顧　　問　半田憲扶　退任／藤岡清登　再任
3. 会則の変更
　顧問　2名→若干名へと変更
4. 事務局報告
　◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
　　片柳アリーナの完成と活用について
　◇創立70周年記念式典について
　　創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
　◇創立70周年記念奨学金制度について
　◇現在の学科の様子についての説明
　◇Facebookについて

● 講演会　15:15～16:15

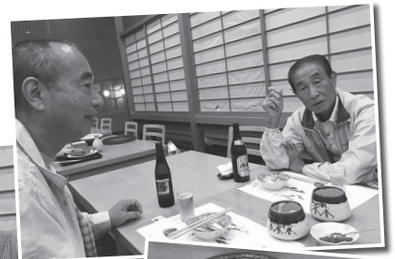
講演会　「Facebookのはじめ方」
校友会副会長･新潟県支部支部長　植木敏郎
ご年配の方が、色々な理由(個人情報の漏えい、閲覧や更新の頻度、炎上など)で始めることが出来ないSNS、特にFacebookについて、わかり易く解説をして下さいました。
○SNSについて　○FacebookとTwitterの違い
○お金は必要ない
○Facebookの登録について
　ステップ1 アカウントの取得／ステップ2 友だちを見つける 等
こうした講演を受けて、副支部長の丸田さんが「日本工学院校友会長野県支部」という名称でFacebookを作成しました。また、「事務局」でも、その場で長野県支部会員の集いの開催の様子をFacebookに投稿し、実例のデモンストレーションを行いました。約1時間の講演のあと、質疑応答やデモンストレーションの感想などの意見交換をし、16:30ごろ解散となりました。

岐阜県支部

■設　立：平成5年5月19日　■登録会員：175名
■支部長：番場 日出喜　■E-mail gifu@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第12回 岐阜県支部会員の集い

開催日：平成29年9月16日(土)　出席者：4名
会　場：岐阜市 ホテルグランヴェール岐山「美濃乃蔵」



● 支部総会　15:30 ～ 17:00

1. 開会挨拶　番場支部長
2. 役員改選　全員再任
3. 会則改定　変更なし
4. その他
   - ○参加者増加の取組みとして、スーパーカミオカンデ(岐阜県にある素粒子観測装置)の見学会を企画したが、日程等が合わず今回は断念した。
   - ○校友会からの情報は事後の報告が多いので、事前の告知もしてほしい。
   - ○就職だけでなく、入学に対する支援も行っていきたい。
   - ○参加者だけでなく、出欠ハガキの返信も少ない。
     地方から入学しても、卒業後地元に戻らないことが多い。
   - ○愛知県、三重県、岐阜県の合同で支部会を行いたい。
   - ◇学校からの報告
     - ○片柳アリーナ、70周年奨学金の紹介
     - ○10月28日かまた祭での講演会の告知
     - ○現在の学科の様子について

● 懇親会　17:10 ～ 19:00

支部長の番場さんの乾杯により、懇親会が始まりました。2年ぶりの再会となりましたが、近況報告や学生時代の話、そして就職したての頃の話などで盛り上がりました。旅行の話では、それぞれプライベートで行かれたエジプトや中国、そしてお仕事で行かれたスイスのお話などを聞く事ができました。また、3名ともエンターテインメント業界に関わりのある方だったので、ご自身が企画した零戦を飛ばしたイベントや放送関係のお仕事の話が盛り上がり、情報交換もされていました。台風が迫ってきていたこともあり、お話が一段落したところで次回の再会を祈念し、お開きとなりました。

■ ミニ取材 ■

★ 長良川うかいミュージアム

1300年間受け継がれてきた長良川の「鵜飼」文化を発信する拠点として設置されました。館内では鵜飼の伝統を繋いだ人物や実際の鵜飼の映像、「宮内庁式部職鵜匠」の世界や意外と知らない鵜の生態について紹介されています。今回はあいにく時間が合わず参加できませんでしたが、例年5月11日から10月15日までこの長良川で行われている鵜飼を見学することができます。

静岡県支部

■設　立：昭和63年9月29日　■登録会員：3381名
■支部長：奥川 宏　■E-mail shizuoka@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 静岡県支部会員の集い

開催日：平成29年9月18日(月･祝) 出席者：14名
会　場：静岡市「ホテル アソシア静岡」

● 支部総会　議事　16:58～17:30　進行：奥川支部長

9月17日から18日にかけて日本を横断した台風18号の影響が心配されたが、開催日の静岡県は台風一過の晴れ晴れとした天気に恵まれた。しかし前日に通過した際の影響をうけその後の片付けのため、1名の欠席者がでた中での「第15回 静岡県支部会員の集い」の開催となった。

1. 開会の挨拶:間瀬副支部長より
   皆さんへの出席の謝辞
   また感想として「来年はもう少し人数が増えたらいいな」と述べられた。
2. 奥川支部長より挨拶
   昨年の10月9日に催された「片柳アリーナ完成記念公演～感謝の調べ～」に参加したときの様子などを含め最近の学校の発展の様子を紹介。「学校の様子は変わってきているが、どんどん発展している。これは大変素晴らしいことだと思います」とのこと。
3. 学校からの報告
   - ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」について
   - ◇創立70周年記念奨学金制度について
   - ◇現在の学科についての説明
4. 支部長からの提案
   来年(平成30年)は学園祭の日に蒲田校に行き「静岡県支部懇親会」を行いたいと思うがどうだろうか。
   - ○交通費は各自負担、日帰り、かまた祭は10月末の土日
   - ○皆さんから、マイクロバスを借りてゆくなどの意見も出た。反対意見は無かったので、来年までに事務局と相談し決定したらご案内書を送付することになった。
5. 役員改選
   今回は改選なし
6. 会則改正
   今回は改正なし

● 懇親会　17:30～19:00

石川副支部長のご発声で乾杯し、懇親会が始まりました。
ふたつのテーブルで、現在の仕事の事や近況の報告などで盛り上がりました。学生時代のサークル活動の話題から、無線部のOB･OGが今でも集まって各地で懇親会をしている話となり、今年は9月8日(金)に北海道函館で行われたという話題になりました。今年の校友会北海道支部会員の集いは9月9日(土)に札幌で開催されたのですが、北海道支部のお二方もその懇親会に参加されていたということを伺い、驚きました。
他にも、およそ60年前に「ゆたか」という定食屋によく通っていたとの話も飛び出し、今でも女塚商店街(工学院通りを蒲田駅から入ってきた先)にある定食屋さん(食通ゆたか本店)だと気付いた時には、やはり70年もの歴史をもつ学校ならではのエピソードだと感じました。全員の近況報告をする時間もないくらい会場は様々な話で盛り上がり、あっという間に終了の時間になってしまいました。来年の「懇親会」での再会を期待し、奥川支部長の中締めで会は終了、その後、記念写真を撮って解散となりました。

■ ミニ取材 ■

★ 芹沢銈介美術館

校友会の表紙の題字「かまた」の文字、これは人間国宝･芹沢銈介氏の筆によるもの。本誌のP.60の「かまた題字作家紹介」をご覧ください。芹沢銈介氏は、明治28年静岡市に生れ、東京高等工業学校(現･東京工業大学)卒業後に染色の道を歩み始め、数々の創意あふれる作品を発表し、染色だけではなく幅広い仕事を通し、多くの人々を魅了しました。その創作活動･作品は高い評価を受け、昭和31年型絵染で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、41年には紫綬褒章をうけ、更に51年には文化功労者となりました。また、昭和51年には、フランス政府から招聘されパリの国立グラン･パレ美術館で「芹沢銈介展」を開催し、58年にはフランス政府から芸術功労勲章を贈られました。昭和9年から東京･蒲田(現:大田区西蒲田4丁目、学校のすぐ近くです!)に住居と工房を構え、その後が88才で亡くなる昭和59年まで、この地で制作活動に打ち込みました。そんな染色界の重鎮･芹沢銈介氏から生まれ故郷の静岡市に作品やコレクションが寄贈されたのを機に、昭和56年「静岡市立芹沢銈介美術館」が開館、芹澤氏の芸術･作品を広く紹介しその偉業を後世に伝える活動を行っています。

三重県支部

■設　立：平成5年5月14日　　■登録会員：156名
■支部長：平井 正博　■E-mail mie@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第12回 三重県支部会員の集い

開催日：平成29年9月17日(日)　出席者：6名
会　場：四日市市「たまゆら プラトンホテル店」

● 支部総会および懇親会　17:00～19:30

台風18号が接近し、三重県下にも大雨警報･暴風警報･波浪警報などが出された。幸い、開催時間の四日市市はそれほどの影響は無かったが、時間が進むにつれ東海地方にも影響が出始めた。帰路のことを鑑み早い時間に終了するよう、支部総会･懇親会を同時に開催することとなった。

開会挨拶　　平井支部長　◇出席者への謝辞
議事　進行：平井支部長
1. 平井支部長の開会の挨拶
2. 役員改選　　留任(変更なし)
3. 会則変更なし

台風の影響が心配されるのでスムーズな進行をするため平井支部長の乾杯で懇親会もスタート

4. 学校の現状
◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」について
◇創立70周年記念奨学金制度について
◇現在の学科についての説明
また、途中で平井支部長からも、片柳アリーナ披露公演や通常総会での理事長の様子、今年の70周年記念式典のことなどのご説明を頂きました。

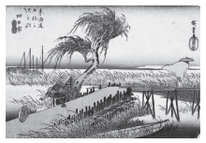
● 支部総会および懇親会

ここまで議事を進めたところで、本格的な懇親会となり、それぞれの近況報告や平井支部長による現在の蒲田界隈の雰囲気や様子のお話で盛り上がりました。特に、平井支部長から「皆さんが通っていたころと変わっている」と切り出された時には、山口さんからは「グーグルマップで蒲田の様子を見たが、知っているものがなにもない!マルイだったところがドン･キホーテになっていた」、若山さんからは「昨年のGWに学校に行ってみたが、本当に変わっていてびっくりした」などの声が上がりました。近況報告では、「西国33か所霊場巡り」を始めたというお話、引っ越しした先でご自分でその地区の自治会を立ち上げたお話など興味深い話ばかりで、各々の話題から話が広がってゆき、あっという間に時間が経過してしまいました。もう少しで19:30というところで、台風の影響が心配されるということもあり、平井さんの言葉で終了、その後お店の前で記念撮影後に解散となりました。

■ ミニ取材 ■

★ 東海道　四日市宿

東海道五十三次の43番目の宿場「四日市宿」は幕府直轄の天領で、代官所が置かれていた。ひとつ前の桑名宿同様海運で栄え、お伊勢参りの人々で賑わい、宿内総家数は1811軒(本陣2、脇本陣1、旅籠98)もあり、東海道の中でも有数の規模を誇った。現在は近鉄四日市駅前にあるアーケード街になっている。



★ 伊勢神宮　外宮･内宮

伊勢に鎮座し「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれる伊勢神宮は、正式名称は「神宮」、他の神宮と区別するために「伊勢」をつけ呼ばれる。皇祖神天照大御神(あまてらすおおみかみ)をお祀りする内宮(ないくう)と、衣食住を始め産業の守り神である豊受大御神(とようけのおおみかみ)をお祀りする外宮(げくう)、14所の別宮、43所の摂社、24所の末社、42所の所管社の125の宮社全てをふくめ神宮という。明治時代に定められた近代社格制度において、すべての神社の上に位置する神社として社格の対象外とされ、神階が授与されたことのない神社のひとつ。(太平洋戦争後、社格は撤廃された)

京・滋支部

■設　立：平成5年5月29日　　■登録会員：181名
■支部長：菅原 進　■E-mail kyo_shi@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

近畿支部

■設　立：平成2年6月4日　　■登録会員：373名
■支部長：中澤 広　■E-mail kinki@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 京・滋、近畿支部会員の集い

開催日：平成29年9月30日(土)　出席者：12名
会　場：大阪市「パンダリア」

● 支部総会　18:30～18:50　進行：中澤支部長

1. 支部長挨拶　中澤支部長
◇出席者への謝辞
◇ゲスト(石黒支部長、徳田支部長、上遠野先生)紹介
◇副支部長の内田さんが4月に他界されたため、参加者全員で黙祷
2. 学校からの報告
◇70周年記念事業(片柳アリーナの完成、奨学金制度)の紹介
◇現在の学科について
◇かまた祭で行われる校友会50周年記念講演会について
◇住所変更のお願い
3. 活動報告
◇通常総会、近畿･中国･四国地区支部長会、支部会員の集い出席
◇第28回通常総会についての報告
○Webサイトの運営と企画
○収支予算事業決算報告
○会員の集いスケジュール
○校友会50周年記念事業について
4. 役員改選について
◇副支部長
4月に他界された内田さん、現在連絡が取れない山内さんを　解任し、残りの14名の副支部長は全員再任。

● 懇親会　18:55～21:30

京滋支部の菅原支部長の乾杯から懇親会が始まりました。2年ぶりの再会ということもあり、各々の近況報告や学校の様子を聞いたりと、テーブルの様々な所で話が盛り上がりました。

19:45頃から、富山県支部長の石黒さんが演台に立ち、講演会「交通信号のQ&A」が始まりました。皆さんにお配りしたレジュメを基に質問を募り、現在の信号機のコンピュータ制御をしている会社や石黒さんが勤務している(株)京三製作所について、信号機の鍵の話など、普段知ることができない信号機の裏話を教えていただきました。講演会後も信号機の話を含めた歓談が続きましたが、最後は校友会ならびに支部の益々の発展を祈念した副支部長の中締めにより終了となりました。

■ ミニ取材 ■

★ 大神神社(おおみわじんじゃ)

国造りの神である大物主大神をご祭神とし、背後にそびえる三輪山をご神体とする大和国の一の宮。山全体がご神体のため本殿がなく、拝殿の奥にある三ツ鳥居を通し三輪山に参拝します。拝殿と三ツ鳥居は国の重要文化財に指定されており、古くからの信仰形態を現在に伝えています。また、ご祭神の大物主大神は「因幡の白うさぎ」を助けたことでも知られ、絵馬や参集殿の入口、日付パネルなど様々な所にうさぎがいました。

★ 長谷寺(はせでら)

西国三十三所巡りの第八番霊場として知られるお寺です。「枕草子」「源氏物語」など多くの古典文学にも登場し、年間を通じて様々な花が咲き誇ることから「花の御寺」と呼ばれています。三九九段の登廊の先には断崖絶壁にせり出した舞台をもつ本堂に辿り着き、境内を見渡すことが出来ます。

★ 橿原神宮

初代天皇とされている神武天皇とその皇后を祀るため、明治天皇によって神武天皇が即位された地に創建されました。まっすぐ伸びる表参道により一の鳥居と二の鳥居を重ねて見ることができ、二の鳥居の前にある神橋を渡ると神域に入ります。外拝殿からは左右に回廊が続き、参拝したときは神武天皇の東征神話を分かりやすく解説した「神武天皇御一代紀御絵巻」のパネルが展示されていました。

岡山県支部

■設　立：昭和63年9月21日　　■登録会員：296名
■支部長：尾崎 章夫　■E-mail okayama@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 岡山県支部会員の集い

開催日：平成29年10月7日(土)　出席者：11名
会　場：岡山市「ホテルサンピーチOKAYAMA」

● 支部総会　15:15～16:40　司会進行：渡辺幹事

1. 渡辺幹事(司会)からのご挨拶
   出席者への謝辞
   本日のスケジュールなど
2. 開会挨拶　尾崎支部長
   ◇出席者への謝辞
   津山のお花見(懇親会)についての報告
3. 参加者の自己紹介と近況報告
   高森･白石･妹尾･瀧本･渡辺･尾崎･田村･浦上の順に簡単に近況の報告
4. 学校からの報告
   大西自己紹介
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
   片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について
   創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
5. 支部活動報告
   追加報告：2018年3月3日(土)～4日(日)
   「近畿･中国･四国ブロック地区支部長会」を岡山県で開催予定
   場所は倉敷市で考えています
6. 役員改選
   ◇支部長　再任：尾崎章夫
   ◇副支部長　再任：石見哲昭、瀧本喜八郎、高橋浩之
   ◇幹事
   再任：浦上雅男、高森茂、渡辺守
   新任：妹尾昶(とおる)、田村健児
   解任：小原道生、倉谷正治
   ◇顧問　再任：白石脩
7. 会則改定　なし
8. その他　小原さんは、市内のジャズのイベントのお仕事でご欠席
   終了(16:35)その後、会場のエントランスで記念写真を撮影後、懇親会会場へ移動

● 懇親会　すし茶屋「銀八」　17:00～20:00

「ホテルサンピーチOKAYAMA」から歩いておよそ5分の場所にある「すし茶屋:銀八」に場所を移し、まずは乾杯に先立ち、前支部長の白石さんからご挨拶を頂き、そして瀧本副支部長のご発声で懇親会が始まりました。現在の学校や蒲田の変化、皆さんが通学していたころの蒲田の様子に話が盛り上がっているところに、石見副支部長がご到着されました。更に話は寮での生活のこと、武蔵新田にあった寮での思い出話、毎日のように秋葉原に通い機材を買い求めたお話など、主に学生時代の思い出話に花が咲きました。
今回初めてご参加の妹尾さんは、高森さん(幹事)と同じ会社にお勤めされていたとのこと、更に瀧本さんともよくお会いになるとのことで、支部会に参加したいと思っていたけれど、全国の支社で働いていたのでなかなか参加できなかったそうです。退職後は岡山で野菜をつくる毎日で、今回やっと参加できたとのことでした。瀧本さんと妹尾さんのお話のやり取りが面白く、会場全体がとても盛り上がりました。最後は全員で記念撮影をおこない、石見副支部長のご挨拶で閉会となりました。

広島県支部

■設　立：昭和63年9月22日　　■登録会員：406名
■支部長：福岡 孝司　■E-mail hiroshima@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第14回 広島県支部会員の集い

開催日：平成29年10月8日(日)　出席者：11名
会　場：広島市「シェラトングランドホテル広島」

● 支部総会　17:05～18:00　司会進行：福岡支部長

1. 開会挨拶　福岡支部長進行：奥川支部長
   出席者への謝辞
2. 参加者の自己紹介･近況報告
   植田･竹内(正)･竹内(政)･門田(もんでん)･重盛･弓場･上川･小迫の順に簡単に近況の報告(敬称略)
   最後に、福岡支部長より、講師の濱水氏の紹介
3. 学校からの報告(大西)
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」
   片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について
   創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
   ▼福岡支部長より補足
   ○総会などで学校に訪れた際の蒲田キャンパスの様子を皆さんにご説明。また片柳理事長が「2020年の東京オリンピックで使ってほしい」とおっしゃっていたことなどのお話もして下さいました。
   ○Facebookについての追加説明
4. 役員改選　改選なし(全員再任)　以下敬称略
   ◇支部長　福岡　◇副支部長　上川･堂前･田中･弓場
   ◇会計　植田　　◇幹事　重盛　　◇顧問　正岡
5. 会則改定　会則変更なし

● 講演会 18:00～18:55

「音楽レコーディングよもやま話」　講師：濱水一彦氏
電子工学研究科15期卒　元音響芸術科教員
▼卒業後、放送制作芸術科に教員として着任。放送基礎実習を担当。その後、1981年4月の立上げから音響芸術科に参加。レコーディングエンジニアの育成に携わり、担任として多数の卒業生を業界へ送出。2017年4月より フリーランスとして活動中。

40年近く前の学校や蒲田のお話から講演が始まりました。最近になってまたアナログレコードの人気が出て来たことやその理由から、ソニー･ミュージックエンタテインメントが国産アナログレコードを生産するために静岡の製造工場に機材を導入し、今年中の生産･受注開始を目指しているといった話や、音楽配信やCD･LPの販売状況など、現在の音楽業界の状況についての説明がありました。また、濱水氏の専門分野である「音」について、特に「アナログに負けない音を!」というコンセプトで生み出された「ハイレゾ」の説明を詳細に語ってくださいました。更に、今後の音楽を取り巻く環境として「ストリーミング音楽配信」「ネットワークオーディオプレーヤー」「スマートスピーカー(AIスピーカー)」「ドルビーアトモス」といったキーワードの説明まで話が及び、気づけば予定時間を超えた講演となりました。終了後もしばらくは「レコード針」のこと、「レーザーで読むレコード」のことなどの質問も飛び出し、話が尽きませんでした。

● 懇親会　19:20～21:10

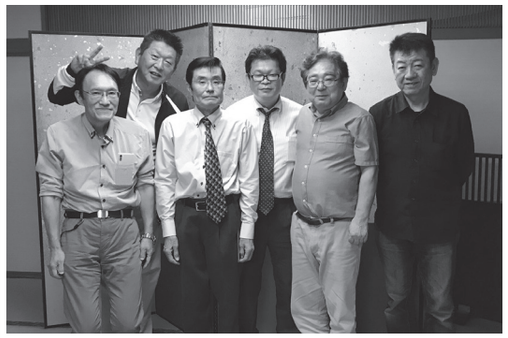
支部総会･講演会を行った会場室からホテルの別階にあるバイキング形式のレストランへ移動し懇親会を行いました。
まずは、福岡支部長の乾杯の挨拶でスタート。それからは学校の寮に住んでいたころの話、学校の近くにあった映画館や弓屋などの話、また濱水氏の講演会に関する話などで盛り上がりました。竹内政光さん･正三子さんはご夫婦でご参加され、最近娘さんに双子が生まれ「おじいちゃん、おばあちゃんになった」といった近況の話や、僧侶をやりながら警備員をしておられる門田さんが執筆された本を皆さんに配布して下さったりと話題が尽きずあっという間に時間になってしまいました。
21:00になり、記念写真撮影を行い解散となりました。

山口県支部

■設　立：平成3年9月14日　　■登録会員：192名
■支部長：早川 一夫　■E-mail yamaguchi@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第14回 山口県支部会員の集い

開催日：平成29年10月9日(月･祝)　出席者：6名
会　場：山口市「ホテルかめ福内 お亀茶屋」



● 支部総会　18:45～19:15　司会進行：早川支部長

1. 開会挨拶　早川支部長
   ◇出席者への謝辞
   ◇浅井前支部長がご欠席だが、この会の前に連絡をしており お元気との報告がありました。
2. 学校からの報告
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」 片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について 創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
3. 役員改選なし
4. 会則改定　◇会則変更なし

参加者の住所･電話･メールアドレスを確認し、記念写真を撮影し終了。総会の途中でしたが、人数が少なくまた皆で意見を出しやすいようにとの配慮から、早川支部長のご挨拶で懇親会がスタートしました。

● 懇親会　19:00～21:15

参加者の自己紹介から始まり、学生時代の蒲田の思い出話、現在の学校の状況などで盛り上がりました。特に「日本工学院TOTAL GUIDE2018」(学校の総合パンフレット)の片柳アリーナの写真や学科の紹介で、現状をお知らせすることが出来、皆さん喜ばれていました。自己紹介では、お仕事の上でとても近い場所にいたことが判明した方々がおられ、会社や仕事の話で意気投合していました。特に話題を集めたのが、参加者の娘さんが、来春から日本工学院専門学校に入学するということ。さらに、進学の事で「お父さん、日本工学院専門学校って聞いたことある?」と問われとてもびっくりした事、その後体験入学や入試に娘さんと一緒に蒲田においでになったことなど、とてもリアルにお話をして下さいました。いつかは親子で参加されるようになると良いですね。予定の21時を少し過ぎた頃、皆さんの健康と次回総会での再会を約束して一本締めで終了となりました。また、学校や蒲田駅周辺の様変わりが激しく、一度学校見学ツアーを行いたいという話もありました。

■ ミニ取材 ■

★ 瑠璃光寺と国宝五重塔

周防国･長門国(今の山口県)の陶氏7代目当主である陶弘房が応仁の乱で戦死し、その夫人が夫の菩提を弔うために1471年(文明3年)建立したのがこの寺院。当初は安養寺と呼ばれていたが、1492年(明応元年)に「瑠璃光寺」と改められた。この地にはもともと守護大名である大内義弘が建立した「香積寺」があったが、長州藩の毛利輝元が1604年(慶長9年)に萩へ移転し、さらにその跡地へ1690年(元禄3年)瑠璃光寺を移転し、現在の形となった。山口市、県庁の近く。山口駅からはバスで約15分。

大分県支部

■設　立：平成3年5月10日　　■登録会員：191名
■支部長：佐藤 浩　■E-mail ooita@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第14回 大分県支部会員の集い

開催日：平成29年11月11日(土)　出席者：13名
会　場：大分市「割烹dining 桟敷坐」

● 支部総会　18:05～19:15

1. 開会挨拶　佐藤支部長
   ◇出席者への謝辞
   ◇森崎前支部長･麻生前々支部長から二桁の出席者を目標にと申し送り事項で言われていた。今回の出席者数が12名となった。今後も支部として盛り上がってゆきたい。愛媛県支部副支部長の赤松さんから欠席連絡があった。次回以降も他支部との交流を図ってゆきたい。
   ◇本日の進行についての説明
2. 各自己紹介
   まずはお名前と簡単なひと言で全員が自己紹介
   〔 ひと言コメント 〕森崎〔前支部長でした〕、後藤〔初代大分県支部長でした〕、大神〔"おんが"と読みます〕、木本〔ずっと参加しています〕、新村〔初参加です!〕、浅野〔参加者中で最年少です･3回目です〕、野尻〔初参加です!!〕、麻生〔前々支部長でした〕、林〔今回で3回目です〕、工藤〔卒業して40数年経った。今から40数年後にも学校･校友会があったら良いな〕、土屋〔初参加です!!!〕
3. 支部活動報告　佐藤支部長作成別紙資料を参照
   ◇第13回　大分県支部会員の集い　平成27年11月21日
   ◇九州･沖縄地区支部長会議　平成28年2月13日(大分県開催)
   ◇第27回校友会通常総会　平成28年6月11日　各支部長出席議題の紹介など
   ◇片柳アリーナ完成記念公演　平成28年10月9日(日)
   など、平成28～29年度の活動内容の報告
   また、それ以外にも
   ◇進学相談会(平成29年6月25日･7月22日)
   佐藤支部長は7月22日の相談会に参加されたなど
   ◇資料を基に詳細な報告がなされ、最後に校友会支部長として学校に行くようになってからの感想を述べられた。
4. 事務局からの報告
   ◇創立70周年記念事業「蒲田キャンパス再整備計画」 片柳アリーナの完成と活用について
   ◇創立70周年記念式典について 創立70周年･校友会50周年を記念して、校友会から学校へ贈呈する時計塔について
   ◇創立70周年記念奨学金制度について
   ◇現在の学科の様子についての説明
   ◇Facebookについて
5. 役員改選
   ◇支部長　再任：佐藤　　◇副支部長　再任：武生、大神、林
   ◇会計　新任：森崎／解任:印山
   ◇幹事　再任：工藤、木本／解任：森崎
   ◇顧問　再任：麻生／新任：後藤、森崎(新任/兼任)
6. 会則改定
   第9条 3. 幹事 3名⇒2名　　5.顧問1名⇒若干名に改定
7. 意見
   今回の「会員の集いのお知らせ」の地図が判り辛かった
   ⇒次回は判りやすくいたします(大西)

● 懇親会　19:20～20:30

先日77歳になったばかりという麻生さんのご挨拶で乾杯。
冒頭、「『ドクターX(テレビ朝日系列)』で蒲田校の校舎を見た」との話から、佐藤支部長より新しい校舎、蒲田の街の様子が語られ、学校の様子について盛りあがりました。その後、話題は主に学生時代のことへ移り、「京浜寮･蒲田寮･日吉寮」「新聞奨学生、クラスの総代」「卒業の危機とレポート提出」など、話に花が咲きました。特に、「甲子園の準優勝投手でプロの選手になろうと阪神に行ったが、紆余曲折を経て新聞配達(奨学生)をやりながら工学院にいった」という麻生さんのお話には、皆さん笑ったり驚いたりと賑やかな時間が過ぎてゆきました。時間となり、後藤さんと森崎さんのご挨拶で、最後に末永く大分県支部の発展を祈り一本締めで解散となりました。

鹿児島県支部

■設　立：昭和63年3月5日　■登録会員：605名
■支部長：久山 順一　■E-mail kagoshima@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 鹿児島県支部会員の集い

開催日：平成29年11月18日(土)　出席者：9名
会　場：鹿児島市「ジェイドガーデンパレス」

● 支部総会　17:00～18:30　開会挨拶　久山支部長

◇出席者への謝辞

◇久しぶりに鹿児島県支部に戻ってきた森本さん(鹿児島地方気象台勤務)に、気象関係のお話をしていただきました。

○以前は福岡で気象データのセールスを行っていた。テレビの天気予報などに出てくる週間天気よりもっと先の天気予報を用いて、季節商品の販売予測などに使うため。

○現在は異常気象が続いているが、雨量は1970年過ぎから増えてきている。

○水蒸気量が増えているので、台風が発生すると空気中の水蒸気を巻き込み強力になってしまう。昨年9月の台風16号が直撃した時は瞬間風速93Kmを記録し、風力発電の風車が折れてしまった。

1. 創立70周年記念祝賀会に出席して
◇創美学園→日本テレビ技術学校→日本テレビ技術専門学校…と名前を変えて今日まで続いてきた。
◇鹿児島県の支部活動は昭和60年から。最初の総会では15名ほど集まった。
2. 学校からの報告
◇創立70周年記念事業(片柳アリーナの完成、奨学金制度)の紹介
◇校友会50周年記念事業(時計塔寄贈、かまた祭講演会)について
◇現在の学科について　◇住所変更のお願い
3. 会則改定　今回はなし
4. 役員改正　今回はなし
5. 自己紹介
久山、大門、榎屋、上園、森本、吉村、尾之上、北原、井口の順で自己紹介と近況を一言。人数が一番多い時の情報処理科に通っていた話や1クラス500名もいた話、東京駅の列車清掃やいすゞ自動車でアルバイトをしていた話などが飛び出しました。

● 懇親会　18:35～20:30

副支部長の北原さんの乾杯から懇親会がスタートしました。奄美大島から参加された井口さんから、同じ奄美大島出身の音楽ユニット「カサリンチュ」を招待したいとのご提案がありました。「カサリンチュ」のメンバー・タツヒロさんは本校音響芸術科の卒業生です。校友会会員としてご参加いただければ支部の活性化にも繋がると思いますので、ぜひ実現してほしいと思います。学生時代の思い出として、授業を教わっていた先生のお話や寮の話、そして卒業後にすぐ活かすことができた「実学」を学ぶことが出来た、と懐かしみ、今の学生達にもぜひ「実学」を学んでほしいとお話しされていました。また、鹿児島を拠点としている老舗百貨店「山形屋」に勤めていた方がおり、創業者は近江商人の血を受け継いだ山形県庄内地方の人だということ、また店舗縮小の際に従業員を誰も解雇しなかったことなど、山形屋の歴史を教えてくださいました。話は尽きませんでしたが残念ながら時間となり、最後に全員で集合写真を撮ってお開きとなりました。

沖縄県支部

■設　立：平成元年5月27日　■登録会員：1074名
■支部長：山川 光雄　■E-mail okinawa@kouyukai.net又はkoyukai@stf.neec.ac.jp

第15回 沖縄県支部会員の集い

開催日：平成29年11月25日(土)　出席者：19名
会　場：那覇市「ホテルロイヤルオリオン」

● 支部の集い　19:10～19:30　司会進行：仲村副支部長

1. 開会挨拶
2. 支部長挨拶および報告　徳田支部長
◇出席者への謝辞
◇2年間の支部活動
沖縄県離島の集い
宮古地区　平成28年12月3日(土)
八重山地区　平成28年12月4日(日)
九州・沖縄地区支部長会　平成29年3月25日(土)
片柳学園創立70周年記念祝賀会　平成29年10月13日(金)
3. 学校代表挨拶および報告　事務局大門
◇創立70周年記念事業(片柳アリーナの完成、奨学金制度)の紹介
◇校友会50周年記念事業(時計塔寄贈、かまた祭講演会)について
◇現在の学科について　◇住所変更のお願い
4. 役員改選、会則改定
◇支部長　徳田→山川光雄さん(現副支部長)
徳田さんは副支部長に就任
◇役職名　相談役→顧問　併せて会則の役員名も変更
◇新支部長の山川さんが欠席のため、副支部長として徳田さんが挨拶

● 懇親会　19:30～21:30

支部総会が終わり、進行役を仲村さんから赤嶺さんにバトンタッチして懇親会が始まりました。まずはお決まりの乾杯ですが、祝い事は何回おこなっても良いということで、大城さんと東さんが指名されました。大城さんの挨拶は「皆さんの健康のために」、東さんの挨拶は「技術者を育てる工学院は重要な役割を担っている」とお話しされて、2回乾杯しました。隣に座られた石川さんは今回初参加だったのですが、学生時代に所属していたバスケットボール部の付き合いは未だに続いており、そこで話題に挙がったことで支部の集いに興味を持たれたそうです。また、偶然にも反対の隣に座られていた﨑山さんもバスケットボール部に所属していたそうで、部活話に華を咲かせていました。途中で喜屋武さんから追加の学校紹介があり、過去の校舎や学科のこと、在学生の県人会を行ったのは沖縄県が一番最初だったこと、そしてその県人会の皆さんで富士五湖へ行った思い出話などをお話ししてくださいました。最後に全員で集合写真を撮り、喜屋武さんの中締めの挨拶で終了となりました。

■ ミニ取材 ■

★ 沖縄県立博物館

那覇新都心(おもろまち)にある博物館と美術館の複合施設ですが、今回は博物館の見学に行ってきました。外観は琉球王国時代の城(グスク)を模しており、エントランスを入ると左右に博物館と美術館の入口があります。博物館の常設展示では、メインの大部屋で琉球列島の成り立ちから始まる沖縄の歴史について、そしてそこから繋がる各部屋には自然や文化の専門的な解説が展示されていました。また、屋外にも穀物を貯蔵する高倉や伝統的な民家も展示されています。
※常設展示は一部のみ写真撮影可となっております。

平成30年度 支部事業

支部会員の集い開催予定

支部会員の集いは2年に一度開催されます。

総会では役員改選の後、支部活動についてのご意見をお聞かせいただき、その後の懇親会では地元の校友との情報交換やネットワークづくりの活発化を図ってまいります。また、講演会、研修会、見学会、レクリエーションなどを積極的に企画している支部もあります。

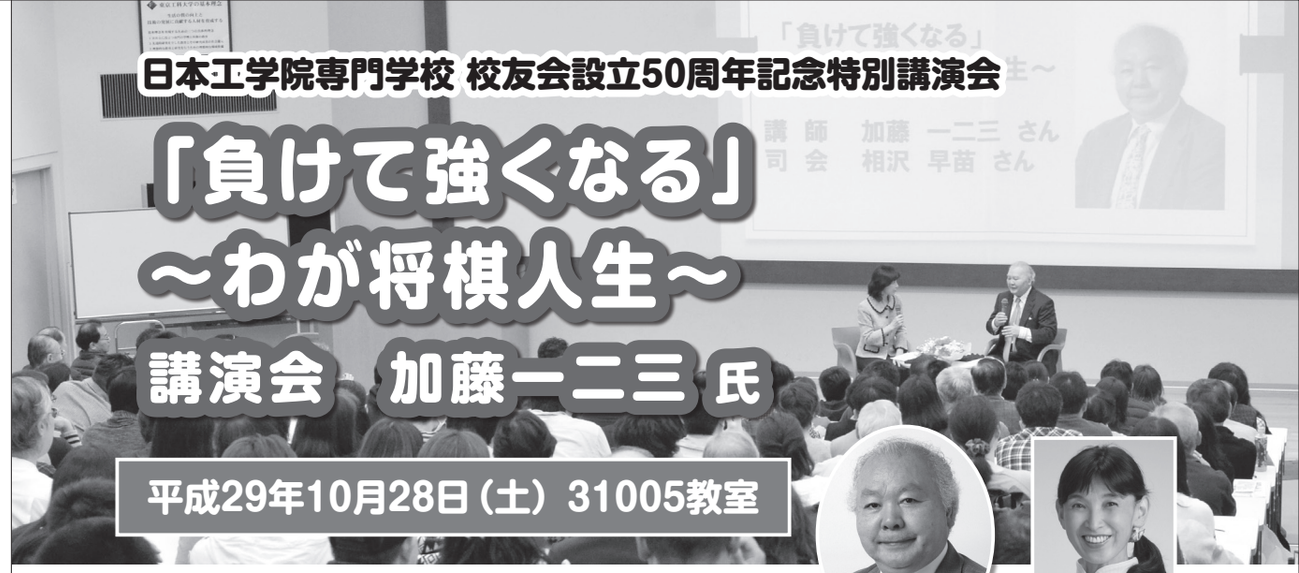
お知り合いの校友、姉妹校（八王子校・北海道校・東京工科大学）の卒業生をお誘いのうえ、多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

	支　部　名	開催月日（曜）	開　催　地	支　部　長
	山梨県支部	7月28日(土)開催済	甲府市	名取 宏典
	徳島県支部	9月 7 日(金)	徳島市	坂東 嘉彦
	香川県支部	9月 8 日(土)	高松市	渡辺 博文
	福島県支部	9月 15 日(土)	郡山市	荒 俊之
	岩手県支部	9月 29 日(土)	盛岡市	阿部 富美雄
	栃木県支部	10月 6 日(土)	宇都宮市	三浦 専治
	兵庫県支部	10月 6 日(土)	神戸市	新庄 吏奈
	福井県支部	10月 7 日(日)	福井市	山内 幸長
	熊本県支部	10月 13 日(土)	熊本市	清田 茂信
	愛媛県支部	10月 20 日(土)	松山市	二宮 清次
	沖縄県 宮古地区	10月 20 日(土)	宮古島市	山川 光雄
	沖縄県 八重山地区	10月 21 日(日)	石垣市	山川 光雄
	高知県支部	11月 10 日(土)	高知市	高野 雅勝
	長崎県支部	11月 10 日(土)	長崎市	釘山 威
	福岡・佐賀県支部	11月 11 日(日)	福岡市	穴見 誠
	愛知県支部	11月 17 日(土)	名古屋市	朝日 洋子
	宮崎県支部	11月 17 日(土)	宮崎市	川添 守
	群馬県支部	11月 24 日(土)	高崎市	山口 剛
合同開催	島根県支部	11月 24 日(土)	米子市	藤原 義広
合同開催	鳥取県支部	11月 24 日(土)	米子市	吉村 哲正
	韓国支部	調整中		李 芙暻
	台湾支部	調整中		唐 偉倫

卒業生の集まる会

- 北海道支部 懇親会 …… 9月15日(土)　於：札幌市
- 青森県支部 懇親会 …… 9月29日(土)　於：八戸市
- 首都圏支部 懇親会 …… 10月27日(土)　於：蒲田校
- 宮城県支部 懇親会 …… 11月10日(土)　於：仙台市
- 大分県支部 懇親会 …… 11月10日(土)　於：大分市
- 新潟県支部 懇親会 …… 12月 1 日(土)　於：場所未定
- 富山県支部 懇親会 …… 12月 1 日(土)　於：富山市

※日程・場所は都合により変更することがあります。



加藤一二三さん

▲司会・進行
相沢早苗さん

第52回かまた祭の初日10月28日（土）、15:00から棋士の加藤一二三さんをお招きして、「負けて強くなる～わが将棋人生～」というテーマでお話をしていただきました。

藤井聡太七段の快進撃や羽生善治棋聖の国民栄誉賞受賞など何かと明るい話題が絶えない将棋界で、引退してからもますます人気が高まってきた加藤一二三氏。独特の将棋哲学と会話でとても楽しい1時間30分の講演会を「かまた」誌にて再現いたしました。読めば元気が出て来ること間違いなし!!

加藤一二三 プロフィール

1940年1月1日福岡県嘉麻市生まれ。
嘉麻市名誉市民／仙台白百合女子大学客員教授
日本将棋連盟所属／棋士九段第40期名人
★公式戦通算対局数2505局（歴代1位）
★同通算勝利数1324勝（歴代3位）同通算敗戦数1180敗（歴代1位）
★現役勤続年数62年10ヶ月（史上最長記録）
★現役最年長勝利77歳1ヶ月（史上最高齢記録）
★タイトル獲得合計8期　★一般棋戦優勝23回
★1986年バチカンより聖シルベストロ騎士団勲章授与
★2000年紫綬褒章受賞
★2012年西日本新聞社より西日本社会文化賞授与
★2017年6月20日に現役を引退

▼ 相沢さん

本日は第52回蒲田祭そして校友会設立50周年記念特別公演会にようこそお越しくださいました。私、本日この会場の司会進行を勤めさせていただきます相沢早苗と申します。

この学校を卒業してもう何十年となりますけれどTBSテレビでお天気お姉さん等担当させて頂いてその時からの親しい森田さん、今活躍している森田キャスターもですね本日ゲストの「ひふみん」の大ファンと言うことで　「もう、ほんとに仕事が無かったら行きたいよー」って言う位のほんとに幅広い人気を誇る加藤一二三さんにお越しいただいております。

ここからは、ゆっくりと皆様に加藤先生の魅力をお届けしてまいりたいと思いますが、その前に簡単にではございますが、加藤先生のご紹介をちょっとスクリーンのほうでさせて頂きたいと思います。

1940年1月1日のお生まれなんですね。福岡県にお生まれになりました。そして1954年に当時の史上最年少棋士、史上初の中学生棋士としてプロデビューされました。この年どんな年だったかとちょっと調べましたら力道山の活躍でプロレス人気とかマリリンモンローが来日したりとか、そんな年からですね。こんにち迄活躍されていて、凄い事だなと改めて思いました。

そして1982年には将棋会の最高峰の称号の一つであります名人位を獲得されます。タイトル保持期間は名人、王位等合わせまして通算8期を誇られるという凄い記録でございます。これまでの勝敗は歴代3位の1324勝公式戦通算対局数と公式通算敗戦数共に歴代1位となっています。その他現役勤続年数や現役最年長勝利記録等、誰にも破る事ができないという記録を、ほんとに沢山お持ちで、今日はどんなお話が出てくるのかなと楽しみでございます。現在は仙台白百合女子大学の客員教授を勤められる等ほんとに幅広い活躍をされています。それでは、もう、とにかくご本人見たいですよね。拍手で皆さんお迎えください。加藤一二三先生です、どうぞこちらに。どうぞ本日は有難うございます。はい、よろしくお願いいたします。さあ、早速なんですけれども現役を62年10ヶ月という。そして今年77歳の喜寿ということで今回この会場主催者からですね、先ずはお祝いの花束をちょっとプレゼントさせて頂きたいと思います。ほんとにおめでとうございます。お疲れ様でございました。

加藤さん：有難うございます。

相沢さん：はい、ありがとうございます。じゃそれ（プレゼント）は後でまたお持ち帰りいただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。どうぞ、お掛けください。さて、今日は加藤先生、私何とお呼びさせていただいたらよろしいでしょうか。

加藤さん：あの、そうですね、えーとまああの「加藤九段」でもいいし、まああの「ひふみん」でもどちらでもよろしいです。

相沢さん：そうですか、はい、なんか、「ひふみん」とかなんかね、ちょっとね、あのいいですかね、皆様よろしければ拍手をお願いしたい。あ、じゃ、その様に呼ばせていただいて、「ひふみん」こんにちは。

加藤さん：はい、はい、はい。

相沢さん：いやあほんとに、現役は引退されましたが、今年はほんとにお忙しかったのではないでしょうか。

加藤さん：あーそうですね。もうほんとに、まあ色々とね、有りまして忙しいんですけれどもね。そうですね、とにかく14歳でプロに成りまして、直近で引退をしたんですけどもね。まあ、それまでに色々な事が有りますので話をしていきたいというふうに思っています。

相沢さん：はい、よろしくお願いいたします。いろんな所で将棋のお話はもうたっぷりとされていると思いますが、先ず最初、私はその「ひふみん」という基になった一二三さんというお名前はどういうことからなんだろうかなと。

加藤さん：そうですねこれはですね、私、福岡県の嘉麻市の出身で産まれた時は稲築町か村だったんです。でね、そこで産まれたときに私の叔父が名付けたらしいんですが、1月1日生れなんですよ。それから昭和15年生れなので、昭和15年が皇紀2600年という非常に大きくお祝いをした年だそうで、皇紀2600年の2を取って二、それから三男なんですよね、それで「いちにさん」と叔父が付けてくれたんですけどもね、まあ今となってはなかなか田舎の叔父さんにしてはよくいい名前付けましたよね。

相沢さん：はい、で、今日はこの学校、学園祭という事なんですけど、学校に入ってこられたところから、多くの方々から「ひふみん、ひふみん」と声が上がっていて、もう、凄い人気でしたけれど、その人気は今、戸惑いなどございましたか?

加藤さん：あのね、そうですね、まあ大変うれしく思っておりましてね、もうなんですかね、よくいろんな方から、若い女性の方からもね、声をかけられますけども、まあやっぱり有り難く嬉しいことですよね。ちょっと堅い話になりますけども一つ言えるのは、やっぱり何ですかね、若い女性の方ともまぁ和やかに挨拶を交わすというのがいいですよね。

相沢さん：もうね、あのー、（会場の）皆さんは加藤先生をご覧になっているだけでニコニコしてしまう。凄い癒しのオーラがいっぱいになっていますね。でも将棋の時にはほんとに厳しい面がね、もう多々見られたわけですけれども、特にその引退の年である今年は藤井聡太四段（※編集部注:当時）が大活躍で、将棋界は今年大きく変わってきた様な気がするんですが。ちょっと将棋の話もさせていただきたいと思いますが、今年の将棋界はいかがでしたでしょうか?

加藤さん：ほんとに大変感激すべき年で、藤井聡太四段が昨年ですね四段になって、私の四段になった記録をですね、抜きまして新記録を作ったんですね。で、私は昨年（2016年）の12月24日に読売新聞社主催の竜王戦という対局を聡太四段と戦ったんですね。これがですね将棋会館というのが有りますが、将棋会館に報道陣が50名来ましてね、これは将棋会館始まって以来の新記録でした。たとえばね大きなタイトル戦というのは将棋会館でも行いますけどね、報道陣が来るのは多くて10人位だったんですが、当日は50人も来ましてね。それで私感心したんですよね、私はまあ、長老ですからね落ち着いていますけれども聡太四段はね、初めてですよね。対局の開始までに20分間向き合ったんですよ、20分向き合ったんですけれども普通は10分くらいが普通なんですけれども、まあ、お互い早く部屋に入ったものですから20分間盤を挟んでこう静かにね対面したんですけれども、身動き一つしないし眉一つ動かさないで実に落ち着いていますよねと思って。「あ、そうか、藤井聡太はプロだ」と思いました。だって普通なんかちょっとさわさわするとかね、ちょっと何か手持ち無沙汰で20分の間なんかちょっと動きたいと思うはずなんだけれども微動だにしない。それで、「お、これは先ずは大物だ」とわかった。で戦ってみて、ま、実はね勝つチャンスが1回あったんですけれどもね、惜しくも1回あったチャンスを逃して負けたんですよ。これ悔しい。

相沢さん：そうなんですか。

加藤さん：悔しかったですよ。でもねその1回のチャンスを逃してからは、藤井さんは完璧、完璧に一気呵成に僕を負かしましたね。で非常にね、僕が非常に彼を高く買っているのはですね、対局中3時頃に私がおやつの時間が有るんです。おやつの時間に私がチーズを食べ始めましたらね、藤井さんがね少し間をおいてチョコレートを取り出して食べ始めたんですよ。その時に私は非常に感心しました。というのは、彼が先におやつを食べてもマナー違反ではない失礼でもない。でも私が食べるのを待って、彼がねチョコレートを食べ始めた時に、「お、これは、この少年はね、なかなか礼儀正しくてね、いい少年だ」と思ってね、私が藤井さんについて語ること、多々彼のこの流暢さを語っていることが多いんだけども、先ずはですね、彼の礼儀正しさというのをね、高く評価しております。

相沢さん：益々ね、藤井聡太四段を私たち大好きになっていってしまいますけれどもね

加藤さん：それとですね、藤井さんについては、彼は秀才です。で、私は大山（康晴）名人からは大天才と言われております。でね、それで藤井さんが、今は僕は思うのは、彼は秀才でね、私は18歳で八段になりまして、これは八段というのは将棋会の最高の段です。今は九段ですけれども18歳で最高のA級八段になって早稲田大学に入ったんですけれどもね。ですから二十歳前後の時に大きな仕事をしていると、藤井聡太さんはですね二十歳前後の頃にですね、たとえば私が18歳で八段だったんですから、藤井さんが二十歳頃に八段になってますと天才と言われます。ただね、なかなか大変で、彼がですよ二十歳頃に仮に七段だったとしましょう。七段だったら彼も不満だし、我々プロ棋士もですね、藤井聡太を、藤井さんをですね天才とは思いません。

相沢さん：そうなんですかー? 二十歳のときねー、5年後ですかね。でも高校進学とか藤井さんも今色々といろんな所で頑張らなきゃいけないところですから。先輩から見たら可愛い後輩ですか? それとも楽しみだな、とかどんな感じを抱いていらっしゃるんでしょうか?

加藤さん：そうですね、実は打ち明けた話をしますと、私が大学に進んだのはお世話になっていました朝日新聞の重役が言ったんですよ。「やっぱりね、これから視野の広い人生観を身に着けるために進学したほうがよろしいでしょう」ということで私は早稲田に入ったんですけれども。それでね、藤井さんですね、今高校に行くことを決めたそうですけれどもね、私は思うんですけれども、不可能ではないんだけれども出席日数というのが有りますからね。対局というのが1年間に大体60局あるんですよ。60局あってウイークデーに対局があるんですよね。土日の対局だったらば藤井さんもいいんだけれども、ウイークデーの対局で当然ながら対局の前は研究に、最低でも1日は研究時間が必要ですからね。なかなかですね、時間的にかなり大変だと思うんだけども、よく高校進学を決断したという風に思います。

相沢さん：加藤先生も中学の時から勉学と将棋を両立されてきた、というその道の先輩でもあるわけですけれども。ちょっと話が将棋から逸れるんですけれど、その学生時代、学校にはあまり行けなかったということが奥様とのご縁に繋がったという噂を聞いているんですけれど。

加藤さん：あのね、えーと、まああのえーとですね、まぁ実はね私、高校時代、高校時代は好きな学科が有りましてね、歴史が好きだし国語も好きだし社会も好きでね、たとえば歴史ですとね皆さんも同じだと思うんだけれども歴史の時間でたとえばね、キリスト教の歴史とか宗教改革とか十字軍の話とかですね、歴史が大好きだったんですよね。それからですね国語が好きで、結構国語はね、翻訳ものをよく読みました。たとえばドストエフスキーの「罪と罰」とかね、カラマーゾフの「兄弟」とか、それからそうですねよく読んだのが他にですねロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」とかが好きでね、もちろん日本文学も読みましたけども、そういうことで好きな学科は歴史とかそれから国語ですね、それから社会とかね。実を言うとですね、当校（編集部注:日本工学院専門学校）にはね、こちらは理系の専門学校で見事な素晴らしい伝統のある優れた理系の研究を教えてらっしゃる学校なんですけれども、実は私ね、どっちかといいますとありのままに言いますと、数学とね物理とかが苦手なんですよ。それで話がちょっとずれたけども。

相沢さん：そうですよね、私も今どうしようかな、と。でも思う存分お話ください。

加藤さん：それでね、今お話があったことはですね、こういった何だろう「ロマンスというものは、ロマンスは秘すれば花」、能を完成させた世阿弥が言いましたよね、「秘すれば花」と言いましたからね。それが答えです。

相沢さん：あ、そうなんですか。でもちょっと聞いてくださっている皆さんが消化不良を起こすといけないので。まあその時に奥様がノートをちょっととったりとかそういうサポートが有ったということが有った。いろいろなところに出ていますねそれはね。

加藤さん：まあ、一口に同窓生だった事であってね、それがね、精神的な張りとなってね、私は芯から思っているんですけれども、やっぱりね、そういった出会いが精神的な張り合いとなってね、18歳で僕、八段になったんですが、それはそういった張り合いがあってからのことというふうに確信しています。ですからね、藤井聡太さんね、高校に行くと決まったときに、たしか有名な鎌田（實）先生ですね、著名な方なんだけれども医者であってよくこのマスコミにも登場される鎌田先生はおっしゃったそうですよね「高校に行くことは聡太さんよろしい、場合によっては好きな女性と出会う事があるかもしれません」とおっしゃったのは、それは僕はあると思いますよね。但し、彼が行くのは共学じゃないといけませんよね。そこが要ですよ。

相沢さん：そうですよね、大事ですよね。ここも共学ですのでね。

加藤さん：いいですよね。共学というのは楽しい、お互いやっぱり張り合いがありますよね。と、思いません?

相沢さん：思います!　そうですね、この学校に今通っている皆さんは楽しいキャンパスライフを送っていると思いますけどね。ひふみんも公認の楽しい学生生活を送っていただければと思います。で、今の藤井さんの話だったんですが、藤井四段というと、とにかく今年は連勝記録だったんですが、その1勝目が先生だったんですよね。先生との戦いで藤井聡太さんの連勝の最初のデビュー戦というかそれが…。

加藤さん：あ、そうですね、昨年の12月24日にですね、私が負けたんですけれども、ほんとによかったと思ってます。何故かと言いますとね、藤井聡太さんの話題をマスコミが取り上げる時に、必ず私が負けた瞬間がテレビでも放送されて、負けましたって言ってしょっちゅう…。これね、同じ負けるならばね3局目で負けたんだったらね、全然話にならん。初めて負けたのがですね、これ良かったんですよ。同じ負けるならばね、やっぱりねトップで負けないといけませんよね。そう思いますよ。

相沢さん：そうですか、双方にとってすごく記念の1局だったのかなと思いますよね。

加藤さん：ありがたいことですよ。あのね、藤井聡太四段は言ってますよ。「沢山戦ったなかで加藤先生と戦った将棋はですね、大きなことを教えてもらった」と。藤井さんはNHKのインタビューで加藤先生に非常に教えられたと言ってて…2度目の時にはこう言いました。初めは加藤先生と言っていたのが3秒後には加藤大先生って言っておられました。これは冴えてますよ彼は。

相沢さん：そうですか、それでは今日の講演のテーマであります「負け」ということなんですけれども。やはり藤井聡太四段も敗れた時が有って、その時にツイッターで何かアドバイスというか「負け方」なんだよというお話をされたという事ですよね。

加藤さん：んー、とですね。ただね、藤井聡太さんね、もちろん秀才なんですよね。たぶん性格的に言うと、藤井さんは超負けず嫌い。僕

は負けず嫌いじゃない、負けるのは嫌なんだけれども、はっきり言って負けてですよ、負けてですね悔しいと思ってですね、異常な振る舞いに出ることはありません。でも藤井さんは結構負けたときに悔しい思いをするって事は聞いてるし、藤井さんも認めています。でも、だから藤井さんはきわめて負けず嫌いなので、そこが大きなバネとなって快進撃を続けてるというふうにも思いますね。つまり、「負ける」と、いうことですけども、私は長年の戦いの中で大きな勝負に負けて、負けた直後に大きな希望を持つ、これは大成功する、という事を感じて、実際に、具体的に言いますとね、昭和43年の大山名人とのタイトル戦で七番勝負で負けたんですけれども、途中負けたんだけども負けたときにですね、第七期十段戦のタイトル十段はですね「獲れる」という確信がもてて実現しました。もう一回は、昭和48年ですけども、中原（誠）名人との名人戦で七番勝負で4連敗した後、キリスト教の洗礼を受けた教会に行って祈っているときに、私は「あなたは今回負けたけれども、いつの日にか名人になれますよ」というですね、神様からのメッセージをいただきました。メッセージというのはちょっと微妙な話なんだけれども神様の声を聞いたわけではありません。でも、ある出来事によってあまりにも神秘的な出来事であったので、これは神様からのメッセージと受け止めて精進しまして、そのことがあってから9年後に名人になりました。つまり言いたかったことは「負けて成功する」という例を僕は2回もしておりますから、一応負けて強くなるということを出してますけれども、私よく小学生の子供達にも言うんですよ。要するに負けても大きな希望を持つ、ということを僕は経験しているから、皆さんも負けてそんなに落ち込むことはないよ。というふうに教えております。

相沢さん：そこでは負けることから学ぶことが沢山ある。っていうこと、ですね。

加藤さん：まあ、簡単に言うと、負けるということはゼロじゃない。反対に言うと、たとえ勝ったとしても、仮に50回勝ってもですよ、そこから大きな発展が無い、ということもあり得ます。ですから、私ちょっと一気に話が確信に触れますけども、昭和45年です。昭和45年にですね、私、当然ながら将棋の棋士としてはトップだったんだけれども、もう私の棋士人生、先が見えた、行き詰まった、というのを悟りまして。それで私は、キリスト教の勉強をしてキリスト教の洗礼を受けたんですけども、私の場合は多分、大山名人でも升田（幸三）名人でも羽生（善治）さんでもね、それから谷川（浩司）さんにしましてもね、いわゆる将棋会の名人達人たちはね、多分大きな挫折、大きな行き詰まりをね経験していないと思うんですけども、私ははっきり大きな行き詰まりを悟って、それでキリスト教の洗礼を受けてね、それから以後今までに約800回勝っております。これは成功と言っていいんじゃないんでしょうかね。ですから私が言いたかったことは一般論でどの人にも、あるいはちょっと何だか知らんけれどもいまいちちょっと冴えないな、なんだか努力するんだけどもなんかいまいち成功しないなってなことが、そういった状況があるかもしれない。でもそこで諦めてはいけない、絶対に打開策は有る、本当にそこを切り抜ける方法は絶対に有りますから、そこで諦めてはいけません。これは私の体験です。

相沢さん：何か、勇気が出てきました、今。

加藤さん：つまり、まあ色々な人生論がありますけれども、やっぱり人というのはですね、どんなときもやっぱり勇気を持って戦う。今日、この会場には社会人の方も見えていらっしゃいますからね。一応、いろんなことを僕、普段考えてますけど。たとえばご家庭を持っていらっしゃる方もありますよね。そうするとキリスト教的にはこういう風に言います。仕事を持って、結婚して、子供を授かれば、その子供をですねしっかりと育てていく。仕事があること自体大変ほんとに嬉しいことで幸いなことなんですよね。それから結婚して、それから子供を授かったらですね、子供をねしっかりと育てていく。これをですね、長くですねそういった人生を送る方はですね、今のローマ法王フランシスコは「隠れた聖人」といっております。聖人と言ってもね、いろいろと例えばマザー・テレサは有名な聖人なんだけども、有名な聖人になくてもいわゆる日常生活でですね、立派な人生を送った人のことを「隠れた聖人」と言っておって、それは身の回りを見ますとなかなか多い、という風に言っております。でね、まあ……つつがなく結婚生活を送っていくにはですね、勇気というものが必要だ、という風に法王は言ってます。勇気というのは大事ですよね。例えば、具体的に言いますと、法王がおっしゃったのは、こういうことを言ってますよね。子供が二人いたとして、子供が兄弟げんかを始める。そうするとお母さんは優しく穏やかに教えて兄弟喧嘩を止めさせる。これはね、神の働きだ、と言っております。またですよ、仮に夫婦喧嘩をしたとしましょう。夫婦喧嘩をしたとしてもですよ、まあ、しばらくしたらですね、こういう風に言うのがいいと言っていますよね。「嵐は去ったね、これから仲良くしましょうね」と、言って、できるだけその日のうちに仲直りをするといい、と言っておりますけども。もちろんね、家庭生活というのはなかなか微妙でそんなことで人生送っていくんだけれども、基本的にやっぱりせっかく出会って結婚したわけだし、それはね、山あり谷ありの人生に決まってますよ。たとえば僕、将棋の棋士だったらばね、今まで私ね1180回負けてますよ。妻にしてみればですよ、私が「行ってくるよー」と言って出掛けその日のうちに、夜の12時頃には帰ってきまして「負けた」、と言う事が1180回もあったんですよね。妻はその時に、こう思うと言っておりました。私の「負けた」という声を聞いたときにですね、妻は「次はまた頑張ろう」と瞬間的に思う、というふうに、今でも言ってますけれどね。そういう風に、やっぱりね苦しい試練の時というのは沢山あるわけで、その時になんとかですね、まあなんだろう、よく言われるのはですね、一つは聖書の言葉に有りますけれども、人というのはですね苦しいときにはいずれ近いうちに幸せに成る日が来ると思いましょう。ものすごく大成功しているとき、もしかしたら私の今の状況は結構成功しているんですけども、その時にはですね、大成功しているときにはいつの日にかあなたの大成功の時期は終わるよ、という風に自分で悟らなければいけないというのがあるんですよ。ですからやっぱり試練の時には、やっぱりね絶対に頑張っていれば誠実にね良心的にね二人協力しあってですね歩んでいますといい日が来るというふうにね思います。

たとえば一つ思いつきました、結婚して二人が同じ人生歩んでいますよね、キリスト教的に言いますと二人が歩んでいる夫婦の人生に気がつかないかもしれないんだけれども神様が絶対に見守って支えてくださっている。夫婦は神様が身近に共に歩んでくださっていることを気づくようにしましょう、というのがひとつのキリスト教の大きな教えなんですよね、ということになりますけどもね。またいろいろ話ししますけど。

相沢さん：ありがとうございます。だから奥様とかご家族の支えがやっぱりすごいんだなと、千何回もね負けたけど。

加藤さん：でも思いますけどね、1180回負けてますよね、だからほんとにですね、私としましては兎に角精一杯戦ってきて負けたのですからまあね、ただね、…深い深い話をしますと、人間の失敗というものは神の目から見れば、私は1180回負けてますけれども、神様の評価からするとそれはね、人間の評価と違ってね、「よく頑張ったよく頑張った」という風にね、神様がおっしゃるかもしんない。たとえば私の親しい人でこういう人がいます。会社員なんだけど、会社の仕事は80%つまんない、だけども後の2割頑張ってる。という僕の親しい人がいるんだけれども、それを聞いてね、私は将棋が大好きで将棋が天職で神から与えられた才能を精一杯使っていると思っていますけれどもでもね、会社員で仕事は80%つまらないんだけども、立派に仕事をされている友人。神の目から見ればいやな事を頑張ってやっている方が、高い評価を与えられるんですよ、という考え方もある。私は将棋が好きで、小学校の4年の時に僕はプロになれるということを悟って、それが実現して今日に至ってますけれども、それは私も神のお恵み、神の働きの元に今まできましたけれど、一方に人生の中で毎日毎日こんなしたくない仕事をしててね、でもそれで頑張ってるまあ2割くらいは喜んで働いている、僕はどちらの人の人生が神の目からみたらばね、褒められるかといったら、私の人生観は同じだという風に思っています。つまり人間というのは嫌々ながらも頑張って立派にこなすということは神の目から見たら評価が高いんです。だって頑張っているんだもの。そういうことなんです。だから僕なんかは、一応才能があってやっているわけなんだからね、それは、たとえばこういうのがあります。イタリアの聖人でシエナのカタリナというが居るのね、シエナのカタリナっていう方はですね神秘的に神の教えを聞いた方です。ある聖人は言っていますよ、シエナのカタリナは神様の教えをですね、直接神秘的に聞いたんだけれども、彼女はですね家に居るときシスターになる前に家でですね家族のために長年料理を作ってました。シエナのカタリナが家で家族のために料理をしてたということは、自分の努力によってしたことだから神の評価は高い。神様からカタリナは出会ってメッセージを託されたんだけれども、それは神から一方的に恵まれた事なのでシエナのカタリナは何の努力もしないで神から一方的に恵みを与えられたから、どちらかというと努力をして料理をしていた時のカタリナの方が神の目から見たら高い評価を与えられるというふうに協会は言うんですよね。一応そういう考え方がある。

相沢さん：日頃、大変なこととか、もうこの仕事嫌だなと思いながらやっているときもあると思うんですけれども…。

加藤さん：嫌と思うときもありますよね、でもね嫌と思うけど、仕事、まあ約束はしたしね、自分が行かないと迷惑がかかるしね、穴もあくしね、やっぱり行くか、と思って行くほうが本当は評価高いですよね。

相沢さん：そう思うといろんなこと頑張れそうな気がしてきますよね。今、神様の評価高いんだわ、こんなに苦しいのに…。

加藤さん：思いますよ、だからもしかすると僕は1180回負けてますけれども、私ですね、いつの日にか1180回負けたことに関してはよく頑張ったねといわれる日が来るかもしれませんよ。

相沢さん：今のお話、ものすごくパワーを感じるんですけれど、今日は1時間30分の講演会という時間をお取りいただいているんですが、将棋の対局って長いんですよね?

加藤さん：はい、長いですよ、長いのは朝の10時に始まって勝負がつくのは夜の12時頃です、長いです！　昼休みと夕食に休みが有りまして、後はぶっ通しで戦ってまして、長い長い戦いですけれども90%はですね考えて、、それはですね、いわゆる学問の場（※会場が学校であるということ）ですから言いますけれども、基本将棋というものは理詰めなんですよ、95%が理詰めで、何で理詰めかと言いますとね、局面局面において一番いい手というものが有り得るんです。考えていく、あるいは直感で閃いていく、考えていきますと一番いい手というのがですね、95%迄は分かります。相当理詰めの世界ではある。ただし後の5%位は、その局面で一番いい手は何かということをですね1ヶ月考えても分からない、という状況はあります。だから限界はありますね。ですから私は思いますけども、自然科学は絶対に真理がありますよね、自然科学には絶対真理があって、たとえば天文学者は言ってますけども、将棋の可能性・変化は10の220乗です。天文学者が言うにはですね、天文学は10の40乗位だというふうに言ってますよね。ですから勝負というものは、変化としては天文学の何倍もの複雑な可能性があります。それを我々プロは、パッと盤上を見た瞬間に「一番いいのはこれだ!」と95%は分かるんです、これが才能です。ですから自然科学の研究者もそうだと思うんだけれども、自然科学者はまめに、コンスタントに毎日毎日研究をなされますよね、ものすごい立派ですよね。ほんとに立派だと思うんだけども、将棋の世界は理詰めの世界とはいいながら1日に仮に8時間、毎日毎日仮に200日研究を続けてもですね、そんなにめっぽう見違えるくらい強くなるわけではない、理詰めなんですけども発想の転換とかが大切です。実は私、昭和55年にキリスト教徒としてイスラエルに旅して、それから聖書というのは旧約聖書と新約聖書がありますが、95%は歴史的な事実に基づいて書かれてまして、今イスラエルに旅をしますと2千年前とほとんど、あるいは3千年前とほとんど変わらない

景色があちらこちらに見られます。ですからね、そこでイスラエルに1週間旅をしてそれからバチカンに行きまして、その時バチカンで聖ヨハネ・パウロ二世法皇様、簡単に言いますと私はそのバチカンの広場で一対一の出会いを致しました。一対一の出会いは何かといいますと、私がヨハネ・パウロ二世の写真を50枚パチパチと撮ってですね、法王万歳と何回も言ってましたら、法王が私に向かってね、割合距離が近かった事もあって、約5万人が広場にいたのですけど、私だけに向かって手を振ってくださったんですよ。その瞬間私は、「やった」と思ったんですよ。後に、私はそのヨハネ・パウロ二世からですね、ご覧のように勲章を授けられました。ですから神秘的な出会いですよね。まさかヨハネ・パウロ二世がですよ、あの時バチカンのあの広場でね何か変わった人間が写真をやたら撮って法王万歳なんて言っていた人間がいるけども、その時手を振ってあげたけども、まさか何年か後に自分がその人間に勲章を授けることになるとはね。もしかしたら僕は平凡な人間だけれども、法皇様はやっぱりイエス・キリストの代理者ですから、もしかしたら法皇様はそういったことを、ひょっとしたらお感じになった可能性はゼロじゃないですよね。(※1986年 ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世から「聖シルベストロ教皇騎士団勲章」を受章)

相沢さん：いろんなお導きが有ったんだろうなって感じがしますよね。神秘的ですよね。いろんなお話を聞いていてこのパワーはどこからくるのかなと思うんですが、対局のときも10時間もかかるとか、その健康法などについてお聞きしたいですね…。

加藤さん：そうですねパワーはね、こういうことが有りまして。ひとつはですねフランスにルルドという巡礼地が有りまして、泉が湧いております。約150年前に、そこに聖母マリアが出現されて、そこでね泉が湧いて出たんです。150年前から今に至るまでですね、ルルドに行って水に浸かりますと奇跡がよく起こります。私もね昭和57年にルルドに行ったときにですね、お水もいただきました。どういったお水かというと、泉にボンと浸かったときにですね、私の体が、細胞がね、新しくね生まれ変わったように作り変えられたというような経験をしまして、錯覚でもない、思い違いでもない、明らかに私の体は生まれ変わったというふうな経験をしました。わたし思ったんだけども、その時に42歳だったんですが、たぶん自分は知らなかったんだけども、何か病気があるのを治されたと思っています。今、月に1回医者に行くんだけども医者は健康年齢を測ってくれましたら、健康年齢は46歳、骨年齢は27歳なんですよ。これは、普通だったら有り得ないわけですよ。その有り得ない事が起こっているのはルルドに行って水に浸かったときのお恵みが、今も残っているというふうに思ってますよね。私、よく言われますけども、最近ですと多いときはテレビ出演が1日にだいたい3つのテレビ出演をしております。ここのところ多いんだけれども2～3日前に医者に行って主治医に測ってもらったところ、現状維持で特に問題は無いということで非常に健康には留意しています。そうそう、そう言いますとですね、私以前ね、産業医学会の視聴講演をしたのですが、生涯現役という視聴講演をしたんですけども、私ね対局ですよね、殆ど対局はですね、睡眠をとることを大事にしていますけれど、僕この前驚いたんですよ。富山にいったんですよ。富山に行ってテレビ局の人と食事をしたらなんと、テレビ局の人はですね睡眠時間が4時間だというんですよね。で、一緒に食事をした時の飲食店の働いていらっしゃる女性の方は、やっぱり仕事の関係でお店が終わってから食事を夜遅く取るということもあって、やっぱりね睡眠時間が僅かだとおっしゃってるのを聞きまして、私は思ったんです。それはね、テレビ局の方が睡眠時間4時間で彼は非常にそれで調子がいいと言ってましたけどもね、これは絶対にいけませんよ。だって無理ですよ。基本、人間はですよ、絶対無理をしてはいけません。ですからね、睡眠時間はね、たっぷりと取らないといつか無理が出てきますからね。と、いうことでですね、皆さんどうですかね睡眠時間というのは。我々プロ棋士は寝ることには結構気をつけておりまして、たとえばですね、深浦(康一)九段というのはですね、僕に言いました。兄弟子の森下卓(九段)さんにですね、言われた。そこの対局が10時から始まるから、4時間前に起きなくちゃいけない。つまり人間の頭は起きてから4時間位になったら全開発進するということだそうで。ですからね、そういうふうに睡眠に関しては我々プロ棋士にも(気をつけていることが)ある。そういえばね、私の大先輩の升田幸三名人は、私が結婚して若い時に言いましたね。「加藤君ね、夜の8時に寝ろ」と。夜の8時に寝る様な人は普通いないでしょ。僕「アウト×デラックス」で夜の11時からTVに出てますからね、夜8時に寝たら僕の素晴らしい番組11時からのアウト×デラックス観ることができませんよね。でも当時は昭和35年当時ですから、まだテレビが全盛期ではないわけですよね。升田名人は言いましたよ、「加藤君、夜の8時に寝ないとだめだよ、夜の8時に寝たら君はね、名人になれる」と言ってましたね。つまり睡眠をしっかり取れよ、とおっしゃってるわけで。さらに升田名人は言ってましたよ、「大きな対局の前の日は好きな日本酒は呑まない、その前々日も日本酒は呑まない」と僕に言ってましたね。まあ、呑んだほうがいいんじゃないかと思うんだけどね。なぜかと言うとね、これって人間というのはある意味禁欲ですよね。禁欲というのは真に模範的ないい心がけ、だけども禁欲というのは、たとえばこういう話が有ります。かつて木村(義雄)名人と升田先生は名人戦を戦ったんです。(※1951年3月19日)　またね、升田先生って結構生真面目なとこがあるのね。名人戦にそなえてタバコを断ったんですよ。そしたらね、木村名人はタバコが好きですからね、対局中二人で向き合ってますでしょ、木村名人はタバコを吸ってるわけですよ。升田先生はタバコを止めているんですけれども、多分タバコを止めているといいながら木村名人のタバコの煙がこう来たらですね、やっぱり、吸いたい。と思ったでしょうね。で、これ木村名人が勝ったんですよ、だから僕、思うんだけども、直前の禁欲は、一夜漬けはやっぱりだめでしょうね。うん。そういう話。

相沢さん：そういうお話、ありがとうございました。色々なプロのお名前が出てきましたけれども、先生の場合は実力制の名人が今12名いらして、先生以外の11人の全部と対局されているわけで、いろんなエピソードをお持ちでね。今、相手のタバコが気になってというお話がありましたけれど。たとえば深浦さんの場合は羽生さんがおやつにアイスクリームを持ってきて、そのアイスクリームが溶けるのが気になっちゃって勝負に集中できなかったというエピソードも先生の著書に有ったんですけれど、やはりメンタルの面ってすごい大変ですよね。その、待っている時とかも。

加藤さん：今の話はアイスクリームが気になったのは羽生さんの方が気になったのですか?私ですか?

相沢さん：深浦さんが。

加藤さん：深浦さんが気になった訳ね。なるほど、なるほど。そうですよね。それでね、今お話に有った様に昭和12年に名人というのが出来まして、第一代が木村義雄名人、あと今の名人が佐藤天彦名人です。私は第40期名人、42歳で名人になったんですが、昭和12年に名人になった人と今の佐藤天彦さん迄全部と将棋を戦って指して、仕事ですから、一緒に旅もし、時には一緒に食事もしてる、いわば証人です。どういうところが証人かというと、例えば聖書ですよね。聖書は証人によって書かれたと言われています。証人というものは、その出来事の全部を経験して、見て、しかもある程度主役であった。私は歴代の名人と指しています。それから殆どの場合主役で指してる。それから主役でないときも一緒に指し合ったりですね色んな仕事をしてますから、殆ど将棋会の歴史はですね、自分で実際に経験してるし、全ての出来事に私がかかわってますから、いわゆる証人なんですよね。羽生善治さんについて語りますと羽生善治さんは19歳で竜王になり、25歳でタイトル全部獲ったんです。今ですね、竜王戦を戦ってますが、今期勝ちますと永世号を全部獲ることになりますから、大変な大偉業です。もし羽生さんがそうなったら、大きな表彰を受けることが有り得ると思っています。(※2018年2月 羽生善治竜王には囲碁の井上裕太七冠と共に国民栄誉賞を授与された)　また、ちょっと話のついでに言いますけれども、まだ一般には公表されておりませんけれども私事ですがわりあい近いうちに何か大きな賞を受けることになっておりまして、これは未発表なので何ていう賞か絶対にしゃべりません。

相沢さん：拍手ですね、何か頂けるんですね、大きな賞を。凄いですねまた近々テレビ、新聞などで…

加藤さん：いずれ発表されます。それとですね私、今、「ひふみんアイ」という歌を歌ってます。これは古坂大魔王先生の作曲で、歌ですから当然ながら民放テレビでは、これから私がですねコンサートに呼ばれることもあるんだけれども、結局こういってましたね。古坂大魔王先生はね「加藤さんのお話を聞いていると、14歳で四段になって以来、タイトルの前の日に負けると思ったことが1回も無いとおっしゃってる。私も加藤先生の歌を作曲した以上は」これはね言いましたよ「紅白狙い」と言いました。というのは、古坂先生は昨年紅白に出ていらっしゃるんですよ、その経験もあって、再び僕の歌で紅白狙いだとおっしゃってますが、はたしてNHKの紅白の審議会の方々はどう判断されますかね。(※加藤一二三九段は2017年の大晦日の紅白歌合戦に、ゲスト審査員として登場)

相沢さん：ピコ太郎さんでOKだったらなんだかね。

加藤さん：ただこれは2年連続でしょ、2年連続だしね、私の個人的な見解は「ひふみんアイ」って私のテーマの歌なんですよね、そうするとどうですかね、客観的に見るとあまりにも僕の応援歌ですよね、これがちょっと紅白はやっぱりなんといっても公の人気番組なので加藤一二三が前面に出ている歌なので、そのあたりがちょっとひっかかるかと思うんですけれども、みなさんいかがでしょうね。

相沢さん：紅白で聞かせていただければ一番いいんですけれども、今日この会場で聞かせていただくわけにはいかないんでしょうか? 今。

加藤さん：グットタイミング!　じゃあ!!

相沢さん：音楽も何も無いんですけれども、アカペラという形でも大丈夫ですか?

加藤さん：今でいいですか?　まったく突然の“違法一手”です。…冗談冗談。　歌～～～♪

相沢さん：ありがとうございます、いいですね!　じゃ、是非またこの今の歌声を紅白でもと、皆さんも願っていただければと思いますが、その「ひふみんアイ」というのは対局で反対側から盤を見るというようなことから「ひふみんアイ」と言われているということですけど。

加藤さん：これはですね、私は結構記憶力がいいんですよ。昭和54年2月7日の話、王将戦相手は中原名人、東京の秩父温泉の対局で2月7日の夕方ですね、どう指していいか分からないんで、中原さんが席を立った時にですね中原さんの座っている方へ回って暫し考えた時にですね、それまで思いもつかなかった素晴らしい手が浮かんできまして、その一手を指して、私は王将というタイトルを獲得しました。つまり、これは相手の方に回った時に素晴らしいアイデアが浮かんで大成功したという例で、多分この事を羽生善治さんが「ひふみんアイ」と付けてくれたんですね。あの羽生さんが「ひふみんアイ」と言ったのでこれは一気に広まりました。

相沢さん：羽生さんの命名だったんですか

加藤さん：そうなんです。羽生さんの命名、これは有りがたい事にですよ。一橋大学の学長とそれから最高裁の判事が対談したんです。一橋大学の学園報(※一橋大学広報誌「HQ」Vol.37「日本のリーダーが語る世界競争力のある人材とは?」)でこういうふうなやり取りでした。学長が聞いたんですよね、最高裁の判事に向かって、「先生これからね、勝負の世界を志す若者たちに何かいい言葉を送ってください」と言った。そうすると最高裁の判事、山浦(善樹)という判事が言いました。「将棋の加藤さんは相手のほうにね回って素晴らしい手を見つけた」とおっしゃった、「加藤さんくらいになると何もね相手の方に回らなくても分かるはずなんだけれども、それを敢えて相手のほうに回った時に素晴らしい手が浮かんだ」とおっしゃっていた。つまりね、「司法の世界を志す若者たちには加藤先生の態度を見習ってほしい」つまり相手の立場に立って考える。この事を是非ね、心がけてほしい、というふうにね。私はこれを一橋大学の学園報で読みまして大変感激しました。私が生まれてこのかた人生の中で、そうですね、ここ10年間の人生の中で大変感激

した出来事の三つに入ります。

相沢さん：相手の立場になって考える。ということはよく色んなところで言われていますけれども…。

加藤さん：よく言いますよね。まじめな話を言いますと、例えば付き合っている相手がしてほしい様にしてあげなさいというのも正論ですよね、でも相手がして欲しい様にしてあげなさい、と言っても例えば仮に私が相手にチョコレートをあげたとしてもチョコレートを嫌いな人もいるわけで。基本、相手がして欲しくないことはしない。それから相手がして欲しい様にしなさいというのは、まぁ一般常識ですよね。でもなかなか実際的な例でいうと、例えばね、こういうことがあるでしょう、ほんとはね相手に注意をしたい。でもね、注意をしようと思っても、私が仮に注意をした時に相手がですね素直にね謙虚にね受け入れてくれない人に忠告してもまずいですよね。だから基本的に誰でもですよね、言いたいことがある。というときに実際に言ってみて成功する例って、なかなか無いんじゃないですかね。そう思いません？　どうですか、なんか注意してあげたいって事ってありませんか？

相沢さん：注意されたい、というのは気にかけてもらってるというふうに思いますよね。

加藤さん：それは謙虚な方でね、普通はそういうふうに思いませんよ。あんたの言っている注意なんて全然自分聞く気が無いよ、自分が一番正しいと思う人が多いでしょ。僕はそう思うよ。だからそういう風になかなか微妙な話ですよね、という話になるんだけども。だから最近、僕、思うんですよ、余り人の事を僕はね、イエス・キリストは言ってますよ、「人を裁くな」と、言っていますよ。「裁くな」というのは何でかというと、僕の解釈では、僕もいろいろと最近思うんだけれども、イエス・キリストがよく言っていることは、「人を裁いてはいけない」それから「人の悪口を言ってはいけない」。裁いてはいけない、というのはね、どうしてかというと、やっぱり人には色々な事があって、その人の事情というのがあるし、全部分かって自分がね判断するわけではないんですよね。例えば、最近の例でいいますと、僕テレビに出るんですが、テレビに出た時にある観た人が、「加藤さんこういう風に言った方が良かったんじゃないか」という事があるんですよ。でもそれは、結局僕からすると、私にこういう風に言った方がいいんじゃないか、とおっしゃって下さった言葉は、僕言っているんですよ。でもテレビというのはカットするんですよね。だからほんの一例だけれども、いわゆる色んな状況があるから、やっぱりね、人のことをね、あまりね、裁いては間違うと思うんですよね。まぁ、そんなことで人の事を裁いてはいけないし、悪口もやっぱり言ってはいけませんよね。やっぱり人の欠点とか、自分が受けた仕打ちをですよ、例えば20年位前に自分が嫌なことを言われたとしても、それはね、そういったことはずーっと昔の話は、やっぱりね、忘れないと。というのは、私たちキリスト教徒は、「告解」「ゆるしの秘跡」というのに預かります。それは、自分の欠点とか弱さをね、神の代理人の神父に向かって言うんですけどもね。でもね、基本的にキリスト教というのは僕の解釈では、自分が他人から受けた仕打ちは、10年前の事は忘れなさい、というのがキリスト教の教えだと私は思っています。人によっては40年前もあの人にこういう事言われてね、あの人からこんなひどい事をされたということを言っている場合があるけれども、10年以上前の事はもう、まあ、時効ですよね、と思う。

相沢さん：自分のなかにも時効を持つということ、わかりました。今、色んな話を伺っていて、私もお客様の立場になって考えるとですね、私も質問してみたい、という方もいらっしゃると思います。では、会場の皆さんで、ひふみんに今日はこれを聞いてみたいって思って来られた方、今日は小学生の姿もおみえですし、「どうしたら将棋強くなれますか」みたいな質問もあるのかなと思うんですが、ご質問ある方どうぞ。せっかくなので、照れちゃってます？　今、迫力に押されちゃった。ご質問はいかがですか？　大丈夫ですか？　もうちょっと将棋について専門的な事を聞きたいとか…

質 問 者：いつもテレビで拝見していまして、非常に先生の話は楽しく拝見しています。それで、以前先生がおっしゃられたのが、AIが今すごく発達してきていて、それで囲碁なんかは今AIの方が強くなってきています。将棋もAIが強くなっていて、でも先生は「AIが勝っても人間は負けたことにならない」というか、「人間はまたAIとは別なんだ」というようなことをおっしゃっていたと記憶しているんですけども、このへんのAIと人間との関係はどのようにお考えなのか、ちょっと伺いたいのですけれども。

加藤さん：そうですねAIですけどもね。AIというのは我々プロ棋士がですね1年間に約2500局の公式戦を戦います。で、AIの研究者は、我々の指した心血注いだ将棋をですね、50年分位のですね、それを棋譜といいますけど、棋譜をデータとしてボンと入れて研究をしてるんですよね。ですから、基本ですね、AIの研究者は我々のですね、ほんとにね熱っぽい名局をですね、研究するとして使ったんです。先ずは、それが根本ですね。その結果、AIのレベルは相当上がっておりますけども、私の経験では、私の判断では、未だAIに私は負けるとは思ってません。たとえば具体的にこの前ですね、私がテレビ解説をしている時に、AIと私と同時に将棋の研究をしたんだけれども、私が先に解説している手順をですね、しばらく経ってから、5分くらい経ってからAIがですね、同じ事を解説として示してくるんですよ。つまり、私はスピード競争においても勝ってます。基本的に我々プロ棋士達の精魂こめた戦いの棋譜を、彼らは、研究者は使わせてもらっている訳ですから、私はね、一言、研究者は我々プロ棋士に向かって、棋譜を使わせてもらって非常に感謝している事を、一言、言って欲しいんですけどね。まあ、そういうことなんだよね。

質 問 者：ありがとうございました。

相沢さん：そうですよね。先生たちの積み重ねを参考、というか全部データにしてやっているわけですものね。

加藤さん：だってそれが無かったらアウトですよ。それが無かったら研究なんてできっこありませんよ。はい。

相沢さん：解説に関してはスピーディで先生の方が早いということですね。

加藤さん：そうですよ。

相沢さん：（質問者に向かって）よろしいですか、有難うございました。他にいかがですか？ ちょっと聞きたいなって事は、はい、そちらでどうぞ。

質 問 者：今日は、楽しいお話を有難うございました。将棋の事についての質問なんですけれども、ネットとかコンピュータとかテクノロジーが便利になって将棋がとても指しやすい環境になっていると思うのですけど、ネットとか対局をバーチャルなコンピューターのところでやっていると、負けた時の、実際に顔を合わせて対局する時の痛みが無くてちょっとそれがつまらない、と思うのですが、ネットとリアルに顔を突き合わせて対局する事と、僕は個人的には顔を突き合わせて将棋を指すことはとても大事だと思うんですが加藤先生はどう思われますか？

加藤さん：そうですね、私はこう思っているんですよね。今、藤井聡太四段も練習用にコンピューターを使っているという風に聞いてます。ただ、聡太さんの先生の杉本さんは、彼は軽い気持ちで研究用に使っている訳で深く入り込んでいる訳じゃない、と言っておりまして、それは良いと思います。プロ棋士が練習用に少し使っているのは聞いていますけども、実際にあるんだけども、私は公に言っています。早く、そういった練習方法は止めましょう、と言ってます。そんなコンピュータを軽く練習用に使ったとしても、全然身につきません。私のようにね、大山名人にしても升田名人にしても、全て自分の頭と心で研究して戦ってゆかなければ絶対にトップには立てません。コンピュータのちょっとしたテクニックをですね借りても、大体、我々は勝負師なんで人の知恵を借りてとかね、たとえば我々は共同研究をしてません。でも、ある時から若手棋士たちは3人や5人といった人数で共同研究をしています。学問等では共同研究はとても良くてですね、例えばノーベル賞を取る人だって共同研究でノーベル賞を取っている訳だから、僕は思うんだけれども、自然科学は共同研究は絶対に必要でしょう。でも、将棋というものは一人で戦って勝てる訳なので、人の手を借りるという精神はですね、よくありません。コンピュータも練習に使うというけども、ほんとにね、程々にして自分の腕に自信を持ってやっていかないとトップには立てません。という風に思っています。

相沢さん：練習用くらいに考えている分にはまだいいかなっていう…

加藤さん：練習といいましても、僕なんかでも今でも一人で練習するんですよ。練習するときは一日に5時間くらい練習しまして、私は42歳で名人になったんだけれども、名人になる前の日は3時間位の練習で名人になったんですよ。つい先日、引退直前ですね、2週間ホテルに泊まりこんで研究したんだけど負けました。ですからね、僕は3時間の前の日の研究でトップに勝った人間ですよ、だけども2週間も研究しても勝てなかった今の現実がある訳で。私は心の中で神様に申し上げました、「私はこのように研究しました。その結果が負けて引退となったんですね。わかりました。私はその状況を静かに受けいれます」　で、私はこういう風な経験をしました。先ほど「ゆるしの秘跡」に預かる、と言いましたけれども、我々は神父が代理人、協会に部屋が有りまして神父と信者が一対一で話をします。こういったことがありました。引退する、今から約3ヶ月くらい前に神父が僕に向かって言いました。「あなたは仕事を嫌いですか?」と、聞きました。「いやぁ、仕事は好きですよ」と、言ったんですよ。そうするとその神父は「では、仕事をしなさい」と言ったんです。私はその時思ったんです。私と神父が二人で話をしているとき、イエス様がすぐそばで聞いていらっしゃるというのが信仰。イエス様がそばで聞いていらっしゃるところで「仕事をしなさい」と言われたから、神父が「これからあなたには仕事が沢山有りますよ」と私におっしゃってくれた。イエス様は「あなたには仕事が沢山有りますよ」とおっしゃっていると私は受け止めて、実はそれが実現しているところです。つまり言いたかったことは、引退という状況が分かった段階で、端的に言うと、信仰の無い方からみるとビックリされるんだけれども、私は神秘的にイエス様から「あなたには仕事が有りますよ」と言われたと受け止めてます。それはその通りになってますから本当でしょう。

相沢さん：よろしゅうございますか、皆さん。じゃ今のお答えは「将棋というのは人と人が向き合ってやるというのが良い」という事ですかね。

加藤さん：ですからね、今多くの人が、「加藤さんの様な熱っぽい将棋こそ見たい」と言っています。

相沢さん：熱っぽい試合！　この蒲田にも将棋教室があるということですので、そういう所で熱っぽい試合をしながら加藤名人を目指していきましょう。他にご質問ありますか?

質 問 者：加藤先生、将棋の国際化について、囲碁ですとかチェスは外国人の方もやられますけども、将棋で外国人の方が強いという話は余り聞かないのですが、国際化についてどうお感じですか?

加藤さん：やっぱりね、思うんですけども、ひとつはあまり国際化に関して言うと、なかなかね、問題点の方から言うと、欧米にはね、世界にはね、西洋諸国のチェスというのが有るんですね。西洋諸国というのも非常に発達しているから、それと、ひとつはもしかしたら将棋というものは漢字なんですよね。駒が漢字で書かれてますね。ですから、それがちょっと難しいかと思います。欧米にチェス世界が有るわけですよね、だからチェス世界の人たちが入ってこようとはしないし。

質 問 者：テレビで拝見したんですが、亡くなられた大内（延介）さんがインドだの東南アジアへ行かれて結構、普及というか現状見て帰ってこられたというテレビ番組を観たんですが、そういうことをやられているプロの棋士の方がおられるのかどうか。

加藤さん：今、大内さんの話が出ましたが、大内さんは私も親しいので、はっきり言って人の生き方は様々で、大内さんほど世界を旅した人はいないんですよ。例えば大内さんといいますとね、かつて名人戦であと一歩というところで敗れまして。悔しい…今までの大きな将棋会の歴史の中でですね、負けたんだけど本当は勝てた、という棋士が2～3人居るんだけれ

ども、大内さんはあと一歩で名人になっていたのに、そのあと一歩が届かなかった。それで、聞くところによると、大内さんは約1年間世界中を旅したけども、やっぱりなんだろう悔いは癒されなかった。と、いう風に聞いてます。つまり大内さんがインドに行ったのは知っているけども、彼ははっきり言って旅人として行っています。

相沢さん：旅で行って、向こうでちょっと将棋を…という風にされてたんですねー。

加藤さん：彼の本当の目的は、大内さんはシルクロードについて語らせるとね、本一冊書けるんだけども、でもね基本的に彼は旅人として行っている。その中でシルクロードのことを、僕は、例えばNHKの「シルクロード」という番組を観ていまして、最も感激したのがですね、イエス・キリストが亡くなった後に、12人の弟子がね世界に散らばっていったんだけれども、聖トマという方がインドに教えに行きました。で、「シルクロード」の番組では、聖トマが教えに行った場所まで行って紹介してくれてまして、はじめて実際に本当に聖トマという方がインドに行ったという事を番組で見て非常に感激しましたね。いわゆるイエス・キリストには12人弟子（十二使徒）がおりまして、一人はエジプトに行ったりギリシャに行ったり、トルコに行ったりそれからスペインに行ったり、宣教にいったんだけれども、聖トマという方はインドに行ったという事は、「シルクロード」という番組で実際にこの目で見ました。話には聞いていたんだけれども。というわけで、大内さんはシルクロードを旅したんですけれども、けっこうやっぱり苦しかったらしいですよ。なぜ苦しかったかというと、やっぱり空気がね。彼は（標高が）高い国にも行っているから、空気が薄いところにも行っているから、相当ね病気になったこともあるんですね。ということですかね。

相沢さん：先生ご自身はもっと世界的に将棋が広まって欲しいなというお気持ちはありますか。

加藤さん：うーんとですね、なんというかな。私の指した将棋はモーツァルト、バッハのように名曲（名局）を指しているから、私の指した良い将棋は100年200年たっても色褪せません。だってバッハとかモーツァルトもですよ、作ったときですよ、まさかですよ、今ですね、世界中の人達が演奏会だったりCDだったり、彼らの芸術作品が世界中の人たちに喜びを与えるなんてことは予想だにしなかったでしょう。もしかしたら今から500年も経つとですよ、加藤一二三の将棋も世界中の人たちに伝わっているかもしれませんよね。

相沢さん：そう考えるとすごいですよね。壮大な夢が広がりますよね。

加藤さん：それは有り得るわけですよ。そういうもんだと思う。

相沢さん：ありがとうございます。なので100年200年後に海外でも…。

質問者：たまたま、わたしの知人に中国語がぺらぺらの人がいまして…中国でしたら漢字ね、それはもちろん得意でしょうし。そういったことがありましたんで、どんどん国際化にむけて普及できればいいんじゃないかなと思いまして。やっぱりプロの方がどんどんそういうふうに世界に広めていけば将棋も広まっていくんじゃないかなと思いまして…。

加藤さん：年に一回は将棋連盟も国際フォーラムでやってまして、世界各国の人達を招待しているんですよね、年に一回はやってますが、まだなんだろう、エンジン全開とまではいっていないですね。

相沢さん：今のクラシックの音楽のように何年か後に、ひふみんの「この対局が、これは美しい将棋だった」とか、そうしたことが世界でささやかれる日がくるかもしれないと考えると楽しいですね。

加藤さん：ほんの一言ね。音楽に詳しい方はわかってらっしゃると思うんだけど、ウィーンフィルハーモニーといって世界一・二のオーケストラが日本にやってきたんですよ。終わった後に将棋連盟のサッカーチームとサッカーの親善試合をしたんですよ。で、ウィーンフィルの名士たちと将棋の棋士たちが会食をした。そのときね、福原さんが言ったんですってね、「将棋の加藤一二三九段はモーツァルトの“レクイエム”という曲を聞いて、名人になった」とウィーンフィルの達人たちに話をしました。そうするとウィーンフィルの達人たちは言いました「我々は、モーツァルトの宗教曲の“レクイエム”という名曲を、加藤先生のように励ましの曲としては聴いていない。将棋の加藤一二三さんという人は天才だ」と言ったんですね、これがちょっとオチなんですよね。

相沢さん：そうですよね。天才ですよ、本当に。加藤先生が出された「求道心」という本の帯を羽生名人が書かれていますけれども「加藤先生こそが最も強烈な天才列伝です」っていう文章が付いていてすごいなと思いましたけれども。今日はもう天才パワーが炸裂という感じですね。

加藤さん：今日はじめて当校（※日本工学院専門学校）に来ましてね、本当にですね、立派なですね、学園運営をなさってますよね。本当に生徒の数も多いし、素晴らしい色々なことを教えていらっしゃっていて、数は多いし歴史もありますよね。率直に言いましてね私、早稲田が母校なもんだから、先日早稲田の大隈講堂でトークショーをしてきたんですけれども、今日は感激しましたよ。本当に当学校のですね校長様からね要人、トップの方々がですね、私にですね挨拶をされましてツーショットで写真を撮ると、本当に感激しました。というのはですね、本当に身の引き締まる思いだったんですよ。というのは、私、大隈講堂で先日トークショーをしてきたんだけども、そのときのスタッフと出会ったのはですね、そうですねわずか5名くらいとしか会ってませんでね、べつになんですか、学園の部長が来たわけでもないし、別にどこ吹く風、こちらは、だって学長様をはじめ全部がですよ、本当に総出でね出迎えて下さってましたよね、しかもね握手攻めですよ。だから本当に本当にね本当に感激しました。本当に身の引き締まる思いでした。これからできるだけ気をつけて当校のことをマスコミでなんとかですね、という風に思っております。

相沢さん：ありがとうございます。本当に今、マスコミ界でも大活躍で、先ほどマツコ・デラックスさんの名前も出ましたし、CMでは嵐の相葉ちゃんとも、いかがですか芸能活動は。

加藤さん：あのねー、嵐さんて方は高感度の高い素晴らしいタレントで、どうもね、僕は最近ね、ジャニーズさんのタレントさんと気が合いますね。

相沢さん：そうですか。じゃあジャニーズJr.から始めるというのも良いかも、面白いですね、見てみたいですね。ジャニーズJr.で、ひふみんが踊るという。芸能活動も本当にお忙しいと思いますし、また将棋の指導の方も大変だと思いますし。これからのひふみんさん、どのように行こうかと思っていらっしゃるんですか。

加藤さん：まずはやっぱり、しっかりと、今の幸せな人生、今、この状況をやっぱり神から送られたと信じておりますから、これをしっかりと受け止めましてですね、これから先も立派な人生を送っていきたいという風に考えております。以上ですね。

相沢さん：やはり著書の中にも、若手の努力をベテランになっても続けるとおっしゃってまして、今も、やはり常に初心でということですかね。これからもね。

加藤さん：そうですね。

相沢さん：それでは質問もここまでとさせていただいて。今日は、これから益々お忙しくなられると思います加藤一二三先生、いや、ひふみんですね。開場の皆さまから大きな温かい拍手でこれからのひふみんさんの人生を…。本当に今日はありがとうございました。

加藤さん：最後に一言。ちびっ子の皆さんにね。将棋ね、できるだけ入門書を読みましょう。それから詰め将棋の本も読みましょう。将棋も学問と一緒で本を読みませんと上達しません。よろしくお願いします。

相沢さん：入門書から。ひふみんの入門書読みやすいですね。

加藤さん：最近出しておりますし、だからね、よく子供に将棋教えるんですけども、はっきり言ってね本を読まないと10人と指してもまったく進歩はありません。だから本を読みましょう。

相沢さん：先生の本を、私も今回こうしてお相手をさせていただくということで沢山読ませていただいたのですが、どの本も私のレベルでも判るという、すごく判りやすい。難しいことを難しくっていう本は沢山あるんですけれど、大変なことをすごく判りやすく書いてあって、文章が染み込んで来るように読めるので、そして前に出された本も新たな形で加筆されているので、皆さん是非、先生の本の宣伝ではないですけれど、そういうところから将棋をすることによって集中力が付くとか、先を読むことを覚えるとか、論理力が付くっていうそういうこともありますね。

加藤さん：締めの言葉なんですけれども。藤井聡太さんは素敵だったんですけれども、将棋を指すことによって礼儀ということを学んでほしい。礼儀という事は言い換えれば人を大切にする思いですね。これが身に着くと、藤井聡太さんはこれが出来ているから、彼はこれからトップに立てる、という風に思っていまして。礼儀というものが、やっぱりできていないとですね、これは良くないですね。

相沢さん：このまま、ずーっとお話をお聞かせいただきたい気持ちもございますが、ここで終局とさせていただきます。今日はお忙しい中、ありがとうございました。改めて、加藤一二三さんに大きな拍手をどうぞ、ありがとうございました。

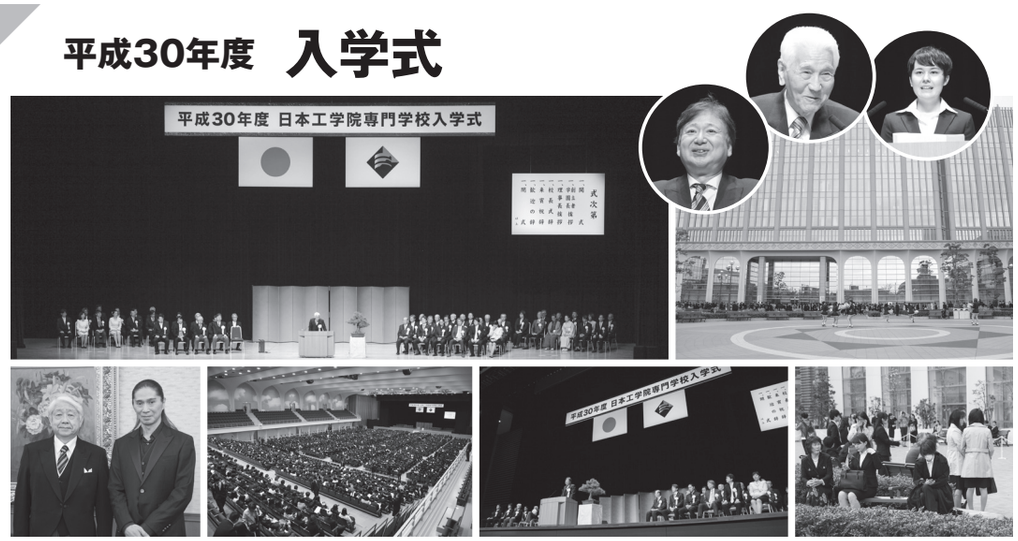
以上、加藤一二三氏による「負けて強くなる ～わが将棋人生～」講演会でした!
ありがとうございました!

平成29年度　卒業証書授与式

平成30年3月15日　日本工学院専門学校片柳アリーナにて、卒業証書授与式が行われました。片柳鴻理事長、千葉茂学校長の挨拶に続き、各カレッジの代表者に卒業証書が授与されました。また校友会からは、カレッジの中から成績優秀、研究実績、優秀作品賞等で選ばれた学生に、桂田忠明会長から「校友会長賞」として賞状と記念のトロフィーが贈呈されました。引き続き桂田会長からこの学校を巣立ってゆく卒業生に励ましの言葉を頂戴しました。その後、東京商工会議所大田支部会長　浅野健様、一般社団法人大田工業連合会会長　船久保利明様からご祝辞を賜りました。

学校で得た多くの知識や経験はかけがえのない思い出として卒業生の胸に残り、社会で大いに活躍してくれることでしょう。

平成30年度　入学式



平成30年4月7日、片柳アリーナにて入学式が挙行されました。曇り空で風が吹き、肌寒い日でしたが、入学生、保護者合わせて5,000名を超えるご参加がありました。片柳ホールや10階の階段教室とも映像をつなぎ、ご来場いただいたすべての皆様に様子をご覧いただきました。片柳学園長、千葉理事長、前野校長の挨拶に続き、大田区長 松原忠義様、地元衆議院議員 平将明様、ダンスパフォーマンス科トータルプロデューサー SAM様からのご祝辞を賜りました。

また外のセントラルプラザエリアでは、ダンスパフォーマンス科の学生で作る、本校のチアダンスチーム「ティアラ」の歓迎パフォーマンス、さらには体育系クラブや学生委員会によるサークル勧誘が行われ、例年より華やかな入学式の日となりました。

第52回　かまた祭　テーマは「瞬彩 ～今、この瞬間を～」

平成29年10月29日、30日の2日間、第52回かまた祭が実施されました。テーマは「瞬彩～今、この瞬間を～」。

片柳記念ホールで開会式がはじまり、理事長先生や地元自治会長、学校長先生のご挨拶をいただいた後、50周年を迎えた校友会より寄贈されたモニュメント時計のご報告を映像を使ってご紹介させていただきました。

今回のかまた祭は片柳アリーナをはじめイベント会場が各所に設置され、大変多くの催し物が用意されました。

また、セントラルプラザでの模擬店は、学校長カレーが30分程度で売り切れたのをはじめ、多くのお店で売り切れ続出の大盛況な状態でした。イベントや売店以外では、各科それぞれの特色を生かした在校生による教育成果や将来宣言などの発表や展示と盛り沢山の内容となりました。

2日目の午後は台風が直撃というアクシデントがありながらも、売店をはじめイベントもほぼ最後まで終えることが出来、大変有意義な2日間になりました。

第49回　体育祭　テーマは「一致団結 ～仲間との絆を、今一つに～」

5月21日(月) 大田区大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森 陸上競技場において、第49回体育祭を開催いたしました。開会式では、チアダンスチーム「ティアラ」によるパフォーマンスやオープニングの演出をするための衣装制作、フラッグ、キャノン砲の台数を8台に増設など、趣向を凝らして大変盛り上がりました。応援ゲストに「にゃんこスター」さんが激励に登場し、盛り上がりは最高値に達しました。競技では、クラス対抗リレー、パン食い競争、障害物競争、玉入れ、応援綱引き、ストラックアウト、スリッパ飛ばし、だるまさんが転んだ、キックベース、ドッジボールなどで大変盛り上がりました。カラオケ大会では、非常に盛り上がり順番待ちの列が2時間以上になるほど大人気でした。学生がいろんなところで楽しめ、活躍できて本当によかったと思いました。Tシャツコンテストでは、多くのクラスがすばらしいオリジナルのTシャツを掲示し体育祭を華やかにしてくれました。今年は、協賛していただいた企業様から、ジュースやお茶、野球観戦チケット、食事券などをいただき、さらに体育祭を盛り上げてくれまた。今年も130名近くの学生が学生委員会ACTに入っていただき、体育祭の事前準備、競技進行、表彰式、抽選会などが円滑に行えました。このようなすばらしい学校行事をやり遂げた学生委員会ACTの学生は、この成功体験をもとに今後も挑戦し続けて更なる活躍が期待できます。

第53回「かまた祭」のお知らせ

平成30年 10月27日(土)・28日(日)

平成30年度 第53回かまた祭は、今年も蒲田キャンパスにて東京工科大学との共同開催で2日間行われます。片柳アリーナや校舎など、校内を余すことなく利用した盛大な学園祭で皆様の来校をお待ちしております。ぜひ足をお運びください。

★ 多くの方々のご来場をお待ちしております! ★

★ 卒業生の皆様へ 首都圏支部(東京・神奈川・千葉・埼玉)「会員の集い」のお知らせ

「AIは愛! AI love you!
AIは地球を救う!? 怖がらないでAI!!」
～AIについての正しい知識と認識をもとう～

開催日 平成30年10月27日(土)
第53回かまた祭初日です!

元 Google 米国本社 副社長兼
Google Japan 代表取締役社長
むらかみ のりお
村上 憲郎さん
講演会

当日のスケジュール

★ 卒業生限定! 学校内見学ツアー!!
13:00～14:00(予定)
3号館12階校友会ラウンジにて受付
見学場所はお楽しみ♪

★ 村上 憲郎 講演会
15:00～16:30 (3号館10階31005教室)
入場料無料!

★ 卒業生の集い
17:00～18:30 (1号館1階フーズフーII)
会費：1,000円
(卒業生以外：2,000円、小学生以下：無料)

遠山、只埜、佐藤(充)、野田(雅)、脇、猪口、大西各先生に会える!! 他の先生にも会えるかも?!

詳細が決まり次第、Web等に掲載いたします。
(9月下旬予定)
予約方法など、お見逃しなく!!

※写真はイメージです。

★ 卒業生限定：学校内見学ツアー!!
★ 村上憲郎講演会　★ 卒業生の集い
の詳細を9月下旬の校友会HPまたはFacebook(下記QRコード)をご覧頂き、ご確認くださいます様お願いいたします。また、ご希望者数によってはご観覧出来ない場合もございますのでご承知ください。

◀校友会HP (校友会NET)
◀校友会 Facebook

3号館12階の校友会ラウンジ開放中! ご休憩やお待ち合わせの場所としてご利用ください。

お問合せ先
日本工学院専門学校
校友会事務局
koyukai@stf.neec.ac.jp
☎03-3732-8183
(平日：9:00～17:00受付)

校友会Facebookのご案内

校友会では、Webサイト「校友会NeT」と並行して、Facebookページを開設いたしました。
「会員の集い」の案内や学校行事の案内等を、写真と共に掲載しています。
また会員同士のコミュニケーションの場としてご利用いただくことにより、
懐かしい名前に出会うこともあるかもしれません。ぜひご覧ください!
（ご覧いただくには、Facebookのアカウント登録が必要です）

https://www.facebook.com/kamatakouyukai/

パソコン版

スマートフォン版

日本工学院専門学校校友会 ソーシャルメディアポリシー

日本工学院専門学校校友会（以下、校友会）では、会員・準会員（学生）、教職員ならびに関係者がソーシャルメディア（Web、blog、Facebookなど）を利用するに当たり、以下の姿勢・行動や基本ポリシーを守るものといたします。

基本ポリシー

（1）不特定多数の人が利用可能な媒体であるという事を意識し、校友会の会員・準会員（学生）、教職員、その他の第三者に対し不利益や損害を与える行為、プライバシーや財産などを侵害する行為、名誉もしくは信用を毀損する行為、権利や人権を侵害する行為、またはその恐れのある行為をしないよう注意をします。

（2）公序良俗に反する行為、犯罪行為または犯罪に結びつく行為、またはその恐れのある行為を行わないように注意をします。

（3）特定の個人や集団、または特定の思想、心情、宗教、政治等に対する誹謗中傷や差別的、排他的な発言を行いません。

（4）営利を目的とする行為や、宗教、政治の勧誘、またはその準備を目的とする行為は行いません。

（5）違法性のあるコンテンツや有害なプログラムを使用する行為、またはその恐れのある行為、誹謗・中傷・差別的表現を含む発言や投稿は行いません。

（6）法律、法令または条例に違反する行為、またはその恐れのある行為は行いません。

（7）その他、校友会が不適切と判断する行為は行いません。

（8）ソーシャルメディアにおいて発信した情報が、瞬時に伝達され、一度拡散した情報は容易には消去できないことを理解したうえで、表現や記述には細心の注意を払い情報発信を行います。

ご利用の皆様へ

（1）校友会公式ソーシャルメディアの利用は、利用者の責任において行われるものとし、ご利用中に発生した直接・間接の損失・損害に対し、校友会はいかなる責任も負いません。

（2）校友会は情報をソーシャルメディア上に掲載する際には、細心の注意を払いますが、その内容の正確性、妥当性、ご利用目的への適合性、安全性について保証するものではありません。

（3）校友会は、予告なしに掲載内容を変更・削除することがあります。また、予告なしにソーシャルメディア自体の運営を中断または中止することがあります。

（4）校友会公式ソーシャルメディアに掲載されている情報（内容、商標、標章、ロゴマーク、画像、音声等を含む）に関する一切の著作権、商標権、その他の知的財産権は、原則、校友会に帰属します。また、無断で、私的利用その他法律によって明示的に認められる範囲を超えて、複製等することを禁止します。

（5）校友会公式ソーシャルメディアのご利用に際しては、日本工学院専門学校校友会ソーシャルメディアポリシー「基本ポリシー」および「ご利用の皆様へ」を遵守しご利用くださいますようお願いいたします。

キャリアサポートセンターからの報告

キャリアサポートセンターでは、就職･進学とあらゆる進路先のサポートをしています。求人募集は、景気上向きの為、順調に推移をしておりますが、厳選採用は変わりありません。学生にとっては就職活動も社会人になるための大きなステップであり、不安を持ちながらも勇気を持ってチャレンジしている状況です。その様な中、各方面で諸先輩方が活躍されているおかげで、求人を引き続き頂くことができ感謝しております。

当センターでは、業界ごとの「合同企業説明会」、企業ごとの「個別企業説明会」を開催しております。諸先輩方の活躍をお聞きするたびに、社会人になる厳しさと共に、生き生きと活躍されるお話しをお聞きし、卒業後の進路に向けて夢を膨らませています。今後さらに校友会の皆様と協力して学生のやる気を高めていただきたいと考えております。

また、地元就職の状況や求人などございましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。学内行事等でご来校されたときは、3号館1階のキャリアサポートセンターに、ぜひお立ち寄りいただき、情報交換などお待ちしております。

■ 平成30年度 キャリアサポートセンター行事日程表（一部掲載）

	開催予定日	期 間	行 事 名	参加予定	場 所
1	平成30年3月13日(火)　実施済み	1日間	合同企業説明会	50社	3号館12階　学生ラウンジ
2	平成30年4月18日(水)～20日(金)　実施済み	3日間	春季合同企業説明会	396社	片柳アリーナ
3	平成30年5月30日(水)　実施済み	1日間	大田区企業合同説明会	31社	ギャラリー鴻
4	平成30年6月21日(土)　実施済み	1日間	ポートフォリオプレゼン講評会(デザインカレッジ)	36社	6号館教室
5	平成30年9月28日(金)　予定	1日間	学生作品プレゼン講評会(クリエイター･デザイナー)	未定	3号館教室
6	平成30年10月17日 (水)	1日間	秋季合同企業説明会	未定	片柳アリーナ
7	平成30年11月2日 (金)	1日間	音楽産業系企業限定セミナー	未定	中野サンプラザ
8	平成30年11月17日 (土)	1日間	審査会（声優・演劇科）	未定	大講義室(予定)
9	平成30年11月	1日間	医療機関合同説明会	未定	未定

求人情報ご提供のお願い

当校後輩学生へのご求人、業界へのアルバイト情報が有りましたら、
下記までご連絡ください。尚、お問い合わせの際には、
当校のOB&OGである旨をお伝えください。

お問い合わせ先

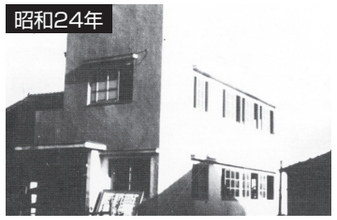
日本工学院専門学校
教育･学生支援部 キャリアサポートセンター担当
TEL:03-3732-5610(直通)　FAX:03-3732-1123
E-Mail: job-kmt@stf.neec.ac.jp

Webからの直接求人申込(新卒対象のみ)は
当校HPより「採用企業の皆様へ」のバナーよりご入力ください。

写真でみる　校舎の変遷

昭和22年(1947年)5月、学園長 片柳 鴻により、大田区女塚3丁目(現在西蒲田5丁目)に絵画、
洋裁教育を目的に創設された「創美学園」。以来66年間の歴史を誇る校舎の変遷をたどりました。

創立時の校舎



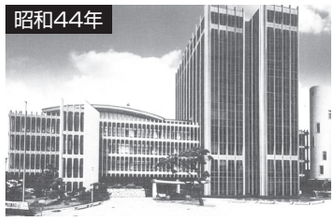
増築校舎が完成

木造校舎が完成

増築した木造モルタル2階建て校舎

1号館が完成

2号館が完成



3号館が完成

5号館が完成

当時の6号館(旧5号館)が完成

7号館が完成

6号館(旧5号館)が完成

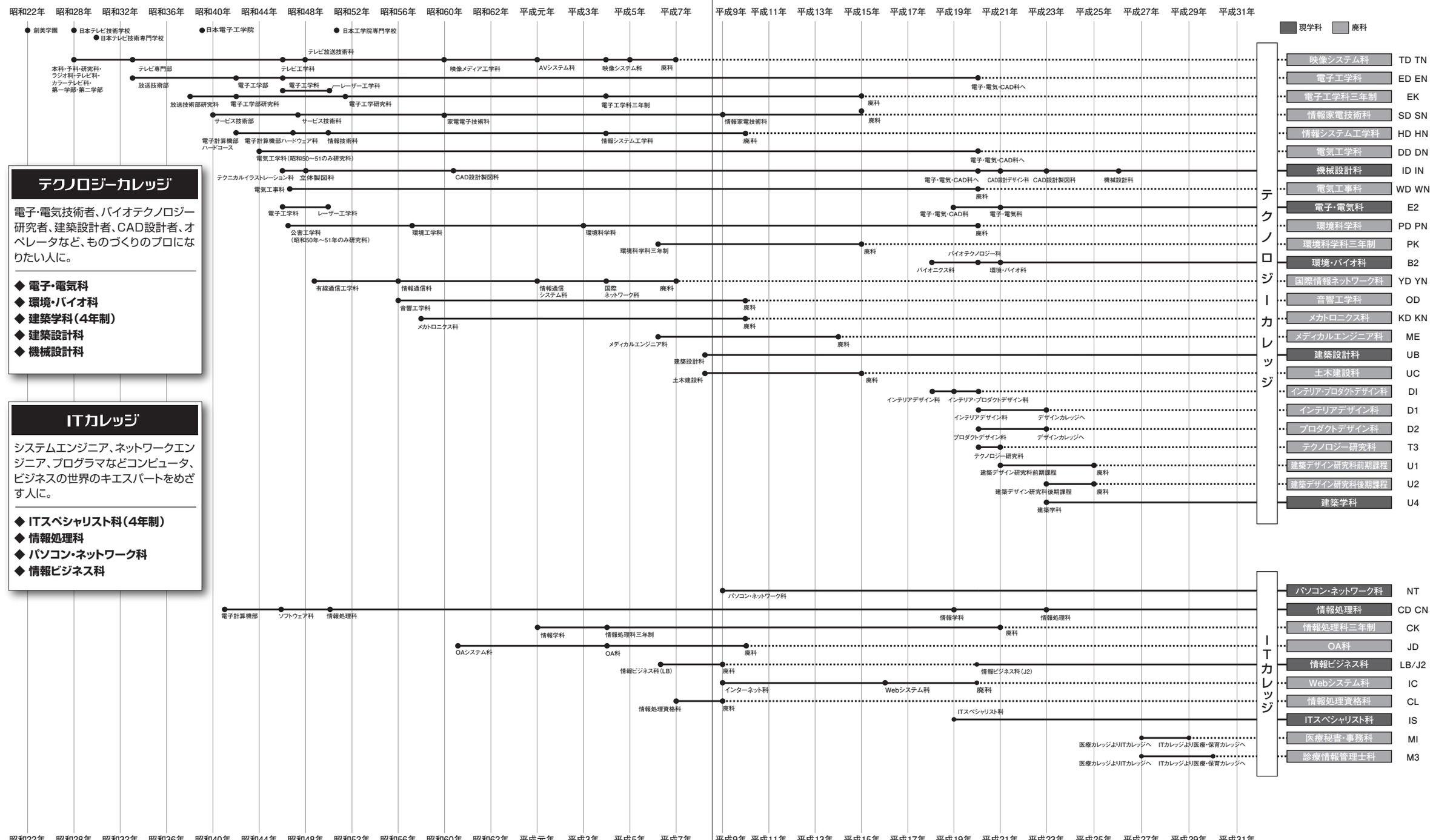
8号館が完成

アニメ･デザイン館
(6号館を増築)が完成

蒲田校
学科の変遷

**実践的なカリキュラムで学べば、
あなたの未来は無限大。
あらゆる業界をカバーする多彩な学科群。**

日本工学院（蒲田）には、それぞれに高い専門性を備えた6つのカレッジのもと、個々の分野で真に社会で求められているプロを養成するための多彩な学科がある。学問のための学問ではなく、職業人として必要な教養とスキルを磨くために練り上げられた実践的なカリキュラム。それらは、日本工学院という1つのキャンパスに集うことでまったく新しいコラボレーションを生む可能性をも秘めている。



テクノロジーカレッジ

電子・電気技術者、バイオテクノロジー研究者、建築設計者、CAD設計者、オペレータなど、ものづくりのプロになりたい人に。

- ◆ 電子・電気科
- ◆ 環境・バイオ科
- ◆ 建築学科（4年制）
- ◆ 建築設計科
- ◆ 機械設計科

ITカレッジ

システムエンジニア、ネットワークエンジニア、プログラマなどコンピュータ、ビジネスの世界のキエスパートをめざす人に。

- ◆ ITスペシャリスト科（4年制）
- ◆ 情報処理科
- ◆ パソコン・ネットワーク科
- ◆ 情報ビジネス科

クリエイターズカレッジ

ゲームやアニメ、CG、テレビや映画で活躍するディレクターや声優・俳優、デザイナーなどをめざしたい人に。

- ◆ 放送芸術科
- ◆ 声優・演劇科
- ◆ 演劇スタッフ科
- ◆ マンガ・アニメーション科四年制
- ◆ マンガ・アニメーション科
- ◆ ゲームクリエイター科四年制
- ◆ ゲームクリエイター科
- ◆ CG映像科（3年制）

デザインカレッジ

デザイン力、キャリアデザイン、人間形成の3要素をバランスよく学び、ワンランク上のデザイナーをめざす人に。

- ◆ グラフィックデザイン科（3年制）
- ◆ インテリアデザイン科（3年制）
- ◆ プロダクトデザイン科（3年制）
- ◆ Webクリエイター科（3年制）

ミュージックカレッジ

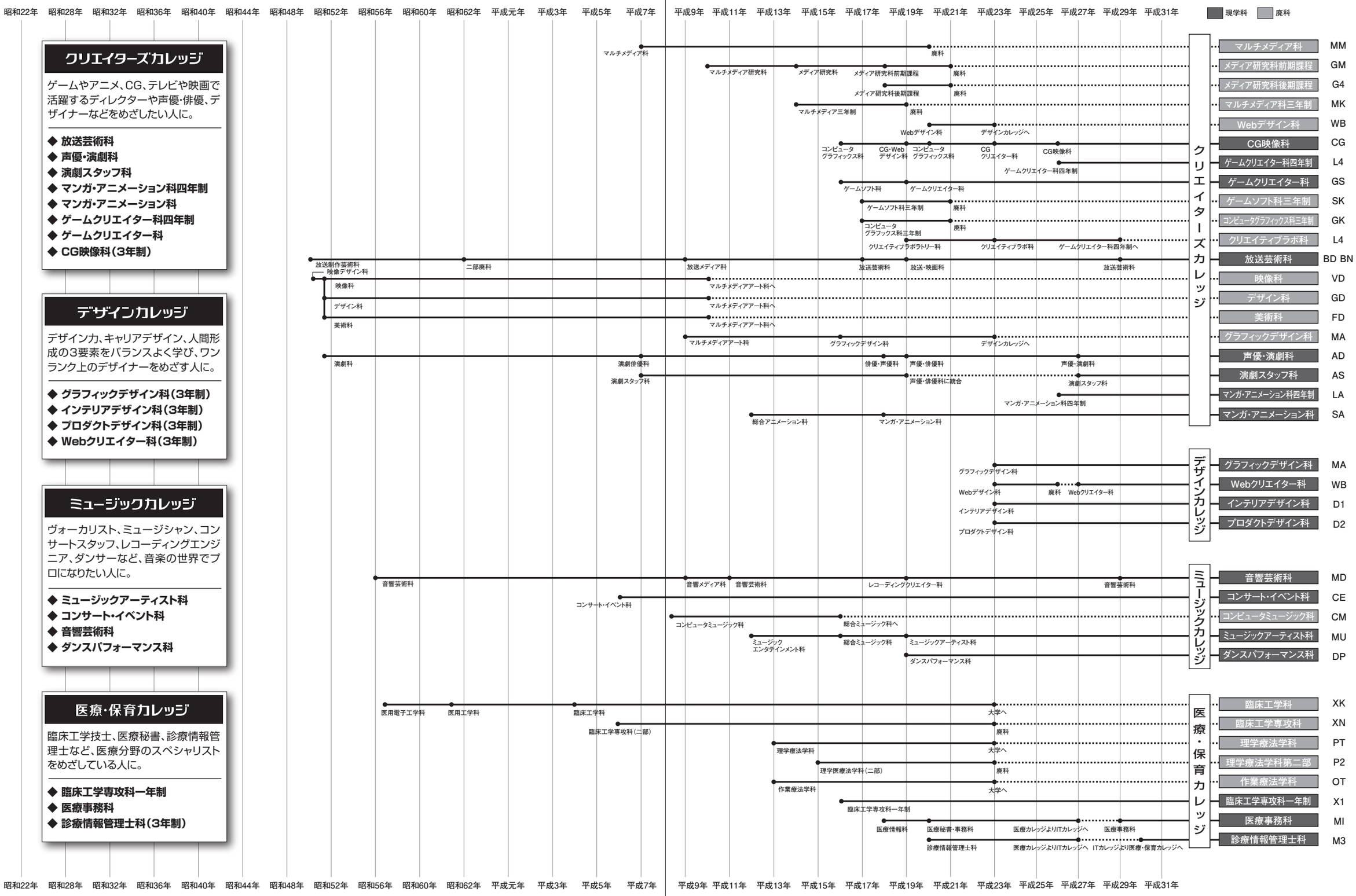
ヴォーカリスト、ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーなど、音楽の世界でプロになりたい人に。

- ◆ ミュージックアーティスト科
- ◆ コンサート・イベント科
- ◆ 音響芸術科
- ◆ ダンスパフォーマンス科

医療・保育カレッジ

臨床工学技士、医療秘書、診療情報管理士など、医療分野のスペシャリストをめざしている人に。

- ◆ 臨床工学専攻科一年制
- ◆ 医療事務科
- ◆ 診療情報管理士科（3年制）



先生から一言 学科から卒業生へ

デザインカレッジ　グラフィックデザイン科

みなさんお元気ですか?

本科は映像･デザイン･美術科としてスタートし、映･デ･美の3学科時代、学科を再統合したマルチメディアアート科時代そしてグラフィックデザイン科と時代とともに変化してきました。表現する･描くことに情熱を持つ後輩たちの指導で毎日忙しく過ごしています。9月末の秋期展、年度末の卒業制作展など、力作ぞろいの展覧会にぜひ足を運んでください。

上段左から：山本先生、川口先生、鶴田先生

ミュージックカレッジ　コンサート・イベント科

コンサート･イベント科 OB/OGの皆さん、今でもコンサートやイベント楽しんでいらっしゃいますか?

本科も今年の1年生でついに25期、4半世紀を迎えました。一重に卒業生の皆さんとともに積み上げてきた歴史の賜物です。改めて御礼申し上げます。

4半世紀ともなると、入学してくる学生が本科を選ぶきっかけとなったコンサートが、皆さんが手掛けられたものの数が圧倒的に多くなりました。スタッフロールの中で、皆さんの名前や所属されている会社を見つけては、25年の歴史の重さをヒシヒシと感じる次第です。

前列左から：山下先生、島立先生、富樫先生、古川先生、中里先生、吉野先生
後列左から：田中先生、鈴木先生、嶋田先生、花田先生、森永先生
小峰先生、鈴木(まい)先生も元気です!

一昨年から運用を開始しました400人スタンディングの旧DOSに替わるAlchemy Stage(通称A-Stage)と、新施設4000人収容の片柳アリーナも3年目を迎え、様々なアーティストやイベントでの本格運用が軌道に乗ってまいりました。どちらも皆さんが名前を御存じのアーティストや番組、イベントなどが時折開催され、まさしくプロ仕様での実習設備であることが証明されております。また旧3号館から新3号館に移ったBox Stageは今も健在で、Box Stageと同じく3号館の地下1階にある片柳ホール(通称地下ホール)でも、かまた祭のときにはお笑いイベントやアイドルイベントを実施するのも定着してきました。また3号館1階でのウェディングドレスショーも21期以降の皆さんには懐かしい思い出かと思います。本年度もさらにパワーアップしたイベントで皆さんのお越しをお待ち申し上げております。

片柳アリーナでの実習(ライブ)

クリエイターズカレッジ　演劇スタッフ科

演劇スタッフ科の卒業生の皆さんお元気ですか。

平成26年に演劇スタッフ科が復活し、現在35期生を迎えております。

現在は、現場で活躍されている卒業生の方々が講師として教える立場で在校生を育ててくれています。そして、学校生活から現場の話まで幅広く指導してくださり、益々活気ある演劇スタッフ科となっています。

平成28年には、地下4階に新しく大道具の作業場が新設され、新たに在校生が学ぶ環境が整い、様々な舞台セットが製作されています。在校生は、舞台監督･音響･照明･大道具･デザインが専攻でき、プロの世界で働くために日々努力を重ねています。

実習や授業の様子などは、演劇スタッフ科のブログをご覧ください。

お忙しいとは思いますが、お時間がある時、ぜひ学校にお越しいただければと思います。鶴巻先生、山本先生がお待ちしております! さらに八王子から戻ってきた森岡先生、美術科の卒業生の山田先生、私 寺嶋も教職員として頑張っております。

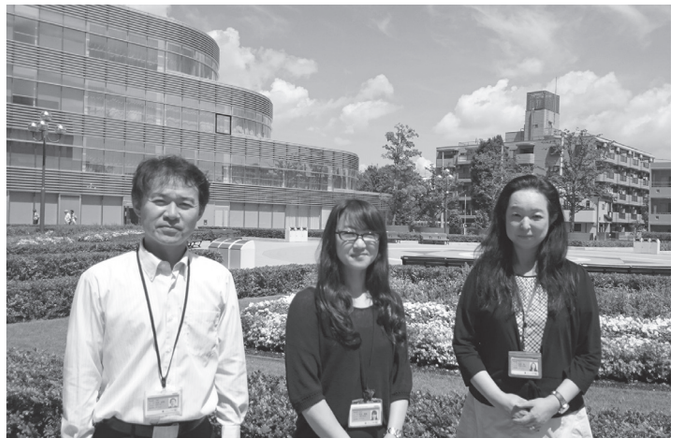
皆さんがご活躍されている様子をお聞きするのを教員一同楽しみに待っています。

● 演劇スタッフ科ブログ　http://blog16.neec.ac.jp/

左上から時計回りに
山本先生、鶴巻先生、山田先生、森岡先生

ITカレッジ　情報ビジネス科

情報ビジネス科の卒業生の皆さんお元気にお過ごしでしょうか。今年は入学者数も増え早いもので11期生を迎えることが出来ました。当科は職業実践専門課程の認定学科となり、各種業界や業種のニーズに応えられる人材を送り出せるよう、毎年カリキュラムを刷新しながら日々努力しております。「人間力･即戦力」という観点は設立当初から変わらずグループワーク学習と資格の取得に力を注いでいるので、当科の卒業生はコミュニケーション能力が高いと企業様から大変好評を頂いております。



左から：大矢先生、兒玉先生、風間先生

年代的に仕事やプライベートの面で生活環境が変わり多忙な日々を送っている人も多いかと思いますが、人生の先達である卒業生の皆さんのお話を聞くことは在校生にとって貴重な機会となります。ぜひ在校生に現場からの「ナマの声」を聴かせて頂ければ嬉しいです。

心身共に健康であることが何より幸せなことだと思います。適度にストレスを発散して、無理はせずに、そして当たり前のように送っている日常の生活に感謝をしながら、笑顔を忘れずに毎日を楽しくお過ごし下さい。

皆さんの益々のご活躍を教職員一同祈念いたします。ぜひ「かまた祭」にお越し下さいね。

テクノロジーカレッジ　電子・電気科

卒業生のみなさん、お元気ですか。

電子･電気科（E2）は、今年12期生を迎えることができました。電子工学科（ED、EN）、電気工学科（DD、DN）、電気工事科（WD、WN）から電子･電気･CAD科を経て、電子･電気科として日々教育に取り組んでいます。今年度は、新しく女性の教員を迎え、11名で教育にあたっています。

現在は、3コース（電子工学コース、電気工学コース、電気工事コース）に分かれて学んでおり、従来からの第一級陸上特殊無線技士、第二種電気主任技術者、第二種電気工事士の資格認定は変わりありません。

学生たちは、「技術力」、「人間力」を身につけ、さらにスマート技術、AI、ドローン等の最新技術にも対応できる知識や技術を学んでいます。

前列左から：齋藤先生、内田先生、三須先生、川村先生、菅原先生、横山先生
後列左から：佐々木先生、板倉先生、知久先生、渡邉先生、長須先生

卒業生の皆さん、蒲田にお越しの際はぜひお立ち寄りください。お会いできる日を楽しみにしております。

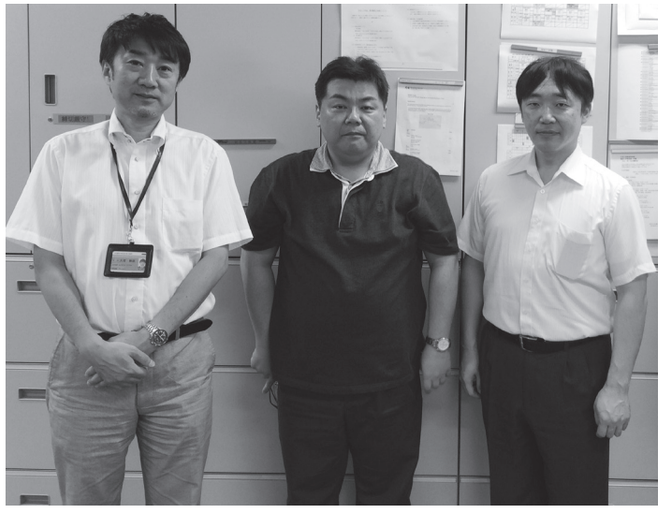
医療・保育カレッジ　臨床工学専攻科一年制

臨床工学科、臨床工学専攻科の卒業生の皆様お元気でしょうか?

多くの卒業生を社会に送り出してきた臨床工学科（3年制課程）、臨床工学専攻科（夜間過程）は平成24年に同法人、東京工科大学医療保健学部臨床工学科へ移行しましたが専攻科一年制課程も本年度で閉科することとなりました。

長きに渡りお世話になりましたOB,OG、関係者の皆様にこの場をお借りしましてお礼申し上げます。

本科は日本に臨床工学技士が誕生した黎明期から現在まで日本の医療を支える技士教育を実施して参りました。卒業生も3500名と日本の臨床工学技士業界を支える大所帯であることは間違いありません。皆様の今後のご活躍をお祈りしております。



写真左から：大塚先生、藤原先生、森田先生

蒲田近くにお越しの際はキャンパスに是非お越しください。

企業奨学金について

4月24,25日、3号館12階の校友会ラウンジにて企業奨学金授与式を行いました。各カレッジより学業やコンテスト等で優秀な成績を収めている学生を選出。日頃よりお世話になっている株式会社城南サービス様ならびに株式会社有隣堂様から、頑張っている学生を支援する目的でいただいた奨学金を給付しました。

授与式には本校担当者や学生の指導教員をはじめ、企業の代表者様にもご参加いただき、厳粛かつ温かい雰囲気の中で行われました。表彰後には城南サービス代表取締役 磯収二様、有隣堂常務取締役 永井謙史様に激励のお言葉を頂戴しています。これまでの頑張りと若者のこれからの将来に向け、多くの大人が学生を笑顔と拍手で称える姿が印象的でした。最初緊張していた受賞学生たちも最後は笑顔で「さらに高い結果を残せるよう頑張ります」と、力強く頼もしい宣言をしてくれました。皆さんの更なる活躍を期待しています。

城南サービス

有隣堂

平成30年3月
教職員退職者報告

永年ご指導くださいました次の先生方が、定年または一身上のご都合により退職されましたのでお知らせいたします。

氏　　名	所　属　等　（退　職　時）
小西　孝悦	蒲田校　テクノロジーカレッジ
小野　義一	蒲田校　教育・学生支援部
熱海　謙一	蒲田校　図書館
秋山　　潔	蒲田校　デザインカレッジ
大門　悦子	蒲田校　教育・学生支援部
桑藤　利文	蒲田校　教育・学生支援部

永年のご指導ありがとうございました!

学校法人 片柳学園
日本工学院専門学校 教員募集のお知らせ

日本工学院専門学校では全学科にかかわる教員（正規職員･契約職員）･非常勤講師の募集をしております。ぜひ、卒業生の皆様のスキルを後輩の育成にお役立て下さい。本校の教育理念にご賛同いただき、教育に熱意のある方のご応募をお待ちしております。卒業後、実社会で経験され、身につけられた知識、技術及び社会人として必要なマナーを活かし、教育に熱心に取り組むことができる方を希望しております。なお応募学科によって求めるスキル、募集資格等が異なりますので、詳細は下記のホームページをご覧下さい。

応募学科　**全カレッジ　全学科**

URL：http://www.katayanagi.ac.jp/recruit/index.html

※ホームページに掲載のない学科については下記までお問合せください。

お問い合わせ先

〒144-8655東京都大田区西蒲田5-23-22
日本工学院専門学校　教育･学生支援部　教員採用担当　宛
E-maill: noda@stf.neec.ac.jp　教育･学生支援部　野田

入学金免除制度

学校法人片柳学園の設置する学校（日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東京工科大学）卒業生子女、兄弟姉妹および孫又は在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度です。

該当する方は以下のいずれかの方法で用紙を取り寄せ、出願時に出願書類と共に提出してください。

兄弟姉妹同時入学の場合は、一人分の適用となりますので入学後に教育･学生支援部へ申請し、手続を行ってください。

※「入学金免除申請書」の受付は、2019年3月29日（金）までとします。

「各種資料請求用紙」にて請求

入学募集要項の
「各種資料請求用紙」にて請求
▼
教育･学生支援部より
「入学金免除請求書」を送付
▼
必要事項を記入･押印
▼
出願書類と共に教育･学生支援部へ郵送

WEB

日本工学院専門学校ホームページ
（www.neec.ac.jp）
▼
画面右側、「卒業生のみなさんへ」
▼
入学金免除制度説明ホームページ
（www.neec.ac.jp/graduate/ob.html）
PDFファイルにて
「入学金免除申請書」をダウンロード
▼
必要事項を記入･押印
▼
出願書類と共に教育･学生支援部へ郵送

かまた題字作家紹介

本校校友会誌の表紙題字は人間国宝の芹澤銈介（セリザワ ケイスケ）先生の筆によるものです。先生は本校6号館東側に流れる呑川の上流約150mに架かる馬引橋近くに、昭和9年から居を構えられ、爾来50年にわたって蒲田の地で型絵染の創作活動に没頭されておられました。昭和42年（1967年）10月発行の日本電子工学院研友会（校友会の前身の名称）会誌第2号以来表紙を飾っています。

芹澤 銈介 先生　略歴

明治28年（1895）静岡市に生まれる。
大正 5 年（1916）東京高等工業学校図案科卒業。
大正14年（1926）朝鮮の旅に出て京城及び慶州仏国を訪れる。往路、船中にて「大調和」誌の口絵及び柳宗悦氏の「工芸の道」に感動、生涯の一転機となる。
昭和 3 年（1928）沖縄紅型に感銘を受ける。
昭和 6 年（1931）雑誌「工芸」が創刊され、その表紙を一年間受持つ。その型染布表紙は装幀の仕事への端緒となる。
昭和 7 年（1932）国画会会員・川端康成「雪国」装幀。
昭和 9 年（1934）東京蒲田町に移る。初めて仕事場に恵まれる。
昭和13年（1938）柳宗悦氏他民芸同人と共に沖縄に渡り紅型の技を受ける。
昭和20年（1945）型染めカレンダー創始。
昭和24年（1949）女子美術大学教授となる。
昭和31年（1956）型絵染で重要無形文化財保持者（人間国宝）の指定を受ける。
昭和38年（1963）大原美術館工芸館第二期の棟方・芹澤両館落成。
昭和41年（1966）スペインのバルセロナにあるカタルーニャ美術館を訪れ、永年の念願を果す。その程復途上、エジプト、トルコおよび欧州各地を巡遊。紫綬褒章を受ける。
昭和51年（1976）文化功労者となる。フランスの国立グラン・パレ美術館において「芹澤介展」開催。
昭和58年（1983）フランス政府から芸術功労勲章を贈られる。
昭和59年（1984）4月5日死去（享年89歳）。

個人情報保護についての取組み

日本工学院専門学校校友会（以下校友会）では、個人情報保護法に基づき会員の個人情報の保護について、以下の取組みを実施しております。

◆校友会が保有する個人情報の適正な取扱いをするために、個人情報の保護に関する規程を定めました。
◆会員の個人情報は、必要な情報のみを適正かつ公正な手段によって収集させていただいております。得られた個人情報は、校友会に関する目的（校友会誌「かまた」並びに「校友会会員の集い」の案内・議事録の発送、出欠の確認、学校法人片柳学園からのお知らせなど校友会が認めた業務）のみで使用いたします。また、会員に対する校友会窓口（koyukai@stf.neec.ac.jp）を明示し、会員からの連絡が速やかに受けられるように致します。
◆校友会では、会員よりいただいた個人情報を適切に管理し、会員本人の同意がない限り、校友会以外の第三者に対する個人情報の提供は致しません。
◆個人情報の取扱いを含む業務を委託する場合は、受託者との間で契約により個人情報の再提供・漏洩などをしないよう義務づけを致します。
◆会員が自己の個人情報に関して、開示・修正・変更等を希望される場合には、校友会窓口（koyukai@stf.neec.ac.jp）までご連絡いただければ、迅速に対応致します。
◆校友会では、上記の項目について、見直し・改善の必要が発生した場合には、適宜対応していきます。

～会員近況メッセージ～

お元気ですか?

全国から、海外からこの1年間に、校友会事務局に届いた会員の皆さんの近況報告。
思わぬ名前を見つけて、懐かしい顔や声が思い浮かんだり、その元気そうな様子にほっと胸をなでおろしたり･･･。
このコーナーが、そのような温かい出合いや思いを多くの皆さんにお届けできたら幸いです。なお、誌面の都合で掲載できなかったお便りもありましたことをおわびいたします。

氏名（旧姓）／住所（都道府県）
学科／期の順で表示しています。
［順不同］　※イラストはイメージです

室橋 浩　群馬県
サービス技術科　第25期生

あれから、うん十年? 何だかんだで、あと一年で定年を迎えます。まだまだ仕事はしていかないと生きていけません! 第2の人生、スローでいきたいと思います。フェイスブックもやってますので、良かったら25期のみんなお声がけください。

藤山 陽一　東京都
放送技術部　第2期生

東京タワーがオープンした年にテレビ放送技術の取得を目指して入学し、卒業以来全く校友会の存在を知りませんでしたが、思いもかけずフェイスブックを介してメールが入り、その存在を知ることができ、大変懐かしく思いました。当時の同期の方、特に技術士の方がいらっしゃったらぜひ旧交を温めたいと考えています。。

小島 崇行　東京都
演劇科　第6期生

No.53の表紙が私の同期の絵だったので、思わず筆を取りました。在学中から講師である本田重春先生に弟子入りし、卒業後は（一社）現代舞踊協会会員となり、舞踊家として活動してきました。現在はダンサー兼振付師、指導者として踊り続けています。舞踊生活36年!今やレパートリーはモダンコンテンポラリー、ジャズ、バレエ、アルゼンチンタンゴと多種にわたります。

安田 幸一郎　千葉県
医用工学科　第5期生

息子と東京工科大学のオープンキャンパスに参加させていただきました。28年ぶりの校舎はすべて新しくなっており、蒲田の町並みもすっかり変わってしまいびっくりしました。。

麻生 真吾　東京都
インターネット科　第1期生

卒業から20年、蒲田に住むことになりました。学生時代毎日目指した蒲田駅から今度は職場に向かっています。何かと縁がある地のようです。

曽我部 治　京都府
放送制作芸術科　第3期生

ふとしたことで、工学院校友会NeTを覗かせていただきました。きっと多くの卒業生がご活躍のことと思います。私も、工学院での生活は初めての一人暮らしの出発点であり、学生時代を終えた最終の学校でもあります。この歳で今更ですが、自分の人生の足跡確認の意味も込めて、改めて現状発信させていただこうと思います。これからも、益々の学校発展を期待したいと思います。

清水 俊明　福井県
電子工学科　第40期生

卒業して38年経ち私も来年定年となります。会社でも30年の永年勤続表彰を受けました。長いようで短く感じいろいろな人と仕事をさせていただき、ありがとうございました。

笠原 俊幸　静岡県
音響芸術科　第5期生

21年住み慣れた家から母の介護施設入居を機に市営住宅当選もあって転居しました。引っ越し期間1ヵ月強!エレベーターなしの5階でなかなかしんどかったですが、新しい自分の城にすべく片づける毎日です。Facebookなどもやってますので、この名前に見覚えのある方は是非ご連絡を。とりあえず生きております。

山口 暁生　東京都
情報処理科　第46期生

卒業してからもう15年も経ってしまったのかと、月日の経つ早さに驚いています。卒業後、アニメーションの専門学校にも通い、現在はアニメーションの製作会社で演出や演出助手の仕事に携わっています。今年は長年の夢だった大学に編入学しました。通信制大学ですので、仕事と両立するのが大変ですが、自分のやりたいこと、勉強してみたいことに向かって、努力し続けたいと思います。

渡辺 一雄 東京都
放送制作芸術科　第5期生

約40年前に在学していた頃の蒲田キャンパスは周辺の道路の再開発を含め一変しました。学んだ旧1、2号館の姿もありません。しかし、在校生の姿を見ると我々の時代と同じ生き生きとしている姿は今も同じく輝いています。

高橋 一夫 埼玉県
ソフトウェア科　第8期生

会誌No.53に、懐かしい名前を見つけました。私は今、NPO法人の経理担当をしています。娘は結婚して戸塚に住んでいます。。

竹中 真人 神奈川県
電子工学科　第34期生

平成28年3月にて退職しました。電電公社、NTT、NTTドコモと40年勤めました。蒲田で学んだ事が役に立ちました。無線一筋の仕事でした。

山中 邦啓 神奈川県
放送制作芸術科　第13期生

三鷹市芸術文化センターで音響の仕事をしています。

平野 尚作 東京都
電気工事科　第21期生

2017年4月より仙台に単身赴任中です。これまで、電気から通信、土木まで勉強し、現在は建築を勉強中です。日々勉強がやっとクセになりました。

谷相 勇一 東京都
放送制作芸術科　第12期生

フリーランスカメラマンを続け、2017年5月に大田区に舞い戻ってきました。

齋藤 峰生 三重県
情報技術科　第21期生

三重に移り住み7年目です。東海物産（株）で植物工場を作っております。植物をコンピュータで管理するのはアナログな部分とデジタルな部分のインターフェースが重要で難しいですが面白いです。小規模農家でも使えるコストに見合った植物工場を増やしていきたいですね。

櫻井 崇 神奈川県
Webシステム科　第9期生

同級生の平田未来さんと結婚し、子供も生まれました。

大西 俊雄 愛媛県
電気工学科　第15期生

第2の青春を謳歌（定年退職）して4年余りですが、卒業後30年経過した今でも母校での実験や考査の夢を見ては冷や汗をかいたり（笑）学生時代を懐かしんでいます。

岩野 勝 新潟県
電子工学科　第51期生

卒業してから27年が経ち、やっと念願の一戸建てを購入することができました。学校で習ってきたことは、少なからず役に立っています。これからも頑張ります。

番場 日出喜 岐阜県
電子工学部　第20期生

本年、古稀を迎えます。最近特に同時代を過ごした友人に会いたいと思うことが多くなりました。

滝 昌司 岐阜県
家電電子技術科　第36期生

先日、長男の大学のオープンキャンパスがあり、蒲田から川崎を通り抜けて横浜に向かったとLINEが届きました。大きな学校だったと話を聞き、20数年経ち同じ景色を見るなんて感動しました。

前田 安緒 静岡県
電子工学科　第20期生

㈱アイエイアイ（産業用ロボットの総合メーカー）が子供向けに販売している「ミニロボ」（サッカーロボ）を取り扱っています。ミニロボは現在静岡県内だけで売っていますが、将来は全国に広まると思います。ホームページでミニロボと検索してください。

下川原 健 静岡県
環境工学科　第16期生

昨年より長女がお世話になっております。寮への引っ越しに際し、久しぶりに蒲田に赴きましたが、蒲田駅や校舎周辺の変わり様に驚きました。親子二代で通う事など、私の通学時は想像もできず時の流れを感慨深く思います。同期の皆さんはお元気でしょうか?

高橋 峰樹 青森県
美術科　第7期生

旺玄会青森支部で作品を定期的に発表しています。似顔絵師としてもいろいろな所で顔を出しています。機会がありましたら宜しくお願い致します

齋藤 春花 京都府
CG映像科　第11期生

とても雰囲気の良いゲーム会社で
背景作ってます～!
夢が叶ってよかった!!
ありがとう工学院!!

髙内 清司 滋賀県
電子工学科　第37期生

昨年秋に勤務先㈱キーエンスを定年退職しました。気楽に暮らしています。

児玉 徹 和歌山県
放送制作芸術科　第1期生

早くリタイアして悠々自適な生活がしたいと思うがそうも行かず。未だにITやらAIやらに振り回される毎日。でも音楽は続けてます!!

松本 政己 大阪府
メカトロニクス科　第2期生

はり師・きゅう師の免許を得たのが12年前でした。干支も一巡りして、はり・きゅう院院長として頑張っています。メカトロニクスとはずいぶん遠いところへいきましたが…!

植木 敏郎 新潟県
立体製図科　第4期生

毎日家族のために野菜作りに励んでいます。4世代7人で同居しています。

小林 和典（旧姓：増尾） 長野県
デザイン科　第5期生

30数年間、印刷業やデザイン業に携わってまいりましたが、一昨年に退社して今は自動車整備の塗装部門に勤務しております。新天地でもう一花咲かせますよ!

田中 良一 石川県
情報技術科　第21期生

ぼちぼち老眼が出始めてきて体の衰えが気になります。

本田 良樹（旧姓：増尾） 富山県
電子工学部　第24期生

ベトナム・インドネシアと11年海外におり、昨年末に日本に帰りました。

田村 浩美 秋田県
CAD設計製図科　第25期生

昨年の3月頭に緊急入院をし、4月中ごろに約20年ぶりに地元秋田に戻ってきました。療養しながら転職活動してますが、東京で学んだ知識や技術を活用できなく、正直身体が全快したらまた東京に戻ろうかと思っています。大病になって初めて身体が大事という事を学びました。

井垣 武彦 岡山県
放送技術部研究科　第1期生

母校の創立70周年、校友会の50周年、おめでとうございます。昭和39年に放送技術部研究科を卒業、3年お世話になった蒲田の1号館を懐かしく感じています。お蔭様で卒業間際に第1級無線技術士の資格を取得し、山陽放送での放送技術業務に活かすことが出来ました。喜寿を迎え、日本民法クラブ岡山支部で他局のOB･OGと交流を深めています。

大久保 明美（旧姓：守田） 広島県
情報処理科　第23期生

介護士として頑張っています。
お年寄りの笑顔は最高です。

青木 孝行 茨城県
放送技術部　第16期生

今はパナホーム筑波工場で働いています。学校の発展を祈っています。

土屋 裕樹 大分県
放送制作芸術科　第11期生

もう放送制作の仕事には携わっていませんが、介護職で頑張っています。来年資格を取りに関東に行くので、母校を見て帰りたいと思います。

井口 郁生 鹿児島県
環境工学科　第10期生

先日娘が結婚して、もうすぐおじいさんになります。同期のみんなもジジイ、ババアになってるのかな。

佐藤 義治 宮城県
サービス技術科　第28期生

2年余りで定年となる歳となりました。昨年まで現場の責任者でしたが、今年から総務課長として働いています。学校での知識と人生の経験が役に立っていると思います。

佐伯 満也 島根県
公害工学科　第8期生

マンガ・アニメーション科とコラボレーションして、「出雲神話オオクニヌシの神語り」を製作中です。大作であり、古事記、日本書紀に出雲国風土記と地元の伝承を織り交ぜた話です。

宮﨑 秋信 佐賀県
電気工学科　第9期生

九州電気保安協会に勤続36年、
現在嘱託員で頑張っています。
孫の笑顔が活力源です。

中嶋 久男 福岡県
電子工学部　第26期生

今年45年間勤めたNTTフィールドテクノ九州を最後に完全退職しました。工学院を卒業し大阪採用され45年間、その間に同級生と会ったのは2人だけ。全国に散らばった友人たちが懐かしく思える今日この頃です。退職後は農作業を楽しんで過ごしています。

中野 康樹 群馬県
テレビ放送技術科　第32期生

息子が入学検討中でオープンキャンパスに2度も行ってしまいました。卒業当時の面影はほとんど残っておらず、ちょっと淋しい気も。

喜多村 昭二 群馬県
電子工学科　第37期生

地元ローカルテレビ局　群馬テレビ(株)にて常務取締役、技術局長を務めています。

飯田 淳一 茨城県
電子工学科　第56期生

卒業後2回ほど転職し、基板設計→基板実装OP→トナーカートリッジのキーパーツ製造を経験しました。現在はキャノン(株)取手工場に出向し、複写機を製造しています!

袴田 慶一 埼玉県
医用電子工学科　第4期生

当校を卒業後、所在地不変のまま外資系医薬品会社を経て、現在受託製造(医薬品)会社に勤務しています。倉田先生、権先生にお世話になりました。水島さん、西さん、天ケ谷さん、前野さん、城間さん、嘉数さん、元気にしてますか?

宮原 純 東京都
テレビ放送技術科　第31期生

現在日本郵便社員と僧侶の兼業です。毎日のように工学院を見ながら通勤しています。

佐藤 光夫 東京都
電子工学科　第26期生

今年久しぶりに日本工学院に行きました。周りおよび本校がすっかり変わりびっくりしました。

本郷 敏明 東京都
電子工学科　第46期生

現在福祉の仕事を行っております。東京都府中市にて、介護支援専属員(ケアマネジャー)の業務を行っています。

杉森 敏昭 北海道
テレビ専門部　第11期生

まだ現役で頑張っています。測定器にてテレビ電波、無線設備等の調査をおこなっています。

山本 能弘 愛知県
放送制作芸術科　第3期生

一昨年NHKを退職し、現職場に転籍いたしました。引き続き番組制作の音声を中心とした制作技術を担当しています。

山口 隆弘 三重県
家電電子技術科　第34期生

工学院を卒業して、町の小さな電気店を営み今年で30年になりました。いつも校友会誌を見せていただき、懐かしさと工学院の発展に驚いています。

中野 憲一 静岡県
電子工学部　第20期生

昭和44年電子工学部卒業後、現在のヤマハ(株)に入社しまして電子楽器一筋でした。定年前後には15年ほどジャカルタ在住で2011年に帰国となり、現在に至っています。趣味のアマチュア無線と早朝のウォーキングを日課として楽しんでいます。

赤塚 修一 北海道
情報技術科　第9期生

学んだこととは無関係のアパート業を営んでいます。70歳になりましたが、マラソンやスキーを趣味として元気に過ごしております。

三井 隆儀 北海道
放送技術部　第14期生

ミツイコーポレーションは設備・不動産賃貸と道北一のオフィス及び厨房品のリサイクル店を経営しております。旭川も不景気なので、近年はリサイクルに力を入れて、毎日市内、道内を走りまわり頑張っています。北海道にいらした時は是非お立ち寄りを! 年中無休です。

陰山 文(旧姓:宮﨑) 静岡県
情報処理科　第22期生

期待に夢ふくらませ工学院の門をくぐってからはや40年…蒲田の街は素敵に変わりましたね。二年間でしたが寮にお世話になり、寮の仲間とはこのごろLINEで繋がるようになりました。子育ては終わりましたが、両親の介護の生活です。今はコンピュータとは関係はないですが…就職した会社の関連会社で20年ほどパートで働いております。

会員からのお便りでした! これからもたくさんのお便りお待ちしております!

心からご冥福をお祈り申し上げます。

校友会会員の次の方々の訃報が届きました。

重近 清一さん	昭和63年	CAD設計製図科	16期卒業	平成28年1月17日	没
石橋 宏明さん	昭和53年	演劇科	1 期卒業	平成29年2月	没
渡辺　広さん	平成10年	音響芸術科	16期卒業		
松尾 英則さん	昭和58年	音響工学科	1 期卒業		
大竹 利博さん	昭和58年	音響工学科	1 期卒業		
村岡　洋さん	平成元年	音響工学科	7 期卒業		
君島 淳一さん	昭和62年	環境工学科	14期卒業	平成29年4月	没
淵沢 弘幸さん	昭和36年	研究科	31期卒業	平成28年12月13日	没
沖平 桂樹さん	昭和53年	公害工学科	5 期卒業	平成28年7月20日	没
坂本(金坂) 由貴さん	平成22年	コンサートイベント科	15期卒業	平成27年10月27日	没
米田 忠司さん	昭和53年	サービス技術科	23期卒業	平成26年4月14日	没
川岸 郁夫さん	昭和53年	サービス技術科	23期卒業		
堀口 充仁さん	昭和60年	サービス技術科	31期卒業	平成29年2月2日	没
矢沢　要さん	昭和52年	情報処理科	18期卒業		
荒口 裕美さん	昭和55年	情報処理科	23期卒業		
小林　健さん	昭和56年	情報処理科	24期卒業		
湯浅 雅孝さん	昭和57年	情報処理科	25期卒業	平成29年6月9日	没
堀内　治さん	昭和63年	情報処理科	31期卒業		
仁科 佳希さん	平成11年	情報処理科	42期卒業	平成28年年7月23日	没
大久保 政治さん	平成17年	情報処理科	48期卒業		
松田 宗徳さん	平成25年	情報処理科	56期卒業		
高橋 俊二さん	昭和49年	ソフトウェア科	13期卒業		
鈴木 清三さん	昭和47年	ソフトウェア科	8期卒業	平成27年2月8日	没
若山 幸司さん	昭和48年	ソフトウェア科1年制	12期卒業		
山田 博実さん	昭和38年	テレビ専門部	1 期卒業	平成26年9月22日	没
佐々木 公之さん	昭和52年	テレビ放送技術科	27期卒業		
鈴木 正道さん	昭和54年	電気工学科	16期卒業	平成28年7月	没
齊藤 功司さん	昭和61年	電気工学科	23期卒業	平成28年9月9日	没
横内 秀樹さん	平成 3 年	電気工学科	28期卒業	平成28年12月29日	没
森　孝雄さん	昭和63年	電気工事科	15期卒業	平成28年3月25日	没
武本 大紀さん	平成10年	電気工事科	25期卒業	平成29年9月30日	没
中村 英美さん	昭和44年	電子計算機部	1 期卒業	平成26年9月	没
澤村 俊猛さん	昭和49年	電子工学科	30期卒業	平成28年	没
川瀬 文則さん	昭和49年	電子工学科	30期卒業		
根本 次郎さん	昭和49年	電子工学科	31期卒業		
多治見 光信さん	昭和51年	電子工学科	34期卒業	平成27年8月4日	没
小谷野 忠行さん	昭和56年	電子工学科	42期卒業	平成27年	没
山口 友久さん	昭和62年	電子工学科	48期卒業	平成27年7月15日	没
金澤　徹さん	昭和62年	電子工学科	48期卒業	平成29年7月25日	没
横山 昌広さん	昭和62年	電子工学科	48期卒業	平成26年	没
吉田 清高さん	平成 元年	電子工学科	50期卒業		
松岡 広樹さん	平成 元年	電子工学研究科	26期卒業		
中山 松寿さん	昭和51年	電子工学部研究科	13期卒業		
多田 宣義さん	昭和42年	放送技術部	16期卒業	平成29年4月	没
郷木　昇さん	昭和38年	放送技術部	8 期卒業	平成29年3月23日	没
田中 善尚さん	平成29年	放送制作芸術科	6 期卒業	平成29年3月14日	没
数藤 和義さん	昭和50年	レーザー工学科	4 期卒業	平成28年9月16日	没

日本工学院専門学校　校友会会員の皆様

特典！

三井住友トラスト VISA ゴールドカード
年会費割引のご案内

◎三井住友トラスト VISA ゴールドカード

通常年会費　**10,000 円**+税が、2年目以降も　**2,500 円**+税**に割引！**

（ご家族会員は、1,000 円 ＋ 税）

◎ロードサービス VISA ゴールドカード

通常年会費　**11,000 円**+税が、2年目以降も　**3,000 円**+税**に割引！**

（ご家族会員は、1,000 円 ＋ 税）

■主なゴールドカードの付帯サービス

（ゴールドカード・ロードサービスゴールドカードに共通の付帯サービス）

●最高 5,000 万円の海外・国内旅行傷害保険（一部カード利用条件）　●空港ラウンジサービス
●ドクターコール 24　●お買物安心保険

■ロードサービス VISA ゴールドカードの付帯サービス（上記のゴールドカードの付帯サービスに加え）

●緊急サポートサービス　●帰宅・宿泊サポートサービス（レンタカーサービス、帰宅費用サポート、緊急宿泊費用サポート）

詳しくは、

ご入会キャンペーン実施中!!

同封のチラシをご覧下さい。

皆様のお申込をお待ちしております！

三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト・カード

日本工学院の「再入学優遇制度」

日本工学院を卒業後、本校の他学科に再入学をする場合、入学金を免除し、また学費も減免いたします。

日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校の2年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科へ再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除および授業料等の減免をする制度です。
日本工学院は、2つの学科の専門知識・技術を習得することで、将来の活躍の幅を広げたい方を応援します。

対象者　日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校2年制学科以上の卒業生、または当該年度卒業見込みの学生

条　件　希望する学科の定員に余裕がある場合に限ります

再入学優遇制度内容	選考料	全額免除	入学金	全額免除
	授業料	在学中半期ごとに15万円減免（年間最大30万円） ※半期ごとに申請審査をして決定します		

※「片柳学園給付型奨学金制度」「片柳学園入学金免除制度」「留学生奨学金制度」との併用はできません
※金額については、再入学年度用募集要項をご参照ください

日本工学院専門学校　教育・学生支援部　☎03-3732-1111㈹
日本工学院八王子専門学校　教育・学生支援部　☎042-637-3111㈹

CONTENTS

表紙のことば　学園長･名誉顧問　片柳　鴻 …… 表2
新生片柳学園の船出を祝う会 …… 表2
片柳学園創立70周年記念祝賀会 …… 1
校友会会長　桂田 忠明 …… 3
日本工学院専門学校 理事長　千葉　茂 …… 4
日本工学院専門学校 校　長　前野 一夫 …… 4

校友会だより
第29回通常総会報告 …… 5
「校友会ラウンジ」利用規定 …… 8
平成29年度支部会員の集い
北海道支部 …… 9
青森県支部／宮城県支部 …… 10
秋田県支部／山形県支部 …… 12
茨城県支部／首都圏支部 …… 14
新潟県支部／富山県支部 …… 16
石川県支部／長野県支部 …… 18
岐阜県支部／静岡県支部 …… 20
三重県支部／京･滋支部／近畿支部 …… 22
岡山県支部／広島県支部 …… 24
山口県支部／大分県支部 …… 26
鹿児島県支部／沖縄県支部 …… 28
平成30年度支部事業 支部会員の集い開催予定 … 30

平成29年度 会員の集い「講演会報告」 …… 31

日本工学院ニュース
平成29年度卒業証書授与式 …… 42
平成30年度入学式 …… 42
第52回かまた祭 …… 43
第49回体育祭 …… 43
第53回「かまた祭」のお知らせ …… 44
かまた祭「会員の集い」のお知らせ …… 45
校友会Facebookのご案内 …… 46
ソーシャルメディアポリシー …… 47
キャリアサポートセンターからの報告 …… 48
写真でみる 校舎の変遷 …… 49
蒲田校 学科の変遷 …… 50
～先生から一言～ 学科から卒業生へ …… 54
企業奨学金について …… 57
教職員退職者報告 …… 58
日本工学院専門学校 教員募集のお知らせ …… 58
入学金免除制度 …… 59
かまた題字作家紹介 …… 60
個人情報保護についての取組み …… 60
～会員近況メッセージ～ お元気ですか? …… 61
「再入学優遇制度」のお知らせ …… 77
創立70周年･校友会50周年記念モニュメント時計 … 79
旧校舎から新校舎建設の歩み …… 80
「片柳学園給付型奨学金」のお知らせ …… 表3
学校法人片柳学園 各学校のご案内 …… 表4

学校法人 片柳学園
日本工学院専門学校　校友会誌　かまた　No.54
平成30年8月31日発行

◉お問い合わせ
校友会事務局
〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22　TEL. 03-3732-8183　FAX. 03-3732-1576
校友会ホームページ　http://www.kouyukai.net　　メールアドレス　koyukai@stf.neec.ac.jp

片柳学園 創立70周年･校友会50周年記念 モニュメント時計

校友会は、2017年10月、片柳学園創立70周年と共に校友会創立50周年を記念して、蒲田キャンパスの庭園にモニュメント時計を寄贈させていただきました。セントラルプラザのモニュメント時計は、これからも片柳学園･校友会の進展と繁栄の時を刻み続けます。

モニュメント時計工事の様子

学校法人片柳学園

旧校舎から新校舎建設の歩み

2010年(平成22年)、蒲田キャンパスは、街のランドマークとなる超未来的空間へと生まれ変わりました。

地下1階地上20階建ての3号館は比類のない最先端の学習環境。約600名を収容する階段教室をはじめ、ユビキタスな環境を整えたインターネットラウンジ、明るく広々とした図書館などを備えた施設です。

そして2014年6月より「蒲田キャンパス再整備事業」の建設工事に着手しました。クラブハウス棟(新1号館)、実習棟(新2号館)を建設、さらには庭園のセントラルプラザとその地下に「片柳アリーナ」を設けました。

片柳学園は教育環境のさらなる充実を図り、学生一人ひとりの夢を育て、鍛え、そして確実に羽ばたかせる場所を目指し、日本工学院 蒲田キャンパスはこれからも社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいきます。

2007年(平成19年)

2008年(平成20年)

2009年(平成21年)1月～7月

2009年(平成21年)8月～12月

2010年(平成22年)3月

2010年(平成22年)8月

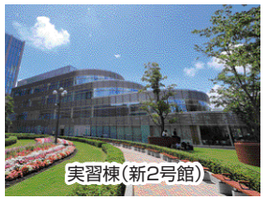
2011年(平成23年)

2014年(平成26年)

2016年(平成28年)

2018年(平成30年)現在

クラブハウス棟(新1号館)



実習棟(新2号館)

セントラルプラザ

片柳アリーナ

日本工学院
片柳学園給付型奨学金

日本工学院は、社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や、経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金(6タイプ)を給付します。

※対象：2019年度入学生

	プラン	対象者	給付額	定員※6	審査	採用試験(二次審査)日 (申請受付期間)
新卒者向け (2019年3月高等学校卒業見込みの方または卒業後1年以内の方)	成績優秀者特待生	次のすべてを満たす方 ・高等学校の評定平均値4.0以上の方 ・高等学校3年間の欠席日数が7日以内の方 ・高等学校の先生の推薦のある方	50万円 1年次後期20万円 2年次前期30万円 ※5	100名	一次審査 ●書類審査 二次審査 ●筆記試験(一般常識・小論文) ●面接試験	受験場所：入学希望校 8/18(土) (2018 7/9～31) ※7 就学支援奨学金 留学生特待生 を除く 9/15(土) 8/20～9/6 ※8 留学生特待生 は8/29～9/6 10/20(土) (10/1～11) 留学生特待生 を除く 11/17(土) 10/18～11/8 留学生特待生 は10/15～11/8 1/19(土) (12/6～2019 1/10) 2/9(土) (1/17～31) 3/2(土) (2/7～21) 受験場所：本校以外※9 留学生特待生 を除く 9/12(土)・13(日) (2018 7/23～8/20) ※7 11/24(土)・25(日) (10/24～11/14) 2/23(土)・24(日) (2019 1/24～2/14)
	課外活動優秀者特待生	次のすべてを満たす方 ・課外活動における優秀な成績を修めた方 (次の①～③のいずれか) ①高等学校文化連盟や体育連盟等所属のクラブ活動の大会で所定の成績を修めた方 ②高等学校が①相当以上と認める大会等で優秀な成績を修めた方 ③本校主催のコンテスト等で上位に入選した方 ・高等学校の先生の推薦のある方	30万円 1年次後期20万円 2年次前期10万円 ※5	100名		
	資格特待生	次のすべてを満たす方 ・本校所定の資格を1つ以上取得した方 (実用英語技能検定 2級以上、実用数学技能検定 2級以上、日本漢字能力検定 2級以上、TOEIC400点以上、その他 工業系資格、商業系資格ほか ※3) ・高等学校の先生の推薦のある方	10万円 1年次後期 採用試験結果により給付額を決定します	100名		
	就学支援※2奨学金	日本学生支援機構奨学金予約採用者(予約申込中の方も含む)で、次のすべてを満たす方 ・高等学校の評定平均値3.5以上の方 ・出席良好の方 ・世帯年収450万円以下の方 ・高等学校の校長先生の推薦のある方	自宅通学者 30万円 入学時20万円 ※4 1年次後期10万円 自宅外通学者 42万円 入学時20万円 ※4 1年次後期22万円	200名		
既卒者※1向け	再進学特待生 再チャレンジ応援学び直し優遇制度	高等学校を卒業した方 本校以外の専門学校を卒業した方 短期大学を卒業した方 大学を卒業した方 社会人の方	30万円 1年次後期20万円 2年次前期10万円 ※5 10万円 1年次後期 採用試験結果により給付額を決定します	100名		
留学生向け	留学生特待生	●日本語学校に在籍し出席率90%以上で、かつ次の①～④のいずれかに該当する方 ●日本語学校在籍者以外で、次の①～③のいずれかに該当する方 ①日本語能力試験1級(N1)合格者 ②日本留学試験(EJU)260点以上取得者 ③国内あるいは外国の大学を卒業した方(学士取得者) ④上記と同等の能力があると、日本語学校の校長先生が認める方	36万円 1年次後期20万円 2年次前期16万円 ※5	100名	一次審査 ●書類審査 二次審査 ●筆記試験(日本語能力・作文) ●面接試験	

※1 高等学校卒業者、文部科学省高校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校3年以上修了者、本校学校長が認める学校を卒業した方。
※2 専門学校生の授業料等の負担軽減を支援する文部科学省の制度(計画中)により、国からプラスの補助を受けられる場合があります。
※3 その他の資格は「片柳学園給付型奨学金要項」をご覧ください。
※4 就学支援奨学金に採用された方は、初年度学費の分納(月払い)が選択できます。
※5 2年次の給付可否は、進級時に再度審査のうえ決定します。
※6 定員に達し次第、締め切ります。
※7 AO入試エントリーの方のみ対象。
※8 AO入試エントリーの方、既卒の方および留学生のみ対象。
※9 開催地は「片柳学園給付型奨学金要項」をご覧ください。

注意事項(各奨学金共通)
●学業・人物ともに優秀な方を対象とします。
●奨学金給付審査料は無料です。ただし、推薦入学、一般入学、AO入学の選考料は、一・二年制学科 20,000円、三・四年制学科 25,000円です。
●採用試験結果により採用・不採用を決定します。 ●給付方法は、学費納入金からの減額です。
●休学または退学等をする場合は、給付額を返還していただきます。
●本校の他の特待生制度および再入学優遇制度との併用(併給)はできません。ただし、片柳学園入学金免除制度、片柳学園貸与型奨学金(申請資格該当者)との併給は可能です。
●申請方法・その他の詳細は、「片柳学園給付型奨学金要項」でご確認ください。

楽しく学んで、しっかり就職。

日本工学院

クリエイターズカレッジ　デザインカレッジ　ミュージックカレッジ　ITカレッジ　テクノロジーカレッジ　医療・保育カレッジ　スポーツカレッジ

日本工学院専門学校
0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22
日本工学院八王子専門学校
0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1
●URL http://www.neec.ac.jp/ ●Eメール info@neec.ac.jp

片柳学園 給付型奨学金要項 のご請求は、左記フリーダイヤルまで。